居ると云ふことを口癖のやうに言ふのである。其の男が私の所へ來ても急に其處へ坐ることが出來ない、坐敷に這入ると云ふと、凡そ五分ぐらゐの間立つた儘で横へ逡巡るやうなことをして居る。而して後に漸く椅子に腰を掛ける。それから其の男に話をすると、當り前の挨拶をする。併し又「親戚の者が寄つて訴訟を起し、私の財産を横領しやうとして居る」と言ふから「そんなことはありませぬ」と云つても承知をしない。種々話をして暇を告げ、又玄關を下りて下駄を穿かうとすると、其の下駄を穿いた儘で、凡そ五分の間二間ぐらゐも右左に動いて居る。て其の他の事は當り前のことを喋つて居るのですから、是れは必ずしも低能と云ふのではありませぬ。高等心力が缺乏して居るのである。私は氣の毒ながら其の人は心力墮廢と云ふ病氣であるまいかと云ふことを言つたこともあるです。即ち詳しく申しますると然う申すことが出來るのであります。而して茲に殊に注意したいのは即ち犯罪も一種の異常であつて、而も夫れは高等心力の缺乏したものであると云ふことの一點に在ります。是れは次の時間に詳しく申します。

斯う云ふやうな異常兒に就ては學問上種々の分類法もあるのでございますけれども、一寸學校などで斯う云ふやうなことを一々分けることは、或は手數が掛つて困難であらうかと思ふ。それて普通に異常兒のことを論ずるのには、もう少し簡單な分類法が欲しいと思ふのであります。昨年の學會に於て簡單なる分類を提出した人がある。それは異常兒を僅か三種類に分つのでありますから、今日は其の簡單なる分類を土臺として種々と講義をして行きませう。其の簡單なる分類と云ふのは誰がしたかと言ふと、同じく佛蘭西の醫者であつて、夫れはブランゼーと申します。此のブランゼーと云ふ人は只今も申す如く、極く簡單に異常兒を分けて三種類とした。第一番は即ち低能であります。それから第二番は不順であります、言ふことを聽かぬ。第三番は本當の異常である。これこそ瘋癲や白痴などと云ふ異常である。だから廣い意味で云ふ異常兒を區別して、低能兒と、それから不順兒と、それから異常兒とにしてある。低能兒と云ふのは其の方の意味から言ひましたならば、もう少し他の名を附ける方が宜いかとも思ふ。それは何と云ふ名を附けるかと言ふと、落後と云ふ名が一番宜い。或は低能とか、或は劣等とか、種々の譯がありますけれども、佛蘭西の言葉から云へば人と一緒に競爭が出來なくて、當り前の子供より後に落ちてしまふのでありますから、即ち低能ではありまするが、是れは落後と云ふのが一番に宜い。それから不順は所謂訓練を受けることの出來ない者である。異常と

云ふのは瘋癲、白痴と云ふやうな者、或は心力墮廢と云ふ者、を一體に籠めたものであ
る。謂はゞ異常は病氣、不順は犯罪者、低能は讀んで字の如く些と足らない子供であ
ると云ふことに見たら何うでありませうか。斯う云ふ風に區別して居ります。

さて斯くの如くに區別したのでありますが、斯う云ふ者をなぜ斯樣に我々がやか
ましく言ふかと云ふと、割合に異常兒と云ふものゝ數は何れの國にも多いからであ
ります。大阪府でも既に御調査になつて居ることゝ信じまするが、京都市などでも
多少調査したことがある。今茲に西洋での最近の調査を擧げて見やうと思ひます。
第一番にお話を致しまするのは佛蘭西にバウル、ストラウスと云ふ人があつて、此人
が千九百七年、今から四年ほど前でせう、千九百七年十二月の暮に佛蘭西の上院で報
告をしたことです。是れは佛蘭西で低能兒教育の取締りをやつて貰はうと云たと
ころから起つたことであると思ひます。其の報告に依つて見まするとと、凡そ佛蘭西
中には大體四萬人ほどの廣い意味の異常兒がある。其の四萬人の中の約半數は卽
ち低能兒並びに不順兒である。後の半數は所謂癈人であると云ふやうな報告にな
つて居る。又同じ頃に佛蘭西の內務省で調査をしたところに據ると、六歲から十三
歲までの學校兒童、卽ち日本の學齡期てす、其の兒童の中に於ての百分の四から五は

低能兒並びに不順兒であると云ふことを申して居ります。又同じ頃に佛蘭西の西
の方で、彼の葡萄酒の出來るボルドーの大學で調査したところに依れば、同じく百分
の五、一七が低能であると云ふことが擧つて居ります。又同じく先刻申しました白
耳義のドモールの調査に依つて見まするとと、是れは大變に多いです。千九百八年の
調査に白耳義の學校兒童の凡そ一割、卽ち百分の十は廣い意味に於ての異常兒であ
ると云ふことを申されて居ります。此のドモールの算用は餘程廣きに失して居る
と思ひまするが、只今のところでは日本に於ても京都などでは先づ學校兒童の百分
の四が低能、或は廣い意味の異常と見ても差支へなからうと云ふとてござります。
大阪府並びに大阪市に於ては如何なる御調になつて居ますか、私は承はりたいこと
と思ふてすが恐らく是等の標準に違はぬのであらうと存じます。若し然う云ふ風
てありますれば、此の問題は矢張り教育上大切な問題であらうと信じまするから、是
れから種々其の原因等をお話いたし、而して其の療法に及んて參らうと思ひます。

先づ最初には此處に書きました此の低能、不順、異常と云ふ三つに就て、其の原因か
ら調べて參るとが必要であらうと思ひます。此の話は主として今のブランゼーの
說に據つていたすのであります。第一番は低能です。低能の原因は種々あります

が、マア五つほどに分けてある。能く御注意を願ひます。第一番は其の子供の疾病てある。大きな麻疹に罹るとか、或は何か窒扶斯の樣なものに罹るとか、子供が長患ひをする、大病に罹るといふことの爲に低能になることが多いのです。即ち其の本人の病氣てあります。第二番は兩親即ち父なり母なりが大病になるとか、或は長患ひをするとか云ふやうなことてあります。是れは自然教育、養育が行き屆かぬから起るのてござりませう。第三番は遺傳てござります。此遺傳と云ふものは所謂近親結婚、即ち近い續き合ひの者の結婚に多いやうてあります。何うも低能兒を調べて見ると、近親結婚に因る遺傳が多いやうてある。第四番は家庭が貧乏てあるとか、或は親が大酒家てあると云ふ、謂はゞ家庭の不和の爲に起つて來ることが多いやうてあります。是れは殊に御注意を願ひます。それから第五番は種々の事情の爲に學校へやること……就學させることを怠つたのてあります、所謂就學怠慢てある。先づ此の五つがブランゼーの所說に據ると低能の原因てあらうと言つて居る。それから其次の不順兒の方の原因は、是れは次の時間に詳しくお話をしまするが、ブランゼーの說に據ると一言に盡きると云ふのてす。それは遺傳ても何てもない、全く境遇の然らしむる所てある。其の罪は境遇の上に在ると云ふことを申して居ります。是れは本章の後半に詳細お話を致します。それから第三番目の廣い意味の癲白痴、或は心力墮廢、此の異常兒と申しまする方は、是れ又遺傳が多いと云ふのてす。遺傳に因らざればアルコール中毒に因つて起るもの、即ち親の非常に大酒する者の子てあると云ふやうなことが多い。それから又是れは少し申し難いてすけれども、醫者の方の言葉として御免を蒙りますが、所謂房事過度てす……房事過度の爲に起るものが多い。或は本人の手淫過多と云ふやうなこともある。斯う云ふことをブランゼーが算へて居るのてあります。ブランゼーは是れだけしか算へて居りませんが、此の問題に就ては米國に於て幸に一層新らしい研究が出來て居ります。前の說を補ふ爲に茲に其のお話をして見やうと思ふ。

米國にニューゼルシーと云ふ州がある。此のニューゼルシー州にヴァインランドと云ふ所がある。ヴァインランドと云ふのは葡萄の生える土地と云ふ義てすから暖かい所てす。紐育から餘り遠くはありませぬ。此處に先年來低能の男子並に女子のためにする訓練學校と云ふ學校が出來て居る。是れは約二十年來やつて居るのてすが、全く私立學校てす。けれども其の學校は面積を占めて居ること約百町歩てあります。隨分日本ても十萬坪などと云ふ學校がありますが、是れは大體百町

歩の地面を占めて居る。其中に大きな建物が二十五棟ほどある。どれぐらゐ生徒を養うて居るかと云へば僅かに四百人の生徒を養うて居る。併し種類々々に依り、いろ〳〵の分類があつて、其の低能を直してやり、教育することも主でありますけれども、それと同時に學問上……科學的に一體此の低能と云ふのは如何なるものであるかと云ふことを研究しやうとして居るものであります。日本人にして若し低能のことを一層研究して見やうと云つて洋行するやうな人があるならば、何でも彼でも獨逸に行く要はない。亞米利加の此の學校などにも行つて見たら、非常に宜からうかと思ふのでございます。其の成績報告に依つて少しく話をして見やうと思ふ。非常に面白い。其の報告は一體斯う云ふことである。大體一萬人ほどの兒童に就てやつたのじやさうです、だから材料が大分多い。さて第一番は大凡一萬人の兒童に就いて體格檢査を施して見ると、其の低能であれば低能であるほど身體も惡いと云ふのであります。丁度昨日のお話と同じことで、精神が低能であればあるほど身體も矢張り惡い。大體の上に於てですよ。それから第二番は昨日やかましく申しました彼の握力計を以て測つて見ました所が、低能兒中の最も劣等なものに至つては、握力計の上に何等の反應をも現はすことが出來ぬと云ふのです。握つて見よと云つても握ることが出來ないのである。低能の度合を測ることは握力計に依つて分る。即ち最劣等の低能兒に至つては、握力計に依つて何等の反應も見ることが出來ない。第三番目には何うも此の低能兒は遺傳が多いのであります。若し兩親が大酒家であるとか、或は肺結核であるとか云ふ時分には決して健康の子供のあらう理がない。健康の子供の出來ぬばかりでない、大概皆其の子供は低能であると云ふことを申して居ります。若し父母の中の一方が飲酒家であるとか、或は一方が結核であるとか云へば、それに準じて子供の半數は大概不健康である、大概低能である。要するに結核とか飲酒とか云ふことが子供の上に非常に影響するものであつて、核は啻に子供の身體を弱くするばかりでなく、延いて矢張り低能兒を拵へると云ふことを申して居ります。尚注意せねばならぬのは、其の學校で測つて見ますと、遺傳は親から直ぐに子に傳はるのでない。例へば親が飲酒家であつても子供に賢いのがある、親が肺病でも子供に丈夫なのがある。しかし又其の遺傳は多くは所謂隔世遺傳であると云ふことを申して居る。能く素人が議論をするときに、遺傳だ〳〵と云ふけれども、おれは酒を飲む、それでも子供は別に低能でないと云ふことを申して居りますが、此の遺傳は決して直接に來るばかりでなく、近頃に至つては寧ろ大概隔

世遺傳てあると云ふことを申して居る。例へば祖父のことが孫に報いるとか、曾祖父のことが曾孫に報いるとか云ふやうに、直接に親子の間に遺傳するよりも、却つて祖父或は曾祖父からして傳はると云ふことが多いさうであります。第四番は大變に面白い、低能兒の中の大凡百分の三〇と云ふものは皆罪人になると云ふのです。低能兒と云ふものは低能であるばかりでなく、百分の三〇は犯罪をする傾を持つて居ると云ふことを今云ひましたヴァインランドの學校で報告をいたして居ります。

右樣の次第であると致しますれば、更に進んで如何にして是等のものを矯して行くか、如何に夫等のものを教育するかと云ふことをお話をしなければならぬと思ひます。一體此の低能兒の教育と云ふことは歴史を調べて見ますると隨分古いことであるのです。即ち第十七世紀の半ば頃と云ふのでございますから、今から二百五十年ほど前です。審かに申しますると西洋の千六百五十六年に佛蘭西のビセートルと云ふ人が、初めて此の低能兒の教育のことをやかましく言つたのであります。もう既に二百五十年餘になりまする。併しながらそれから以來格段の進歩はなかつたのであります。で低能兒教育が大いに研究せられ出ましたのは、こゝ五十年程のとてございます。例へば米國に就て之れを申して見ますると、千八百四十八年、今からマア五十年ばかり前ですナ、衆議院に於て初めて五千圓ですね、即ち二千五百弗の金を以て試に此の低能兒教育の一學校を起したのが始めであるのです。英國に於きましても其頃であるのです。獨逸の如きはそれから後ち稍遲れていたしたのであるから、歴史を調ぶれば二百五十年の昔からやつて居ることであるけれども、實は新しいことであります。日本などもこれから進んでやるだけのことは仕なければならぬと思ひます。獨逸でも低能兒の教育を觀て來ましたが、未だ今日の獨逸の低能兒の學校教育と云ふのは書物には立派に書いてありますけれども、實際は甚だ乏しい樣です。固より獨逸にも低能兒の學級と云ふものが多いです。伯林に低能兒のために設けた學級が約九十ほどある。がそれは極めて粗末なものである。例へば學校の退けた後で二三十人の低能兒を寄せて當り前の訓導の人が行つて教へて居る。たゞ低能兒だけを寄せて教育して居ると云ふので、別に格段低能兒教育法と云ふものに就て見るべきものがないのは、同國のために惜むのであります。西洋でも低能兒教育と云ふことは今なほ甚だ幼稚のときであると云ふことを言はざるを得ぬのでございまするが、以下少しばかり其の治療法竝に教育法に就てお話を致します。

第一番にお話を致しまするは、先づ低能からとしませう。此の低能を教育する仕方は、只今のところでは露天學校を第一とするのです。學校と云へば皆こんな大阪浪華小學校立派な建物を立てねばならぬやうに思つて居り、一時は文部省などよりの種々學校建築のことに就て訓令なども出ましたが、いま歐羅巴の教育界の大勢は、教育は成るべく露天ですべきものである。殊に此の低能兒を家の中で教育すると云ふことは宜しくない。露天でやるが宜いと云ふので、例の林間學校などは卽ち之れに屬するのでございます。是れは次章に詳しくお話を致します。それから第二は水浴をやらせることであります。是れは昨日も申した通りであります。第三は光線を十分に與へることであります。第四は遊戯を奬勵する。第五は運動を奬勵する。而して其上に極く簡單な課業を授けることでございます。極く簡單な課業と云ふことに就ては、如何なる課業が宜いかと云ふことが問題でございまするが、之れに就きましてブランゼーは格段の意見を述べて居りませぬけれども、又前に立戻りまして、米國のヴァインランドの學校より報告して居るところを見ますると、子供の學科は第一に運動的練習である、卽ち體操が最も宜しい。學科と云つても低能兒を教へるのには身體の運動を練磨すると云ふことが一番である。其次は手工である

のです。それから其次は唱歌及び音樂であるのです。だから體操、手工、唱歌、音樂と云ふやうなものを主な學科とすべきである。若し更に進んで何か事柄を教へやうとしたならば、必ず書物に依つて教へやうとするな。書物に依つて低能兒を教へやうとしたら、夫れは失敗するのは無理でないのである。低能兒の教へ方は何處までも事實に據り、物に據つて教ふべきであると云ふので、夫れに就て私は由事由物斯う云ふ文字を此處に書くのでございます。卽ち低能兒の發育は實物示教で滿足しなければならぬ。此ヴァインランドの學校に於ては附屬の師範學校がある。卽ち低能兒を教へる學校の教師たるべき師範學校まで附設されて居る。然う云ふ風にして研究をいたして居るやうでございまする。

更に進んで申しまするのは不順兒です。此の不順兒の教育は如何にして之れをするかと云へば、是れは境遇に據るのであると云ふことを申しましたから、其の境遇を改良するより外はない。先刻申す通り是等は全く境遇の罪である。是れは後の方にて申します。而して最後の異常兒……病氣の者を治療するには何う致しまするかと云へば、第一は別室に置くことであります。瘋癲にしても白痴にしても此の異常兒を取扱ひまするのには先づ別室に置くことであります。さうして夫れには綺

麗な庭園を附けることであります。無論仕事をさせるのである。手工も宜しいが、殊に宜しいのは園藝であると云ふのです。此の心力墮廢などの子供には園藝が宜しいと云ふことを頻りに申して居ります。段々日本に歸つて聞いて見ても、皆同論であるやうでございます。既に園藝が宜いと致しますれば農業の宜いことは當然であると思ふ。そこで英吉利の倫敦などには、法律上此の貧民の低能兒並びに異常兒の爲に學校が公けに設けられてあるのでございます。之れを稱してゼ、ブリ、アロ、スクール、卽ち貧民法に因る學校といふのであります。是れは五歲から十八歲までの者を收容して居ります。十八歲以上の者は大抵倫敦から二十哩隔つて居る所にやり、所謂農業殖民を興して敎育いたして居ることでございます。此事には日本でも疾くに氣の注いたことで、彼の岡山孤兒院の如き、元は岡山の市中に於てやつて居りましたけれども、何うも此の孤兒なども之れを敎育するのには、先づ農業をやらせるのが宜いと云ふので、先年來日向の茶臼原と云ふ所に多少の地面を買ひまして、今彼方へ順々に移し、さうして農業をやらせることになつて居ります。で此の異常兒の敎育には園藝並びに農業が最も適當したものである。其他は手工をやらせると云ふことを申して居ります。

右樣お話を致しましたところで所謂異常兒、所謂低能兒に關することは大體了へた積りでございまするが、前に歸りまして、此の問題は白耳義に於て最も熱心に研究して居られるのでございまして、白耳義の師範學校では今や現に低能兒敎育科と云ふ一科が置かれて居ると云ふことを申すのでございます。それはいつ置かれたのかと申しますると千九百年と申すのですから、今から十年前に置かれてある。而して何う云ふことを低能兒敎育科でやらして居るかと言ひますると、第一番は白耳義に於ける異常兒の敎育問題と云ふことをやる。第二番は其の異常兒の原因。第三番は異常兒の身體、知力、道德の缺陷の調査。第四番は異常兒の適當なる分類法。第五番は異常兒の醫療法。第六番は異常兒の敎育的矯正法。第七番は不順兒の取扱並びに殊に感化學校。第八番は是等の者に對する特別敎育の組織制度。第九番は學校、病院等の參觀と、斯う云ふやうな仕事に分けてやつて居ると云ふことで、極めて整頓したことであらうと思ひます。

これで異常兒のお話は措きまして、なほ次の事柄に進んで申しまするが、たゞ之れを結びますることに於て諸君の御注意を煩はしたいのは、西洋では聾啞の敎育並びに盲人の敎育を非常にやかましく申しまして、伊太利の如き國に於ても各縣必ず縣

立の聾啞學校、盲人學校のあることでございます。御當地に於ても早くより盲人學校などがありまして、大分立派に出來て居ると云ふことでありますが、是れは普通教育上からもうすこし奬勵したいと思ふ。尙一般に啞は聾でない、聾は必ず啞でないと云ふ論になつて來るやうでありますから、兩者は追々分離するか練習の上に於ても功能を擧げることが多からうと云ふことを申して居ります。尙もう一つ參考に申して置きたいのは、先刻ドモールの申しました異常兒の第一の分類たる言語上の缺陷のあるものゝことであります。卽ち吃りの事で、是れは近頃大分癒す法が出來ました、東京では伊澤修二氏の樂石社と云ふものが設けられてあります。又各地に其の支部も出來てある。或は又伊澤君を離れて他の方面からしても、吃りの矯正法が出來て居るやうにも聞きますが、是れはどの法に據るが好いと云ふことは此の場合に少しく申兼ねますけれども、何うかどの法に據るにしましても、最も有效なる仕方で十分に矯正することに力を盡したいと思ふ。第一に承はりたいのは果して一學校に於ける吃音者の數が調査されて居るか居らないか。それを一つ承はりたいと思ふのであります。伊澤氏の報告に據りますと、東京に次いでは大阪に吃りの數が多いやうであります。尤も大阪と云ふものは廣いからでありませうが、大阪市に吃りの非常に多いと云ふことは諸君の御注意を煩はしたいと思ふ。尤も從來吃音は先天的聲帶に障害のあるものと思つて居りましたが、今日では必ず然うでないと云ふことになつて居る。吃りの最も主なる原因は眞似るのである、他の吃る者を眞似るから吃るやうになるのである。其次は高い所から落ちると云ふやうなことに因つて吃りになつた者が多い。其次は大變に失敗したとか、ビックリしたと云ふ者に多い。其次は病氣である、例へば猩紅熱などに罹つた爲に吃りになつた者が多くして、案外腦髓とか、或は又咽頭等に疾病のある者には多くないやうな話でございます。そこで此の吃音者に就きましては伊澤氏の方法に據りますると、約一箇月練習さへ致しますれば、大抵の吃りは癒ると云ふことであります。私も從來は親しく觀ませなんだけれども、先日京都に伊澤氏の樂石社の支部を置くことになつて、其の發會式に行つて見ましたが、伊澤氏も來て、以前は非常な吃音者であつたが、一箇月ほど練習させたと云ふ中學の生徒竝びに商業學校の生徒に演說をさせました。ところが其の人等は當り前の人も迚も及ばぬほどの達辯であつたのである。夫れに就て私が自分の感じた儘を話をしたら、其後に又京都府知事の大森さんが出て『日本で演說の上手と云はれて居る谷本さんが舌を卷くと言はれたくらゐだから……』とか何とか

大變におだてゝ一場の話をされたが、本當に私はお世辭を言つたのではない、當り前の人よりも其の吃りであつた中學生、吃りであつた商業學校生徒が僅か一箇月未滿の練習に依つて、立派な演說が出來るやうになつたのは、實に驚くべき現象であらうと思ふ。で私は何故に吃りの事をやかましく言ふかと云へば、吃りを癒さぬときには一個人の上にも弊害がある。又社會の上にも弊害がある。一個人に何う云ふ弊害があるかと云へば、人は言語に據つて知識を交換する。言語に據つて觀念を發表するのである。併し言語に缺陷があれば人と交はることを愧しがつて避けます。それでは知識の伸びやう道理がございませぬ。また社會上の弊害があると云ふのは、昔から言ふ通り小人閑居して不善を爲すと云ふのですから、何うも獨りで世間と交はらなく、世の中を知らずして、家にばかり籠つて居りまするとと、何うしても惡い事をするやうになるものが多い。是れまでの例にも案外聾啞と云ふやうな者に非常に不人情なものが多い。また盲人に高利貸などをして、非常に不人情な者が多いと云ふことは昔から言ふことてあります。吃りて世間と交はりませねば社會的陶冶を受けませぬから、決して正當の人間になれない。また吃りの者には手淫をするものが多い樣でございまする。是等は畢竟人と交はらないからである。實際樂石社に於ても手淫者が多いとか云ふことてあります。然う云ふ譯てありますから、此の吃りと云ふものは決して等閑に附して置くことは出來ない。で低能兒教育と云ふことを言ふ人は、先づ此の吃りを癒すことからお始めになることを希望致します。此事に就ては西洋の書物を彼れ此れ調査しまして、私が京都の樂石社の發會式のときに演說をしました。其の大要は『帝國新聞』の五月七日、八日と云ふ號に掲載をいたして置きましたから、御覽下されば分ると思ひます。又それは別に刷つたものもあるから、或は差上げても宜いと思ふ。要するところ吃音兒の改良と云ふことが先づ低能兒の改良の始まりてあらうと云ふことを附けて申して置きます。

以上は異常兒の中の所謂低能兒と、それから又疾病とも見るべき狹い意味の異常兒のことに就てお話を致しましたから、引續きまして其中の不順な者、即ちザッと申しますれば兒童の犯罪……犯罪少年と云ふことに就て申さうと思ふてす。是れは至極大切な問題てありまして、私の信じまするところでは、凡て教育の目的と云ふものは立派な人物を造るに在ると云ふことは誰しも言ふことてございまするけれども、是れは教育の積極的意味てあつて、若し教育の消極的の意味を尋ねまするならば、犯罪者の數を減ずると云ふことは確かに教育上忽がせにすべからざることてあら

うと存ずるのです。即ち積極的には立派な人物を造つて國家社會に役立つやうにしなければならぬ。それから又消極的には犯罪者の數を減じて國家社會に利益をすると云ふことが教育の目的と見ても差支へなからうと思ふ。隨つて此の節は教育學竝びに社會學に於ては頻りに少年犯罪のことを論ずる。て又昨年白耳義の萬國大博覽會などに於ても、少年犯罪と云ふことに就て種々統計表などが出て居つた譯でございます。今日は其中の最も主なるもの、即ち私の聞いたり讀んだりして感心致しましたものに依つて、少年の犯罪と云ふものは如何なる事情の下に出來るものであるかと云ふことをお話しいたし、夫れを明かにして、然らば如何にすれば幾らかそれを減ずることが出來るかと云ふことに說き及ぼしたいと思ふ。

申すまでもなく都會は犯罪を增すものであります。殊に不良少年の犯罪の如きのでは都會に多い。恐らく大阪の如き日に月に繁華になる大都會には又それと同時に少年犯罪、一般犯罪が增して來ることであらうと思ひますから、學校の諸君竝びに家庭の諸君に殊更に御注意を煩はすのでございます。今も申しました通り其の材料は誰に依つて供給されたかと申しますると、是れは亞米利加の費府にジュヴェナイル、コートと云ふものがあるです、即ち兒童裁判所であります。此事は次章に詳しくお話をします。それからプロベーション、オッフィサーと云ふのがある。これが又面白い。詰り兒童裁判所で子供を裁判する、子供を裁判したからと云つて、其の子供を直ぐ監獄にでも入れました日には、善くなるどころか却つて惡いことの習慣がつくから、其の子供の罪になつた者をも監督して教育をしてやる、それがプロベーション、オッフィサーである。强いて云へば監視者とでも言ひませうか、プロベーションと云ふのは試すのであるから、一旦罪人と定まつた者でも家庭に入れて置いて或は訓戒を加へ、或は教育を施して、善くなるか惡くなるかを試して見ると云ふのである。是れは少年裁判所に伴うて居るものである。これが伴はぬ日には兒童裁判所の功能が半減すると云ふことを申すのでございます。其費府にジュヴェナイル、コート、エンド、プロベーション、ソサイテーと云ふ一つの協會がある。少年裁判所竝に監視、掛、協會とでも言ひませうか。其協會の會長をして居る人は女であります。歐羅巴に於ても此プロベーションは多く婦人の役であります。ミセス、フレデリック、スコッフと云ふ、樣な名前です。此のフレデリック、スコッフ女史が米國に在ります る八州の少年感化院、懲治場と云ふやうな所から、凡そ千五百八十九人の答案を募つたのであります。それは昨日申しまする通り所謂發問法に由つて研究したのであ

ります。一體何う云ふ事情の下に犯罪をするやうになつたか、兩親が有るか無いか、お前の家庭の事情は何うであるかと云ふやうに、八州の懲治場竝びに感化院から募つた答案が千五百八十九通寄つた。其の答案を調査し統計して結論を引いたのが七箇條あるのであります。それは少年犯罪の原因としては能く調べてあるやうに思ふから、今日お話をすることの中で主なるものとして申上げます。

第一番は少年の犯罪には家庭の事情が大いに關係すると云ふのであります。其の中の三分の二以上は兩親が飲酒家であるのです。又その殆んど半數と云ふものは兩親か一方の親が十六歳未滿のときに亡くなつたのである。子供が十六歳にならぬ前に兩親を喪ふたとか、或は父母の一方を喪ふたとか云ふことが主なる原因をして居る。是れは日本にもある事で、或る老裁判官の話に據ると、卽ち二十年も裁判官をして經驗した所に依れば、丁年になるまで兩親の揃うて居つた人にして裁判所の門を潜つた人は殆んど無いと云ふことである。卽ち兒童犯罪者の殆んど半數まてが十六歳未滿にして兩親或は一方の親の死んだと云ふことに相似て、餘程注意せねばならぬ。また三分の一以上は家庭が不愉快なのであります。不愉快の家庭と云ふのは何う云ふのかと言ふと、多くは繼父母であります。繼父母と云うても日本ては主に繼母が多いでせう。然うてなければ孤兒であります。兎に角不愉快の家庭、殊に繼父母に依つて育てられる場合、或は孤兒である場合に犯罪をするのであります。だから孤兒院など云ふやうなものも社會政策の上から觀たならば非常に大切なることになると信じます。此の話を此程鹿兒島で致しましたところ、同地に七十歳ばかりになる老人があつて、それは社會教育に非常に熱心な方である。其の人が鹿兒島に於ける種々の社會的統計を取つて居るのであります。其の老人が私の話を聽いて「先生、如何にも思ひ當ることとてあります、私もそれに就て統計を取つたものがあるから、其の統計を持つて今晩お宿に上つて御覽に入れませう」と云つて、其夜持つて來たのは鹿兒島市に於ける娼妓の身元の統計であります。之れに據りますると其中の六部分は繼母に依つて育てられた者であると云ふことを見たのであります。實に此の繼母と云ふものと少年犯罪と最も親密の關係があると云ふことは、日本でさへも着々證明が出來さうてござります。何うか御注意を願ひます。卽ち此邊が新教育學の基礎として家庭を重ずる點でござります。

それから第二番はこれも御注意を願ひます、卽ち千五百八十九人の約三分の一以上は幼少の時から煙草を喫ふと云ふのです。卽ち喫煙癖があるのでございます。

夫れから三分の二以上は早く酒を飲む、飲酒の習慣があるのです。それから五分の三は謂はゞ嘗て職業を習つたことのない者である。だから子供のときから煙草を喫ひ、酒を飲み、而かも何等の職業の準備がない、何も稽古をして居らぬと云ふやうな者は何うしても犯罪をすると思ふ。

第三番目には是れも亦殊に御注意を願ひます、其の半數以上は十四歳以前に自分で錢儲けを始めたのであるです。而も夫れの四分の一は大體街頭の賣子である。ストリート、ボーイであります。新聞の賣子、或は氷水を賣るとか云ふやうに、即ち往來に佇んで小さい商ひをして居る者であります。それは何うも犯罪を仕易いと云ふのであります。此點に就て非常に諸君の御注意を煩はしたいのは、日本で近頃歩いて見ますると、大阪などでは…或は京都などでも…東京も然うでせう、澤山新聞賣りと云ふ者が增して、人の通行の劇しき場所、或は電車、汽車の乘場で子供が頻りに新聞を賣つて居ります。或人は夫れを見て實に感心だ、あの幼ないのに親の孺も嚙らずして金を儲ける、誠に感ずべき子供だと言つて褒める。極端に云へば夫れを一種の孝行な所業のやうに言ふ者があります。けれども、我々の開いた眼から見れば、そんな些細なことは決して奬勵すべきものでない。一般進んだる社會政策の眼の上から、少年が早く路傍に佇んで小錢を儲けると云ふことは惡いことこそあれ、決して善いことはないのであります。日本では何でも彼でも然う云ふやうなことをすると、直ぐに孝行だとか奇特だとか云つて褒めるやうな傾の昔からあると云ふことは、非常に殘念だと思ふ。例へば昔から孝子として傳はつてあるのは、十歳になるかならぬかに蜆賣りをして親を養ふたといふ樣な話で、然う云ふ者は實は其の末路の哀れなことは實に悲しむべきが多いであります。然るに誤まつて只今でも矢張り其の古風の考を脫せずして、少年が極く弱いときから路傍に立つて小錢を儲けて居ると云ふことに贊成の意を表する人のあるのは、甚だ間違ひである。是れは歐羅巴では今日の社會政策上から、さう云ふことの弊害が夙に研究されて居るのである。

其次は第四番であります、是れが又大切である、總て都會…市街と云ふものは犯罪を增進すると云ふことであります、即ち其の數の五分の三までは都會で出來たことであります。村落は最も少ないと云ふことでございます。

それから第五番に申しますることは、凡そ罪人と云ふものは初犯、再犯、三犯と度重なれば重なるほど惡くなるものでございます。初犯の者は大體竊盜が多いのです。小泥棒、所謂ちよろまかすのです。それから致しまして、第二番になつて來ますること、

此度は人を打つ……毆打、或は人殺しをする。毆打殺人、之れには屹度酒を呑むと云ふことが手傳ふさうであります。而して第三番に至つて愈〻惡が高じて來て詐欺取財をする。是れは稍〻體裁の宜いやうなことでありますけれども、卽ち高等心力の缺乏だらうと思ふ。さうして婦女に向つて猥りがましき姦淫罪を犯す。決して少年が初め犯罪をするときに詐欺や姦淫は犯さぬと云ふことを申して居ります。これも注意すべきものと思ふ。

それから第六番目はこれも面白い、非常に御注意を願ふ、千五百八十九人の中てゝ三十人だけが罪人の兩親を持つていたのです。卽ち犯罪には遺傳が直接に關係せぬ。矢張り境遇の方が主であると云ふことは、これで證明が出來ると思ふのでございます。

それから第七番には犯罪が增加し……增進するのは全く罪人の取扱ひ方宜しきを得ぬ爲であると云ふことを證明いたして居ります。

是れは長い報告でございますが、取纒めて見ると、此の七箇條になります。何れも實際上最も大切なる意味を含んで居ることのやうに思ひます。既に此事が明かになれば、此度は如何にして少年の犯罪を減ずるかと云ふ犯罪減少策を講ぜねばならぬ。之れにも同じく七箇條の提案がございます。第一箇條は右申しまする如く、子供と云ふものは生れた儘では犯罪的でないのです。全く周圍境遇、周圍の事情、殊に家庭の事情に因ることが多いと云ふことを第一、頭に入れて貰ひたい。だから家庭教育に於てはたゞ忠孝を奬めると云ふやうなことでなくして、其の日常の遣り方に依つて非常に犯罪者が增すと云ふやうなことに注意して貰ひたい。第二番には右樣でありますから、卽ち家庭の改良と云ふことが少年犯罪現象の第一策である。家庭の改良と云ふのは何うするかと言へば種々の方法もありませうが、先づ貧乏な兩親其外一般の父母たるものに兒童の取扱ひ方を心得させるのであります……教へるのであります。詰り餘り可愛がつて我儘に育てると云ふことになると、大概の子供は行末罪を犯すやうになる。大阪などでも隨分名家の子弟、卽ち中產以上の子弟にして犯罪をして新聞の上に謳はれた者が澤山に在る。卽ち夫れは兩親が子供の取扱ひ方を知らぬのであります。如何にして子供の取扱ひ方を教へるかと云へば二つの方がある。最も簡易の法は協會を組織して、其の役員が屢〻家庭を訪問することであります。而して又一つに申しますることは、先日申しました大學擴張をやることであります。何うか各地に講演會を開きましても、これから後は直接教育に

關係せぬことは避けまして、成るだけ直接に家庭並びに社會の改良の上に役に立つやうなことを父母、兄、姉等に聽かせたいと思ふのであります。第三番目は醫者の注意を促すのであります。是れは例へば飲酒をするとか、或は病氣であるとか云ふやうなことに於ては、醫者が協同でやらねば可かぬから、醫師の注意を促します。第四番目は都會に……市街に適當なる改正を加へるのでございます。即ち立派な市區改正をすると云ふことが兒童の犯罪を減ずる主なる方便でございませう。市區改正をするからと云つても、道路ばかり廣くするのではない。電車を敷くことばかりではない。市區改正の主なることに就ては斯う云ふことがある、運動場ですね、即ち子供の爲に運動場を設けることもある。いま亞米利加などでは頻りに運動場を澤山に拵へやうと云ふので、運動場運動と云ふことが盛んである。是れが亞米利加では今日非常に盛んだと云ふことを申しまする。是れは次章に詳しくお話を致します。それから第五番は若し已むを得ざれば小さい一種の感化學校を拵へるのであります。此の感化學校と云ふものは只だ拵へたからと云つて效はない。日本でも昨今は各府縣とも感化院の設けがあるやうでありますが、果して學理に合ふたるものになつて居るか居らぬか、まだ私は十分に承知致しませぬ。何分にも着々改善あらんことを望みます。そこで何う云ふのが宜いかと言へば、總て感化院は成るだけ小仕掛の方が宜い。大きい感化院と云へば大層立派さうに聞えるけれども、成るべく小さい方が宜い。さうして出來ることならば其の感化院に這入る兒童は所謂個人的取扱を受けることを望むのであります。さうして夫れを又能く取扱ひ、能く矯正しやうと申しまするのには、是非とも立派な教師がなければならぬ。教師は男に限りませぬ、男でも女でもどちらでも宜しい。併し其の教師には相當の素養が要るのであつて、第一番に知つて貰ひたいのは子供の心持であります。兒童の心理であります。此の兒童の心理と云ふことが最も大切である。それから教育法を心得て居ることでございます。併したゞ心理學に明るく教育法に明かであるとして見ましても、それで立派な教師と云ふことは出來ない。感化院の教師に望みますることは、第一は同情心であります。同情心に缺乏して居る極く冷淡な人では迚も感化が出來ませぬ。同情心と共に極く愛の心に滿ちて居ることを望みます。併し同情心があり愛があつたのみではまだ其の資格が具はつたとは云はれない。夫れと共に提撕即ち引立てる力が必用です。教育はたゞ教育の學理或は術、それから同情心、愛などと云ふ外に、今では其の子供を押へ付けるのでなくして、何處までも引立てゝ行く、此

の提撕の手加減が要るのであります。たゞもう其人に叱られるばかりでは子供は小さくならねばならぬ。或は又餘りひどく叱られたり打たれたりして、遂には自殺でもしやうと云ふやうなことがあつたならば、如何に其の感化院が立派でも何にもならない。て叱ることは叱るけれども、同時に引立てゝ行かうと云ふやうな、提撕の力を持つことを最も肝要といたすことになつて居ります。それから第六番には犯罪取扱ひ方を改正することであります。即ち兒童裁判所等を設けることであります。それから第七番は社會が自ら其の風俗を改善することであります。社會の風俗が墮落して居つて、少年のみに犯罪をするなど云つても、夫れは難いことでありますから、社會の風俗の改良を望むと斯う云ふことでござります。是等のことは尙次にお話を致しまする兒童に關する社會的政策と相俟つて分らうと思ひますから只今は是れで措きます。

此の兒童の犯罪のことに就てなほ一寸お話をするのは、子供には御承知の通り盗みをする癖の子供が案外多いものであります。それも貧乏人の子供に多いのならば或は無理もないと思ひますが、事實を調べて御覽じ、却つて相當な人の子供に盗み癖のある者が隨分多い。我々は各地て屢〻質問を受けるのであります。兒童の盗癖を矯すのには何う云ふ風にしたらば出來ますかと、斯う云ふ質問を受けるのでありますが、實は私共も名法を知らないのであります。幸に京都府の教育會に於きましては、考ふる所があつたものと見えまして、先年來お聞き及びでもござりませうが、丁度大學の裏の所の百萬遍の寺の内に持つて行つて、白河學園と云ふものを設け、一箇年に府教育會から若干の補助金を出しまして、特別兒の教育をば施す設備が出來て居ります。是れは全く低能兒、不良少年を教訓する所である。幸に脇田良吉君と云ふ人がある。これも元高等小學校の先生が何かをして居つて、追々と其事の研究をして居たのださうで、東京で修業をして、其の園長に頼まれてやつて居る。ところが其の園を開いてから、今言ふ通り大分の費用も掛るけれども、トンと這入る者がない。何うも其處へ這入つたと云へば矢張り不良少年か或は低能兒のやうに思はれるとても云ふのか、初めからまだ二三人しか這入らぬのでせう。一人は臺灣人の子だと云ふのです、隨分をかしい。もう一人は所謂相應の家庭の子供で盗癖兒であります。夫れを色々にして矯正しやうと思つて、種々調査をし、餘程骨を折られたと云ふ。其脇田君に先日大學の教育學研究會にも來て一場の演說をして貰ふとがありますが、昨今になつて餘程立派な成績が擧つたと云ふので、同君自らこんな書物を公けに致

しました『盗癖兒の百五十日教育』と題します。是れは此の脇田君と云ふ人が一身一家を犧牲に供して自ら範を示し、能く盗癖兒をして悔過遷善せしめたと云ふ百五十日間の苦心談を書いたものであります。之れに依つて見ると同君は非常な骨折をして僅か百五十日間にして盗癖兒を立派な人間に仕上げたのである。中々感心なことが書いてあります。此の本は諸君にも御參考にならうと思ふ。御當地には無論それよりも進んだ、夫れよりも大きな御設計があるとと信じまするが、何うか諸君も一般に斯う云ふことの問題に對しては、深く注意されなければならぬ。いつも申しまする通りたゞ忠義ぢや、たゞ孝行ぢやと云ふばかりでは可かない。無論それも結構ですけれども、實際教育家としては、また實際的の問題が澤山に在ることゝ存じます。(脇田氏著『低能兒教育の實際的研究』出づ)

既に少年の犯罪を斯くの如く論じましたならば、最後に夫れと關聯してお話をしたい問題がこゝに在るのでございます。夫れは日本には未だ餘り澤山ないのですけれども、日本人は隨分眞似をする國民ですから、善い事ばかり眞似をせずして、追々是れも出來て來はせぬかと云ふ心配があるから、未だ雨降らざるに窓を閉めるの戒を守つてやつて見やうと思ふのは、少年にして自殺するを防ぐことであります。少年の自殺をするものが近來歐羅巴では段々增加するのであります。日本でも追々增加するだらうと思ふ。いま私は少年の自殺を研究して居ります。研究と云つても別に格段六づかしいことはありませぬ。日々新聞を讀み、其の讀みました新聞の中で少年が斯う云ふことから或は硫酸を呑んだとか、或は水に飛び込んだとか、汽車に轢かれたとか云ふことの切抜を拵へまして、其の何年かの切抜が重なつたならば其中からチャンと統計が出來ると云ふので、調査は新聞に依つてやつて居ります。是れは社會學研究の方では新聞法と申しませう。新聞法と云ふのは即ち新聞を利用するのであります。之れに依つて見ても少年の自殺が如何にも多いことが分ります。日本でも新らしい宗旨が開けた、即ち此の節は華嚴瀧宗と云ふものが開けて居る。さうして其の宗旨の方へは隨分澤山行くのである。もう華嚴瀧宗に歸依した者が今日までに三百近くもあるでせう。夫れが爲に警察が忙しうなつた。さうして見ると追々物價は高うなる。生活が困難になる。一國、殊に都會が益々複雜になる。道德上、經濟上やかましくなつて來るからして、自然少年自殺が愈々增すであらうと思ふ。因つて此事をお話するのは、矢張り社會の爲に頗る必要であつて、今日歐羅巴は是れが主なる題目となつて研究されて居ります。

さて此の少年に限らず一體自殺者は年々多くなる。是れは社會が複雜になれば免かれぬことであるてせうが、自殺のことを主に研究したのは佛蘭西のジャッカーと云ふ人であつて、此人の『自殺論』と云ふ書物がある。其の說に據りますると、自殺者の數が十九世紀を通じて百年間に順々に增加して行つて、凡そ百三十萬人ほどの自殺者が全世紀中にあつたと云ふことが擧げてあるのでございます。隨分多いのです。百年間とは云ひながら百三十萬人と云ふ數は隨分驚くべきものであります。是れを又獨逸帝國だけに限つて申しますると、獨逸帝國は建國以來三十年間に於きまして、自殺者の數が約三十萬人あつたと云ふことであるのです。獨逸帝國の建設は御承知の通り明治三四年でございますから、明治三四年から明治三十四五年までの間に凡そ三十萬人からの自殺者があつた。尤も獨逸は自殺の數に於ては他の國よりは最も進んで居るのであります。世界中での自殺の多いのは獨逸であります。獨逸の中でもサキソニーと云ふ國に一番自殺が多いと云ふことは人の夙に申す所でございます。右樣のことでありますから、西洋で自殺問題のやかましいのは無理がないと思ひます。若し自殺の數を國に依つて分つならば、最も多いのはサキソニー、それから佛蘭西、それから瑞西、それから丁抹、それから露西亞であつて、凡そ人口百萬人毎に二百人の自殺者があると申すのでございます。それから英國、白耳義などは少ない……少なくして人口百萬人毎に百人乃至百五十人の自殺者がある。和蘭、伊太利、蘇格蘭那威などは更に少なくして百人以下であると云ふことを申して居るのでございまするが、要するところ日耳曼人種が最も自殺を餘計にすると云ふことは爭はれぬことであります。併し夫れに續いては拉丁人種(佛蘭西人種)もやるのでありまして、佛蘭西の新らしい統計に據りますると、過去十年間に自殺者の數が凡そ十倍したと云ふことを言つてありまするが、是れは輕々に看過することの出來ない問題であらうと思ふ。獨逸で調査したところに依れば、小學校兒童にして過去二十年間にどれほど自殺したかと言ふと、千百五十二人あると云ふことでございます。之れに依つて見ても其の問題の大問題である所以が分らうと思ひます。

次に又諸君にお話をしまするのは、其の少年の自殺と云ふのは凡そ何歲頃が多いのかと言ふことであります。之れに就きましては昨年の學會に匈牙利のブタペストのお醫者さんでドイツと云ふ人が報告をいたしたのであります。其の調査は二百六人の小學兒童に就てしたのである。尤も其中で男の自殺の方が多いと云ふのです。男は百五十二人、女が五十四人、都合併せて二百六人の小學兒童の自殺者に就

て調査したのでありますが、一番早いのは七歳の子供にして既に自殺するものがあるのです。七歳、八歳九歳、十歳、十一歳、十二歳、それから十三歳、十四歳、十五歳、十六歳、と、マア日本の高等小學ぐらゐまで入れた意味の統計と御覽下されて宜い。最も七歳ぐらゐの子供が自殺するとは少ないのであります、是れは僅に一人であります。それから八歳になると七人であります。九歳になりますると五人ぐらいで少ない。十歳の子供は十人ありました。十一歳の子供は二十八人ありました。十二歳の子供は三十六人ありました。十三歳の子供も同じく三十六人。それから十四歳の子供が二十人。それから十五歳の子供が三十人、十六歳の子供が二十九人、斯う云ふやうな數でございます。大體春機發動期に於て此の自殺者を增すと云ふとは是れてお分りになるであらう。最近日本でも十六年未滿に百五十九人自殺があつた。

既に數がそれて分つたと致しますれば、次には原因の調査であります。此の原因論に就ては種々の調査がございます。第一番にお話をしますのは矢張り先刻申しましたジャッカーの說を擧げるのが宜しいと思ふ。此の人は自殺論の大家であると云ふことは既に申述べた通りであります。ジャッカーは少年自殺の原因として五箇條を算へてございます。第一番はアルコールを呑むことである、卽ち大酒てあります。子供が早くから大酒を呑むと腦髓が狂つて遂に自殺をする。第二番は經濟事情であります。貧苦に迫られ、賃金を得ることが出來ないとか何とか云ふやうなことて自殺をする。第三番は病に罹つた、それが不幸にして所謂不治の病てある、斯う云ふことの爲に自殺をする。それから第四番は是れは能く御注意を願ひたい、家庭の不和なのてあります。繼母に苛められるとか何とか云ふことの爲に少年の自殺するのが多い。それから第五番は發狂てす、子供が狂病に罹るのてあります。氣が狂ふのてあります。神經病てあります。此の五つを算へてございまする。それから又此處に書きましたドイツ氏は同じく異つた意味て五箇條を掲げてございまする。是れ又御注意を願ふ、是れは非常に面白い。第一番は家庭の事情だと云ふのてす。今言ふ通り家庭が不和てあるとか、貧乏てあるとか云ふ家庭の事情てす。第二番は一一分り難い、兒童の心理狀態と云ふのてす。子供の心理的狀態が夫れに大變關係する。と言ふのは子供の心と云ふものは又妙なものて餘り人から叱られるとか、或は人から辱かしめられるとか云ふと、「死んてしまふワ、死んて見せてやるワ、おのれ餘り苛めやがると、死んて見せてやるゾ」と云ふやうなことを言ふ。我々には然う云ふ考はないが、小供は繼母などに苛められると云ふと、ナアに俺も死んて見せ

るわいと云ふやうなことを言ふものがある。是れは子供の特別の心理狀態であります。第三番は眞似るのであります。人が死んだと云へば自分も死ぬ氣になる。死神にでも誘はれると言ふのでせう。模倣に因るのである。第四番は小說であります……小說の害であります。小說には兎角自殺などゝ云ふ事が多い。讀み違へると夫れになると思ふ。何うも私共でも夫れだと思ふ。子供のときに彼の佐々木盛綱とか高綱とか云ふ近江源氏の芝居を見て、子供が立派に切腹して死ぬと云ふと非常に羨ましいやうに思つて、死ぬ時には何う云ふ死に方をするものか、腹を切る工合を知つて居つても宜からうと云ふやうなことを實は思ふたことがある。私は實際それを眞似なんで仕合せでありましたが、世の多くの子供の中には小說に依つて然う云ふことをやらうと言ふ者が隨分多いやうである。もう少し進んだものでは心中などをする。然う云ふ者の中には澤山に此の小說の感化が多いと云ふことは人の言ふ所でございます。第五番は罪を犯して其の罪が現はれることを心配する。犯罪並びに畏怖が原因であると云ふことであります。物を盜んで見たけれども監獄にでも遣られはせまいか首でも絞られはしまいかと云ふ犯罪並びに畏怖に因るものが多いと云ふとであります。私の考へる所に依れば、此のドイツ氏の方がジャッカー氏の觀方よりも少年犯罪としては最も宜しいと思ふのであります。

尙之れに就て佛蘭西の巴里で控訴院の評定官をせられて居るプロアルと云ふ人が昨年の學會に、長年の經驗より割出した少年犯罪の原因を四つに分けて報告を致しました。此の人の身分柄、職務柄より其の報告は多大の注意を惹いたやうに思ひますから、茲に其の大略を紹介しませう。プロアル氏は少年の自殺の原因を凡そ四通りに分けたのでございます。第一は道德上の原因、第二は家庭上の原因、第三は學校の原因、第四は疾病の原因、此の四つに分けてあるのであります。之に一々例が擧げてありました。道德上の原因で一番多いのは嫉妬だと云ひます。それから忿怒です。それから自慢で死ぬのがある。死んでやるワと云ふ自慢で死ぬのです。第二番の家庭上の原因と云ふのは、先づ主として家庭の不和でございます。それは殊に母の關係が多いさうです。繼母は申すに及ばず、母は大變氣が弱うて、始終泣言ばかりを云ひ、何うもお父さんは飲んだくれて內を外にして困る、夫れが爲に家は貧乏である、誠に情けないことぢやと云ふ泣言を子供のときから聽かされて居ると云ふと、ッヒ子供心にも情けなくなり、自分が死んで一人でも食扶持を減じた方が阿母さんは助かるだらうと云ふやうな考から死ぬるのがある。其のやうに母の感化が非

常に多いと云ふことを申して居ります。其次は子供のときから餘り仕事をさせる、其の課業が不適當なのであります。朝早くから起して戸外に物を賣りにやるとかする、夫れが爲に子供心にこんな寒いのに朝早くから起きて物を賣りに行かねばならぬか、情けないと云ふので、ツヒ死ぬるやうになる。それから職業でも子供の嫌ひなる職業を強いてさせると是れ又ツヒ死ぬる氣になる。並びに感情の激變であります、是れは春機變動期などに非常に多いことである。第三番に在りまする學校的の原因と申しまするのは負擔が重いのです。作文を作つて來い、家で何か綴り方をして來いと云ふので、漸う考へて作つて持つて行つても、毎々先生から小言を云つて叱られる、然う云ふ負擔の過重の爲にツヒ死ぬる者が多い。それから競爭で失敗して死ぬる者が多い。ボートレースに負けて死ぬるとか、或は試驗の不成績の爲めに死ぬる者が多い。是れは日本でも隨分あるのでありまして、日本でも妙齡の娘さん方が無慘にも高等女學校の入學試驗に落第をするとか、或は引續いて落第したと云ふことの爲めに自殺したのが新聞に往々載つて居る樣であります。まだ幸に數は多くありませぬが、折々載つて居ることを見受けます。何うか負擔を重くせずして、餘り劇しき競爭を奬勵せぬやうにしたい。尙また女に對しては成るべく試驗を輕くされんことを望みたいと思ふ。それから第五番は發狂の遺傳とか、アルコール中毒の遺傳と云ふことであります。斯う云ふことをブロアル氏は申して居りますが、之れに就ても此程調査をしたのは本年の五月頃でありましたか、新聞に出て居りました事で、夫れは東京の本所邊にあつた樣でございまするが、二人の娘さん、何れも年頃は十五ほどになる。丁度休みの日に二人連立つて淺草の公園に行つた。ところが一人の娘は綺麗な華美な衣服を着て居つた。一方の娘は夫れが羨ましくて、嫉妬の餘り「アナタの着物などは丸で藝者かお酌妓のやうだね」と言つたのが、非常に冷かされたやうに思つて、殘念で堪らず。到頭其の夜は睡られずして、翌朝早く起き出で、父親が職工用に使うて居つた硫酸をガブと呑んだ。夫れを父親が氣が注いたものだから相當の手當をした。幸に一命は取止めたけれども、最う少し遲れたならば大變なことになるのであつたと云ふとてござりました。然う云ふやうに子供には妙な一種の心理がある、或は妙な高慢心があると云ふとは考へねばならぬ事でありまして、少年の自殺、殊に女の子のは意外な所から來るものであると云ふことを御注意を願ひます。尤も夫れは多く家庭に關係致します。

尙此の少年自殺問題に就て特に調査を致しました人がござりまする。それは瑞

西の醫者でベーランと云ふ先生です。此の人は少年自殺のことに就て頻りに注意をして居る、專門家でございますが、此の人の說に據りますると、學校兒童の自殺の原因が三つある。第一番は書物である。第二番は雜誌である。第三番は新聞である。一言にして申さば、出版物の危險なるものが少年の自殺を奬めると云ふことを申して居ります。何うか新聞の三面記事とか、或は續き物とか云ふ上に於ては、此事に十分の注意を拂つて貰ひたい。どの新聞にも自殺を奬めたやうに書いた新聞はありませぬけれども。新聞の讀み樣が惡いと、それは自殺を面白半分に書いたものが無いでもありませぬて、マア自分も自殺をして見たいと云ふやうになる。それが最も重なる原因であると申されて居ります。

尙同じく申すべき事は、此の自殺と宗教とが最も關係のあることであるのでございます。自殺と宗教と云ふことは私も多大の關係があらうと思ふ。話が一寸岐路へ外れますが、一體日本には情死と云ふものが多い。男と女とが共に死ぬるのである。西洋には殆んど情死と云ふものはありませぬ。西洋で情死のありましたのは、初めの日に言つた通り、一兩年前に在りました彼の墺太利の有名なるグンプロヰと云ふ社會學の大家です。此の人が一兩年前に心中をしたのであります、珍しいことである。社會學の大家で而かも競爭が社會を進步させると云ふことを主張した先生が自殺をした。尤も調べて見ると夫婦で自殺をしたのである。惜いかな、社會學の大家が何故自殺をしたのであらうかと云ふと、もう先生も七十歲を超えて居る、妻君も七十歲に近い。兩方ながら浮世を味氣なく思つて、もう私共は生きて居つても面白くない。一緒に死にませうと言つて死んだので、其の間に何も意味が無かつた。併し之れを珍しう傳へるくらゐであつて、殆んど西洋に情死はございませぬ。小說を見ればシェーキスピヤの中に一つあるだけで、其他には殆んど有りませぬ。支那に於ても私が調査をして見た所では、支那の通例の書物で知り得るのは、漢の時代に一度だけ情死があつた。それは或娘さんが或男に嫁して居つたが姑と仲が惡るくて飽きもせぬを離緣に成つた。ところが其の娘さんの親が權勢に媚びて、其の權勢家が澤山の金を持つて居つて、息子の嫁に呉れと言ふたで其の金に眼が眩んでしまつて、我娘の貞節を破りて先方へ嫁に遣ることにした。そこで今晩は嫁入をせねばならぬと云ふ晩に、其の先夫が來て娘を連れ出し、相擁してさん〳〵泣き明して、互に池中に身を投じ、遂に情死をしてしまつた。これもマア夫婦心中であります。それより外に無かつた。ところが段々調べて見ると、明の初めにもう一つ夫婦心中

があつた。それは極く近頃調べたのてあります。或小役人の奥さんが一寸澁皮の剝けた美しい女てあつた。ところが其の上役の役人が豫て其の奥さんを慕うて居つて、度々言ひ寄るけれども、言ふことを肯かない、夫れが爲に遁け出たし所が、又途中て賊に逢つて強姦せられた。て其の奥さんは殘念て堪らない。遂に死なうと言つて自害した。それを知つた本夫が、妻は然う云ふとの爲に死んだは、可哀想なことをした。おれも一緒に死なうと云ふので、其の後を逐うて自殺した。此の二つより外に四百餘州に於て、而も過去四千年の間に情死は無い樣てあります。書物に據つて見れば……是れは斷言いたします、專門家が調べても此の二つより無い。所が日本ては情死が多いてす。これはもう書物にもある、新聞にもあります。

さう云ふ譯てありますから、私は日本に於ては何故情死が多いのだらうかと云ふことに就いて、年來疑問を懷いて居つたのてあります。それに就て初めて洋行をする時に、お聞き及びてもありませうが、元老院議官をして、後に樞密顧問となられた子爵福羽美靜と云ふ方があつた。これは大變に身長の低い人てあつた。此の先生が元老院議員てあつたときに、議長が採決をするに當つて、御起立を願ひますと言ふと、先生は起立をして居るが、腰を掛けて居る方が高うして、立つたら却つて低い、テーブルと同じぐらゐてある。（笑）けれども國學のえらい大家てあつて、非常な憂國の士てありました。私が洋行をするときに告別に福羽さんの家に行つた。すると細川潤次郎先生も來て居られて、同席て種々の話を聞いたとてありましたが、其の時に福羽先生の話に「どうも谷本君、私が不思議なことに思つて居るのは、日本に情死の餘計に在ることてある。他の國には無い。これは何う云ふ譯だらうか、能く調査をして見たいと思つて居るが、未だ其の機會がない。又日本には然う云ふことを調査するだけの便宜も無からうと思ふから、此の度君が歐羅巴へ行つたら、此のことを能く調査して呉れ」と言はれた。そこで私も考へて「これは大方佛敎の影響てあらうと思ひます。未來の世に極樂があつて、一蓮托生と云ふやうなことを言ふ。其の影響てありませう。併し西洋に行つたら調べられるだけは調べて見ませう」と言つて西洋に行きました。それから三四年して西洋から歸つて來て再び福羽子爵に會はうと思ふたら、もう非常な大病てあつて、間もなく此の世を去られた。しかし私は實は十分の報告をすることが出來なんだのてある。ところが近頃京都の『日出新聞』の記者に大道和一君と云ふ人がある、これは新聞記者てありますから、然う云ふ材料を得ることには最も便利て、此の人が三四年掛つて情死を研究した、本年の初めになつて出來た

草稿はドエライもので、七八百頁もありませう。それを私の所へ持つて來て、先生、此の本を見て序文を書いて呉れ」と言ふた。即ち「心中社會學」と云ふ表題である（笑聲起る）マア分り難い名前である。段々聞いて見ると、社會學的に情死を研究したと云ふことであつた。それから讀んで見たところが非常に能く出來て居る、で其の序文を書くために今の支那の話も調査したのである。これは出版をしました。けれども『心中社會學』と云ふのでは人が分らないと云ふので、段々平凡な名になつて、その後同文館から出版をしたのには『情死の研究』と云ふことになつた。これなら當り前である。これに據つて心中の材料を調べて見たら、確かに宗教が關係するやうであります。

尤も之れに因んで諸君にお話を致しまするのは、佛教に於ては未來では一蓮托生、蓮の臺と言ふけれども、あの蓮を觀て見ると、此間中は盆だから蓮の花が咲いて居る。あれはどんなに大きくなつたところで、大體直徑が二尺もある葉は珍しい。それではどんなに痩せこけた人でも、あの上には迚も坐ることが出來ない。殊に蓮の葉と云ふのは兎角傾いて破れ勝ちのものである。其の上に夫婦で坐らうと云ふたら、餘程うまく輕業でも稽古して居らなければならぬ。チョイと乘つても直ぐに引繰返つてしまふ。して見ると未來は蓮の臺で世帶を持たうと思つて、二人で情死をしても迚も其の目的通りに行かないことは明である。それで私はあのやうな蓮であるにも拘はらず、何故蓮の臺などと言ふのかと思つて、年來の疑問にして居つた。ところが實は印度に在る蓮は日本に在る蓮とは違ふのである。どんな風に違ふかと云へば、非常に大きなものである。大體直徑が先づ一間ぐらゐもあるであらう。夫れが圓い形で、其の周圍には斯うお盆の緣のやうなものが附いてあつて、さうして中央ほど段々斯う凹いやうになつて居るから、人でも坐るのには誠に工合が宜い。其の葉の直徑が一間ぐらゐもある。マア座敷にしたら四疊半ぐらゐにもなるでせう。これなら夫婦どころではない、子供でも連れて行ければ、下女下男を連れて行つても宜いと思ふ。夫れが印度にはもう水面に綺麗に浮いて居る。其の蓮を名づけて英吉利人は前女王の名を採り、ヴィクトリヤ蓮とか言つて居る。是れなら坐ることが出來る。其の印度から佛教が傳はつて來たものであるからして、是れが日本の情死をすることの重なる原因となつたのであらうか、何うであらうか、兎に角此の情死否自殺と宗教と云ふことには、西洋でも大變着目されたのでありまするが、此事に就てお話を仕まするのは、伊太利にモルセールと云ふ人がある。是れが恐らく自殺をば研

究した最初の人である。其の著書は英譯にもなつて居る。其の英譯になつてからでも最早三十年になりますから、此の人が研究を始めてから、もう四十年ぐらゐになりませう。私も社會學で自殺論を習ひ出したのは此のモルセールの書物です。其のモルセールの書物に據つて見ると、羅馬舊教卽ち天主教を信ずる者と、それから新教を信ずる者との間には、自殺者の數が違ふと云ふことを見るのであります。卽ち新教の方では人口百萬每に約百九十人の自殺者があります。舊教の方では大變に少ない。僅かに五十八人しか無いと云ふことが、モルセールの調査では出て居るのであります。然うして見ると、宗教と情死否自殺と云ふことゝは非常なる關係があると云ふことが分る。此の問題は先日も申しました佛蘭西の社會學竝びに教育學の大家ヂュルケームと云ふ人の本にも非常に注意すべきものであると云ふことを言つて居るくらゐであります。知らず、日本の宗旨割にしたら何うなるかと云ふとの調査が出來て居るか何うか。恐らく出來ては居るまいと思ひますから、これは進んでやりたいと思ふ。之れを言ふと少しく當り觸りがあるかも知らないが、日本で謂つて見ますると、新教は卽ち本願寺の門徒宗……眞宗に近いのであります。舊教は眞言宗とか天台宗とか云ふのに幾らか似通ふたところがある。さて情死がどちらに多いかと云つて見ると、日本では眞宗、卽ち門徒宗のものの方に情死が多いやうに思ふ。是れは芝居を見ても然うです。「覺悟は好いか……南無妙法蓮華經」とは言はないで「覺悟は好いか……南無大師遍照金剛」とも言はない「覺悟は好いか……唵阿謨伽毘盧遮那」とも言はない。マア芝居でしたら必ず「覺悟は好いか……南無阿彌陀佛」と斯う言ふのである。然うして見ると情死をする者は皆眞宗である、笑隨つて私の言ふた眞宗は新教に似て居ると云ふ結論が引けさうなものぢやが、茲に又面白いことがある。彼の情死を以て名高きお俊傳兵衛です。其の墓は京都の鳥邊山に在るけれども、これは日蓮宗であつて、戒名は立派に日蓮宗の戒名が附いて居る。けれども芝居では『覺悟は好いか……南無阿彌陀佛』と言つて居る。實際は『覺悟は好いか……南無妙法蓮華經』と言ふたであらうと思ふ、笑聲起る)此宗教と自殺と云ふ問題は非常に關係の有るものである。夫れに就ては殊に家庭と學校と社會と云ふとの問題が大變大切になるのであります。

本章のお話はこれだけにして置きます。次ぎは之れを防ぐ方法として、全體に豫防の社會政策を申します。色々と長談義に成りて嘸退屈でござりませうが、なほ一回だけ御辛抱を願ひます。

第八章　兒童に關する施設

お話も段々進みまして、本章で終結することになりましたが、最後に子供のために爲しました種々の設備と云ふことの題でお話を致します。尤も是れは又他の言葉で申しますれば、兒童に關する社會政策とでも云ふことが出來ます。一體此の社會政策と云ふ言葉は嘗てもお話致しましたやうに、種々の意味に使はれるのであつて、或は資本主と勞働者と云ふやうな經濟上の階級の衝突に關して、之れを宥めるために爲すことを社會政策と云ふやうに申す人もありますが、併しながらそれは極く狹い見方でありまして、廣い意味から申しますれば、總て弱い者のためにする所の……それを救濟するためにする政策をば皆社會政策と稱へて宜からうかと思ふ。若し階級の衝突のためにすることのみを社會政策と云ふのであるならば、婦人方が多少自分の職業の範圍を擴めやうとか乃至は進んで英吉利などでやりまする政治上の權力を得るとか云ふやうな種々のことをしまするのは、決して社會政策とは云へない筈でありますが、廣い意味ではすべて弱い者の解放或は救濟に關する處置を社會政策と云ふ名の下に呼んで宜いと思ふ。左すれば此の子供と云ふものは如何にえらい子供でありましても、まだ柔弱なものでありますから、之れに關して社會政策上の施設をすることは最も必要なものであらうと思ふ。今日歐羅巴の大勢は兒童の社會政策と云ふことにまで進んで參りました。即ち昨年の萬國家庭教育會議に於きましても、殊に一門を設けまして、歐米諸國に於て行はるゝ兒童のためにする事業と云ふやうな題目が擧げられたのであります。尙其の事に就て何か新しい參考書がなからうかと云ふことは、到る所で屢々人からお尋ねになりますが、此の事は教育者諸君竝に家庭のお方に於ては御尤もなお問であります、何か良い書物があればと考へて居つたのですが、まだ何うも十分日本語では良い書物が出來て居りませぬ。それは工業に關しました社會政策、商業に關しました社會政策と云ふやうな問題に就ては、いま貴族院に居られる法學博士桑田熊藏君と云ふ人が、豫て工場法のことに就て取調べたところのものを書かれた、さう云ふものがある。近頃に於きましては關一君と云ふ法學博士の書いた『工業政策』、神戸高等商業學校教授の津村秀松君と云ふ人の著した『商業政策』などと云ふ書物もあつて、是れも御參考になりますが、併しながら兒童のことに關して書いたものは別段ないのであります。新聞に依つて見ますると、京都の大學で社會學の講義を擔任して居られる米田庄太郎君です。いつも

お話をしまする同君が、本年は東本願寺の講習會の講師に招かれまして、さうして此の社會政策のことを講ぜられたのでございますが、其後同君から詳しい手紙を寄越しまして、さうして講義の題目を詳細に書いた刷物を一緒に封じ込んで來て呉れたのを見たのであります。それに依つて見ると、社會政策のことに關することが、徹頭徹尾學理にも實際にも誠に詳しく書いてありまする。大概其の講義錄は此の秋にも出版になることであらうと信じます。若し其の講義錄が出版になりましたならば、それが最も宜いものであらうと云ふことを豫め御推薦するに憚らないのでございます。でありまするが、何か西洋の本ではと云ふお問がありまするならば、それは佛蘭西や伊太利には段々ございまするけれども、一寸纒つて一冊になつたものがあるか、ないか、私は承知せぬ。幸ひ極く近頃亞米利加で斯う云ふ本が出ました。それはマンゴルドと云ふ亞米利加人が書いたので『ゼ・チャイルド・プロブレムス』、譯して云へば兒童問題と云ふのです。是れは何時出來たかと云ひますと、昨年の暮に出來たのでありまして、私は土產に買つて歸つたのであります。是れは亞米利加の事を主にいたして書いたのでありますけれども、寄り〳〵に他の國のことも參考してありますから、最も新しいです。さうして又最も手頃な本でありますから、英語を解せられる人にして最近の兒童に關する社會政策の傾向を知られやうと云ふお人には、之れをお奬めするのでございます。

參考書はさう云ふことにして置きまして、是れより本題に入りますが、先づ第一番にお話を仕ますることは休暇學校のことであります。休んで學校と云ふたら、甚だ自家撞着したやうに思はれませうけれども、詰り休暇中を利用して一定の教育を施すのであります。それで日本でも夏休が長く過ぎるとか、或はもう少し縮めたら宜いとか、種々の議論が出て居る。甚だしきは夏休を全廢したら宜からうなどと云ふ議論も一部の人にはあるやうに承はるのでございます。さう云ふ風にして此の夏季休業と云ふことは日本でも今は問題になつて居りますが、歐羅巴でも夙に問題になつて居るのでございます。今日は先づ此の休暇問題に就てお話を致します。

其中の一は此の休暇學校であります。休暇學校は主に英吉利でやることであります。其の言葉も英語で附けたのである。卽ちヴァケーション、スクールと申します。休の間にする學校であります。此事は何時頃から云ひ出したのかと言ひますると、卽ち今から十二三年前に初めてやかましく申し出したものと見える。私が今から十年ほど前に、丁度夏倫敦に居りました頃は、『タイムス』新聞を初めとして、

眞面目な大きな新聞が、頻りに此の休暇學校の必要を論じたものであります。今記憶して居る所では、或日の朝の『タイムス』新聞の論說欄を割いて、此の休暇學校の必要を長々書いたのがあつたやうに記憶して居ります。恐らく今も其の切拔が手許にありますだらう。但し此の休暇學校と云ふのは何う云ふ場所で行はれるかと云ふと……此點がお間違ひのない樣にして貰ひたい。倫敦は只今人口七百萬以上を算へる大都會である。世界の一番大きな都會、一番繁華な都會である。一番富んだ都會であるけれども、それと同時に又貧民が多い。倫敦の貧民窟と云ふものは最も盛なものである。倫敦市は大體二つに分つて、西の方は富んだ人の居る所、東の方は貧しい人の居る所でありまするが、併し此の休暇學校は必ずしも東ばかりには限らない。場末々々の方、詰り貧民の多い所に行はれて居るのであります。卽ち是れは富豪の子弟の爲に行うて居るのではございませぬ。それは何うかと云ふと、さう云ふ貧民の子弟でございまするから、自分の住居は甚だ手狹である。衞生上宜しくない。道德上宜しくない。折角學校で敎へたものを夏休の間一箇月も二箇月もさう云ふ汚ない、さう云ふ惡い家庭に打捨て置いた日には、千日に刈つた萱を又一日で濡らしてしまふと云ふ弊があります。……そこで夏休の間でも一定の時間は學校に收容し、さうして敎へやうと、斯う云ふことが休暇學校の起りであります。併しながら休暇は何所までも休暇であります。夫故に當り前の學校のやうなことは致しませぬ。大抵朝早く始めます。朝早くと云つても、西洋の人は日本のやうに六時、七時と云ふやうなときから仕事はせぬ、大抵八時ぐらゐから始めるのです。さうして二時間半或は三時間仕事をするので、其の仕事は手工が主であります。殊に十年前に公表した所では、粘土細工を頻りに奬勵して居つた樣であります。其他は普通の學校でもやるやうな音樂、唱歌をやります。謂つて見れば、敎へるよりも惡い家庭の空氣に染み込ませることを防ぐのが目的であつて、其の目的は積極的よりも寧ろ消極的にあると云ふことを申します。

其次は昨日申しました露天學校であります。學校と云へば大きな建物が要るやうであるけれども、今の傾は段々と此の露天でやるやうになつて來ると云ふ話は每々申しましたが、何故かならば、人間に最も必要なものは無論空氣であります。其次は光線であります。此の日光と云ふものが一番人間に健康を與へるものであると云ふので、如何に空氣の流通が宜くつても、屋根のある所でやつては十分日光に觸れることが出來ませぬから、直接日光に背面を曝すと云ふことが今の傾であるのであ

ります。此の露天學校と云ふのにもいろ〳〵の種類がございます。先づ第一番に申しますれは學校植民であらうと思ふ。それから第二番には所謂林間學校、第三番はそれと矢張り竝んで居るので、卽ち療養學校であると思ふ。でありまするから學校植民、林間學校及び療養學校と云ふやうなことを算へます。是等のお話は私が本年春歸朝早々大阪市のお招きを受け、中之島の公會堂で大體お話をいたしたことでございまするから、或は反復重複の嫌ひがあるかも存じませぬけれども、便宜上再び繰り返して申すことに致しませう。此學校植民と云ふものは、英語で云へば、學校はスクール、植民はコロニー、だから、スクール、コロニーです。通例は單にコロニー。コロニーと云つて居りますが、教育學上コロニーと申しますれば學校植民のことでございます。今は獨逸でも、佛蘭西でも、英國でもコロニーと申します。此のコロニーと云ふことに就ての種々歷史などの話は、乙竹岩造君が西洋から送りました『十二箇條の報告書』と云ふものゝ中に確か精しく書いてあつたやうに思ひます。要するところ、歐羅巴でも餘り舊くないのであつて、强ひて穿鑿しました所で、先づ三十年以來のことであらうかと思ふ。前に私が歐羅巴に居りましたときは、丁度一夏獨逸の北の方のキールと云ふ所に居りましたが、此のキールと云ふ所は、日本で云へば舞鶴とか、横須賀とか云ふ風に、海軍の軍港等のある所でございまするが、海岸の誠に空氣の宜い所であります。此のキールで盛に學校植民をやつて居ることを見て深く感じ、それを調査するために、種々手數を盡したぐらゐのことであつたのですが、今回參つて見ますると、此のコロニーなるものが到る所に盛に行はれて居ることを見て驚いたのであります。獨逸は右樣の譯にて比較的コロニーが早く行はれて居ります。英吉利もコロニーが最も盛であります。若し英吉利で六七月頃に大きな新聞を御覽になりましたならば、續々として廣告の出て居ることを見られるでありませう。其の廣告は、追々夏になつたならば貧家の兒童とも云はぬが、實は貧家の兒童をです、其の兒童を二千人とか或は三千人とか連れて海岸地方へ行かうと思ふに就ては、莫大の費用が要ることであるから、何うか汎く仁人義士の義捐に預かりたい、御寄附に預かりたいと云ふ廣告が出る。さうすると瞬く間に何萬圓或は何十萬圓と云ふ金が集りまして、澤山の生徒……幾千百の兒童を連れて、而も長い間行くことが出來るのであります。英國に於ては今此事が非常に盛であります。併し獨逸とか英國とか云ふ話をしまする代りに、今日お話をしまするのは、其他の小さい國では實際何う云ふことをやつて居るかと云ふことを申し上げたら宜からうと思ふ。英國や獨逸の

寄附金が多いと云ふことを言つても、それは英國の如き富を以てすれば出來る筈であります。日本などはいつも云ふ通り中々寄附が出來ない。幸に彼の濟生會も聖天子の思召と、大臣地方官等の總ての人々の御盡力に依つて、立派に出來たやうではござりまするけれども、マダ中に寄附は面倒なやうに思つて居ります。そこで英國などの話をしてもそれは大き過ぎるから、今日は極く小さい國の話をして見やうと思ふのであります。

第一番に申しまするのはブラーグの話であります。ブラーグと云ふのは定めて御承知でせう、其の國の人に聽かせると怒りませうが、今は墺地利の一部分になつて居るボヘミヤと以ふ國の首都であります。尤もボヘミヤは早くより墺地利の羈絆を脱して獨立しやうと思つて居るのですから、墺地利の一部と云へば怒りますけれども、今は事實さうなつて居るのだから仕方がない。其のブラーグのコロニーのお話をして見やうと思ふ。此地のコロニーは比較的早く存在して居るのであります。卽ち千八百八十二年から存在して居るのでありまするから、大概三十年近くになるやうに思ふ。既に今日まで其のコロニーと云ふマアーの會ですね、其の會でやりました子供の數が一萬一千八百五十人ほどになつて居ります。是れはブラーグから幾哩か隔たりました所にルッツと云ふ山がある。其のルッツと云ふ山の方へ連れて參るのでありまして、其の山の所に大きな建物が建てゝありまする。其處へ兒童を收容するのでござります。併しながら殊に注意すべき問題は、大きな建物の中に兒童を收容するばかりでなくして、便宜に依つては百姓家に一人二人づゝ分けて子供を預けると云ふことをするのでござります。是れは何うか十分のお聽きを願ひたい所であつて、遠方へ連れて行つても、澤山のものを一緒に集めて置くよりも、一つ〳〵百姓家と云ふやうな所に手分けをいたし、極く少數の人間を其處へ賴み込み、所謂其の家族であるかと云ふやうにする方が、結果が一層宜いさうであります。斯の如くしますることに依つて愈〻田園生活に馴れさせることが出來、自然を愛すると云ふことを奬勵することが出來ると云ふのて、ブラーグては今此の百姓家の預けと云ふことをいたして居ります。是れは尤もブラーグばかりではなくしてブダペストなどでもやつて居ることてあつて、健康に子供を育てやうと云ふことになれば、田舍の百姓家に預けるに如くはないのであります。甚だ畏れ多いことてはありまするけれども、御維新前は朝廷などに於かせられましても、宮樣方をお育てなさるのに、京都て申しますと上加茂或は下加茂などの百姓家へお預けになつたことがある。卽ち

高貴の御方にお乳を差上げ、長い間お世話を申した乳人などが、今尙壯健で居ると云ふことを聞きまするのでございます。ブラーグでもさうである。ブダペストでもさうである。此の大阪の如きは人家櫛比して居る所でありますから、斯う云ふ所では人間が弱くなるばかりである。隨つて或はさう云ふ注意を要するのではございますまいか。是れは家庭と學校の連絡上最も大切なる點である。然らばブラーグなどに於ては田舍の百姓家へ子供を預けるに就て、一體、一人どれぐらゐの費用が掛るかと云つて見ると、其の費用がブラーグの錢で申しますると、通例五十二クーロンネ四十ヘラー斯う云ふのですが、相場が違ひますけれども、大體半分で割つたら宜からうと思ふ。卽ち日本の金にして二十六七圓ほど一人に掛かると見て宜しうございませう。どれぐらゐのものを連れて行くのかと申すと、一番に先づ八百人ぐらゐの生徒を連れて行くと云ふことになつて居ります。又どれぐらゐの間連れて行くかと云ふことを考へて見ねばならぬのでありますが、承はれば日本でも地方に依つてはッヒ一日二日の間海岸とか山の方へ連れて行かれるさうです。それも惡いとは云ひませぬ、氣心も變はり大に功能があるでありませう。だが西洋のは非常に長く連れて行くのであります。此のブラーグなどでは七月十五日から九月十五日までと云ふのですから、滿二箇月連れて參るのであります。滿二箇月八百人の子供で一人二十五圓づつとしたら、一箇月に一人十二圓五十錢、非常に高いとは申されませぬ。そこでどのくらゐの豫算を其の會に取つてやつて居るかと云ふと、昨年の豫算に依つて見ますると四萬二千クーロンネと申すのですから、卽ち日本の二萬三千圓ほどであると思ふ。それぐらゐの費用が掛るのであります。其二萬三千圓の金が然らば何處から出るのかと申しまする金は非常に少ない。爪の垢ほどしか出さないのである。僅か二百圓ほどしか出さない。だから二萬三千圓掛るものに對して二百圓しか補助がないのであります。其他の二萬何百圓と云ふ金は何處から出るのかと云ひますると、是れが皆年々歲々寄附に依つて出るのであると云ふことは、我々の注意すべき點であると思ふのでございます。

今お話をしたのはブラーグと云ふやうな所でありますが、此度は又飛んで西班牙の方のことに就て申して見やうと思ふ。此の西班牙は歐羅巴の中でありながら餘程物事の遲れた國のやうに思はれませう。併し今のコロニーと云ふやうなことは十分にやつて居る。尤もそれは近しいことでありまして、千九百四年と云ふのでありますから、今から大體七年前に創めたのであります。卽ち一の會を組織致しまし

て盛にやつて居る。其の連れて參りまする時間は、此の國は熱い故でありますが、三週間ほど連れて參るのであります。そこで、一人の費用が、左樣です、大體同じことでございませう、是れも時の相場に依つて違ひまするけれども、九十ペセスターと云ふのであります、左樣ですね、三十圓ばかり掛りませうか、大分費用が高いやうでございます。併しながら此費用も皆寄附に依つて出來るのであると云ふことを申して居る。尙お隣り國の佛蘭西の方に立入つて見ますると、佛蘭西には殊にいま一の組合が出來て居る。其の組合の名は夏季植民組合と云ふのであります。さう云ふものが出來て盛んにやつて居ると云ふのであります、其の遣り方は大體同じことでございまする。是れは主に學校長が其等の事に當り、さうして學校兒童を夏季休業の間さう云ふ所へ連れて行くと云ふ計畫になつて居るのでございます。

尙之れに就てもう一つ注意を致さねばならぬことは、日本でさう云ふ場所に子供を學校から連れて參ると云ふやうな場合には、先生と子供としか參らぬのが當り前でございます。併し西洋ではさうでなくして、お母さんなり何なりの附いて行くことが多い。日本でも殊に教育上望ましいことはお母さんが附いて行くことでございます。此事も好い機會でありまするから、家庭教育上お話をして置くのでございまするが、例へば獨逸などにしましては、夏向きとか、又秋分になりますると、頻りに修學旅行と云ふことをやります。此の修學旅行に附いて行つて見まして何う云ふことを感じたかと言ふと、お母さんが澤山に附いて行くと云ふことを非常に感じたのでございます。私が先年ライプチヒに居りましたときに、一度此の學校の修學旅行……遠足に附いて行つて見やうと思つて、或小學校の校長に頼んだ所が、來る何日に行きますからと云ふので、其日汽車に乘つて一緒に參りました。一時間ばかり掛る所の山の方へ行つたのでありますが、其中て殊に感じたのは、其の子供のお母さんが幾人か乘つて居つて、而も校長並に教員と分け隔てなく、誠に打解けて種々の話をして居ると云ふことを深く感じたのでございます。向ふでは校長先生とか何とかは云はない。向ふでは御承知の通り人を極めて平易に呼ぶのである。呼捨にするのである。呼捨にするのが向ふては一番親しいと云ふことになつて居る。輕蔑して呼捨にするのと、親しくして呼捨にするのとは少しく調子が違ふてせう。西洋では大抵名を呼捨にする。何れの家族に於ても、夫をジョージと云ひ、妻をメリーとするならば、妻は夫に向つて「ジョージ……」と呼び、夫は妻に向つて「メリー……」と呼んて居る。男の方が女を呼捨にして、女房が夫を呼ぶのにさん附けをすると云ふことはな

い。彼の亞米利加のテッドと云ふ老先生などもさうです。先日私が西洋から歸りがけに此人の所へ寄つた。さうしてッヒ一泊したのでありますが、彼のラッドと云ふ人の名はジョージと云ふので、妻君が二階から「ジョージ……」と呼ぶと、お爺さんノコ〳〵梯子段を上つて來る。誠に夫婦仲が親しい。さう云ふ風でありますから、是れも亦面白いです。日本では小學兒童の名を呼捨にするか、さんを附けるか、何うするかと云ふことは、今も教育者間の問題になつて居ります。それに就て西洋は何うしますと云ふことを聽かれるけれども、西洋と日本とは風俗習慣が違ひます。右樣のことであるから一緒には行かない。併し日本でも極く親しい關係になつたならば、矢張り西洋に似て居ると思ふ。例へば夫を權七、女房をお松と云へば、女房が權七さんとは云はない「コレ權さん……」と云ふだらう、(笑聲起る)又夫の方「コレお松……」と云ふだらう。權さん……お松……誠に親しい、(笑聲起る)奥樣とか旦那樣とか云ふのは却つて六かしいのぢやが、日本でも其點は極く平たい風にしまうたならば、オイ熊さんとか、八さんとか云つて濟むのです。それを學校兒童にまで持つて行つて、中村君、山下さんとか云ふとは世界中ない圖です。併しながら風俗習慣が異ると云ふとは考へねばならぬのである。右樣の次第でありますから、其の遠足會に附いて行つて見ると、お母さんが校長に向つて、校長が假に七太郎であるならば「コレ七さん、何うぢやいナ、家の子供は些と出來ますか、シッカリやつてお呉れよ」と云ふやうな調子である、(笑聲起る)少しも分け隔てなくやつて居ると云ふことは、極く有難いことであると思ふ。さう云ふ譯でありますから、此の夏季學校になりましても、成るべくは母るが同行することを求めると云ふことになつて居ります。

尚面白いことは斯う云ふのもあるです。佛蘭西にては或時殊に斯う云ふものが出來た。卽ち巴里の近所に於てメーゾン、ゾシアルと云ふものが澤山出來たことがあるのでございます。是れは直譯すれば社會的家屋と云ふことだから、何か社會黨の家で、密議を凝す所かと云ふと、さうではない。交際でもする家或は社交の家と云ふことでせう。社交の家と云つても、何か貴公子とか貴婦人とか云ふ、所謂紳士淑女が寄つて交際でもする所かと云へば、さうでもない。是れは巴里市の郊外に小さい家を拵へて、さうして日曜に一家族が打連れ立ち、其處へ行くと云ふことが行はれたのであります。ところがそれはマア種々の都合で止みましたけれども、今諸君が、若し獨逸殊にライプチヒ邊に行かれたならば非常に驚くことがあるです。ライプチヒ邊は無論山も近くにありませぬ、極く野原です。秋が來ますれば畦のない麥畑の

渺茫たる野原です。些とは高低があるけれども、大概野原です。其のライプチヒの市街の直ぐ外のところに、僅か高さは一間半ぐらゐで、坪數も先づ一坪あるかないかぐらゐの犬小屋の少し氣の利いたものが無數に建つて居る。丁度此會場内にアナタ方の頭が點々としてあるやうに、其の野原に小さい犬小屋のやうな黑く塗つてある小屋、それも立派な建物なら宜いけれども、殆んど小屋とも云ひ兼ねるやうなもので、ボロの木を以て打合せたり、繩で結んであるやうな家が點々散布して居るのであります。私は餘程不思議に思つて、居つた。ところが、其のライプチヒに居りました ときに、一日小學校の先生が別莊を持つて居るとは中々豪氣なも富んで居る國であるけれども、小學校の先生が別莊を持つて居るとは中々豪氣なものである。尤も大阪では別莊ぐらゐを持たれた小學校の先生もあるとは信ずるけれども、(笑聲起る)マアさう云ふ人は少なからうと思ふ「そんならいつ何時行つて見ませう」と云つて、其日其の先生に連れられて行つて見ると、電車か何かに乘つて其の場所に降りる。スルと其處に妙な垣根がしてある、先生が其處を開けて、さうして今の犬小屋のやうな所に這入るのである、「是れが君の別莊か」「如何にも是れが吾輩の別莊だ」「成程……」と云つたが、段々尋ねて見ると、此の邊の人は皆斯う云ふものを持つて居る。さうして餘暇があつたならば、一家族擧つて此處へ來て、其前の庭園なり、郊外なりて遊ぶ。雨の降る日は其中に這入つて居る。是れが別莊だ。成程考へて見れば別莊と云つても宜いのぢや。別莊と云ふのは贅澤をするためのものでなくして、市内の惡い空氣や何かを避け、郊外の空氣の好い、日光の好い所に行くのが趣意である。雨天には一寸雨除けをすることさへ出來れば宜いのである。是れは獨逸の例でありますが、前に云ふた佛蘭西のメーゾン、ソシアルと云ふのもそれであります。其事の功能は、一家が團欒して行くと云ふことにあるのださうであります。故に若しそれまでに行かないても、學校殖民は成るべく家族が同伴したいと云ふことを申すのであります。

尙之れにつきもう一つ關聯してお話をして置きますることは、日本で例へば夏休に海濱に行くとか、山に行くとか云ふことがあります。それに就て大阪は存ぜぬが、京都で先年實際見た所に依りますると、それは多くは中以上の子弟が參る樣であります。相當の費用が掛る。尤も一週間行つて僅か三圓四圓と云ふのではありましたやうですが、兎に角相當の費用が掛る。そこで學校では今回何處其處へ行くから能くお父さんなりお母さんなりに相談をして、行きたい者は申し出よと云ふのです

が、さう云ふ催しには大概中產以下の者は行かない。私の方でも子供を一夏學校に託して遠方へやつた。それは御當府管内の濱寺に來たのであります。尤も濱寺の小學校やらを拜借して、其處で寢起をすることにし、一週間か十日ほど海水浴をさせたやうでありますが、もう其の翌年から子供は行かうとは云はない。お父さんやお母さんと一緒に須磨へ行つて、海水浴をしたり、御馳走を喰べる方が宜い、濱寺に行くと、お汁などと云ふものは何だか實のないやうなドロ〳〵したものだし、お菓子と云へば何だかパンの粕見たやうなものを喰ひ、家に居るよりも餘程苦しいから、もう夏休にあんな所へは行かぬと云つて、何うしても再び行かうと云はない。是れは又尤もであると思ふ。西洋では決して中產以上の子供をさう云ふ所へ連れて行かない。中產以上の子供は皆父母が連れて行くのであります。それは今も云ふ通り皆中產以下の、自分で行くことの出來ない家の子供をやるのでありますから、隨つて多くは寄附金に據るのであると云ふことを申すのであります。其事の好い例として茲に擧げべきものは、瑞西に於てやつて居るとであります。瑞西でやつて居りまするのは、山行きでありまして、其事を名けまして、兒童山行事業とでも譯しませう。諸君に又此事に就て一寸御注意を願はねばならぬことがありますが、聞く所に依れば、西洋では頻りに山に行くと云ふことを言ふのであります。山國では山に行くより仕樣がない。海濱の國は無論海濱に行くのである。併し海が宜いか山が宜いかと云ふと、それは必ずしも何れが宜いと云ふことを言へまいと思ふ。例へば肺病の治療に就きましても、醫者に依つては海濱に行くのが宜いと云ふのもあり、或は山に行くのが宜いと云ふ人もある。それ〳〵意見が違ひますから、今茲にどちらが宜いと云つて判斷することは出來ませぬけれども、海のない國では海に行き樣がないのである。尤も他國まで行けば宜いけれども、それでは多大の費用が掛るから、そう云ふ大仕掛けの旅行は出來ない。墺地利のボヘミヤなどは海のない國でありますが、瑞西には有名なるアルプス山と云ふ高山がある。それで瑞西では其のアルプス山に兒童の山行をするのであるから、之を兒童の山行事業と稱して居るのでございます。それは何歲ぐらゐまでの子供を連れて行くかと云ふと、滿五歲から十三歲までの子供を連れて參るのであります。日數はどのくらゐかと云へば、八月一日から九月九日まで連れて參ります。夏期休暇長短論者は能く御注意を願ひまする。日數は四十日間でございまして、費用はどのくらゐ掛るかと申しますると、四十日間に一人前大體十五圓ぐらゐでございませう。二十八フランと申しまするから、精密に云へば十二

圓ばかりでせう。其のくらゐの旅費が掛る。尙茲に注意すべきことは、山に行く者には衣服の要ることであるのです。山行には特別の衣服が要る。例へば山で運動をしまするのに輕便な衣服も要りませうし、夜分になりますと非常に氣候が變つて冷えますから、相當の寢衣が要る。ところが右申しまする通り大體が中產以下の者主として貧民の兒童を連れて行くのでありますから、中々山行の輕便なる衣を拵へるとか、夜の寢衣の相當なものを拵へると云ふことは出來ないのであります。そこで山へ連れて行くものには、其の衣類までも供給してやるのであつて、其の衣類の供給費は總體三百五十圓ぐらゐも掛ると云ふことになつて居る。右樣のことで相當の費用が掛るのでありますが、其の費用は父母、卽ち家庭の支辨するものが非常に少ない。總體の費用にして僅かに百圓から百二十圓ぐらゐを支辨するに過ぎませぬ。而して大部分は市が補助いたすのであります。市からは約一千圓の補助をすると云ふことであります。其他は婦人會があつて、其の會からして二百二三十圓の補助が出るさうであります。又婦人會が屢〻慈善市を開いて呉れます。其の賣高が大體六七百圓ある。それも此の會に補助すると云ふやうなことで、優に行けるのであるとして見ますれば、西洋では婦人會と云ふものは何う云ふことに活動して居るかと云ふことも分ると思ひます。日本では赤十字社とか何とか云ふことのために屢〻慈善市が開かれますが、兒童の學校植民のために慈善市を開くと云ふことはない。右樣の譯でありますから、暑中休暇と雖も決して子供を無益に遊ばして置いてはならぬと云ふことを申すのであります。

其次は林間學校でございまするが、此林間學校のことは先刻も申しまするやうに、既に公會堂でお話をいたしたとでございまするし、又其節も承はりましたが、此大阪市內では南區の小學校に於きまして、先年來既にお試みになつて居り、而も本年は更に一層盛んにお遣りになつて居ると云ふことであります。我々は双手を擧げて悅ぶのであります。若し機會があつて外國に報告をしたらば、非常に向ふの人も感心するとであらうと思ふ。實は林間學校と云ふものは新しい事なので、前に私が留學して居りましたときには、未だそれが議論に過ぎなかつた。一二の計畫はありましたらうけれども、大體は議論に過ぎないと思つて居りましたが、今回行つて見まするとそれが非常に盛んに出來て居る。何う云ふ所に出來ましたかと言へば伯林ですが……伯林の外に別の所がある、之を稱しましてシャロッテンベルヒと申します。元は伯林市とシャロッテンベルヒとは別でありました。伯林は今日人口百六十萬で、

シャロッテンベルヒは三十萬餘ありませう。それが近頃一緒になる樣なものである。丁度京都と伏見が一緒になる樣なものである。或は大阪と堺が何年かの後には一緒になる樣に、一緒になつてしまつたのであります。之れを稱して大伯林と云ふ。て大伯林と云ふときには此シャロッテンベルヒを籠めたのを云ふのであります。たゞ伯林と云ふときにはシャロッテンベルヒを除いて云ふのであります。所で此の伯林の方には人家が櫛比して居り、卽ち軒竝が極く稠密てありますから、中に林間學校は出來ないが、大體の林間學校はシャロッテンベルヒの方に多いのであります。又シャロッテンベルヒは伯林市の中でありながら半ば獨立して居るので、恐らく世界中社會政策の完全に行はれて居るものはと云ふならば、此シャロッテンベルヒを第一に擧げても宜いくらゐに物事が整ふて居る樣であります。何分伯林の外てありますから大變に森が多い。此邊の森は松が多いやうに思ふ。大變に丈が高い、さうして森と云つても粗く生えて居る。さうして砂地てあります。廣い所になれば周圍が何里と云つてある。其森の中には無論廣い道路が通つてあつて馬車が通ひます。無論汽車なども通つて居ります。周圍何里と云ふ大きな森てすから餘裕は澤山にある。其の森の中に拵へてあるのてあります。シャロッテンベルヒ

には今日では既に十二ほどの林間學校があると云ふことを承はつて居ります。私は幸に其の林間學校の一を觀たのてありますが、平たい圖を描いて見ますると、松林の中に極くマア簡單な斯う云ふ圖をする。極く簡單て宜いのです。たゞ圖をする。其中程に木戸があります。木戸と云つても丸木を立てゝ拵へたやうな門てあつて、別に何等の手數が掛つて居らぬ。それからそれを通つて這入つて見ますると、此處に持つて行つて假小屋が建つて居る。(此邊圖を描いて說明す)それこそ實に假小屋てあつて、日本の家よりも粗末てあります。悉く木材を以て建てたのであつて、大抵四室ぐらゐありましたらうか。其の一室はマア小使部屋。一室は校長や教員の居る所。餘の二室は敎場と云ふやうな風て、極く狹い所てす。敎室と云ひましても大體三十人容れられるか容れられぬかと云ふやうな狹い所てある。併しながら斯う云ふ狹い所て何うするのかと云ふお問ひがありましたならば、林間學校は讀んて字の如く林間てあります。稽古は皆露天てするのてある。黑板は松の樹に懸ける。掛軸も松の樹に懸ける。皆露天てやるので、一方にはベンチが置いてある。さうして一方には比較的廣い建物がある。是れは丁度雨天體操場と云ふやうな風の建物てありまして、恐らく雨の降つたときには、マア此處へ集めるのだらうと思ふ。平生

は之れを食堂に使つて居ります。それから此の體操場から少しく向ふへ行くと、圍の中に又圍がしてある。其圍と云ふのは日本で云へば葦簀ぐらゐを立て廻した圍てあつて、極く粗末なものであります。丁度外から覗いても見ることが出來ない。あれは何ですかと云つて聞いたところが、あれは日光浴場であると斯う答へたのであります。日光浴場と云へばどんな設備がしてあるのか、一度見せて貰ひたいと思つて這入つた所が、何のことはない、其の中には十五坪か二十坪、マア廣うて三十坪もありましたらうか。其處へ持つて行つて下の砂を軟くし……外圍も砂地でありまするが、まだ其砂を極く軟くして、さうして子供が外から見えぬやうに、垣が二重になつて居る。其中で裸體になり、砂の中に這入つて首だけ出して居る。斯うして所謂日光浴をするのである。是れが一番功能があると云ふので、之れを夏中やらせるのであります。

それに就て一寸話が轉じまするが、日本で海水浴の出來ましたのは何時であるかと云ふと、明治十五年でありませう。確か須磨邊に出來たのが初めてあつて、それは御當地の緒方病院の先代緒方惟準先生が初めてやられたやうに記憶して居る。それから明治十七年に東京の方で出來たのは大磯であつて、軍醫總監松本順先生がやられたのである。其の松本先生が明治十七年初めて大磯で海水浴を開かれたときに、私は少しく緣故があつて、丁度其處へ初めて行つたのであります。さうして私は一週間か十日ばかり居りましたが、其時松本先生の敎に依ると、海水浴と云ふのは海に這入るのが決して功能のあるものでない。寧ろ太陽の日に暖まるのが宜いのである。海岸の砂を掘つて其の中に身體を埋める。卽ち全身を掩うて、さうしてヂッとして居るが宜い。それが功能があるのである。海の中には決して長く這入るなと吳れ〳〵も云はれたのであつた。其際始終松本先生の御贔負を受けて居つた一人は、此程中村歌右衛門と云ふ名になつた、本人は名譽の積りでせうが、……彼の中村芝翫です。此人は平生松本先生の御贔負を受けて居るから、先生の言はれることは何でも聽かなければならぬ。それがために女形の綺麗な俳優が網笠を冠り、さうして其砂の中に埋もれて居つたのを、私は今に歷々と覺えて居る。海水には決して五六分間ぐらゐより長くは這入らぬが宜いと云ふのです。西洋でもさうです。獨逸キールの中學校に游泳會がある。先度其の游泳會を支配して居る人と懇意になつて、私は游泳場を見せて貰ひましたが、日本で子供に游泳をさせるやうなものとは丸で違ふ。日本では例へば向井流とか、環海流とか云つて、二里泳ぐとか、三里泳ぐとか、

長い距離を泳ぐことを天狗にして居りますけれども、キールの中學校では何分間より以上水中に居るべからずと云ふ規則がある。大概五分間、極く長いので十五分間ぐらゐより長くは居らない。我々が見ると子供の行水のやうに見えるのである。又三里も四里も泳ぐと云ふことは、向ふの人に云はせたら別にそれだけの必要がないかも知れぬ。たゞ海の中に長う這入つて居ることがどれほど堪へるかと云ふとをキールの中學校などではやつて居るのを見たのでありますが、要するに水の中に餘り長く這入つて居るのは惡い。濱寺でも、堺でも、長く水中に這入るよりも、海濱の砂地で日光浴をするのが宜いのであります。今云ふシャロッテンベルヒに於ても卽ち松林の中で日光浴をやる。で露天學校に伴うて居るものは此の日光浴であります。人數はどれぐらゐあるかと申しますると、卽ち大體二百人でございます。時期は何時であるかと云へば、先づ夏分の二箇月でございます。費用は親の支辨もありますするけれども、市の寄附も澤山にあります。殊に大抵は皆通學でございまして、寄宿はいたさぬやうでございます。併しながら正午の食事は必ず其處で供給するのでありまして、私の參りましたときも、其の食堂の所、卽ち雨天集會場の所へ皆熱心に集り、さうして仕事をした後で、御飯を一緒に喰べて居るのを見たのであります。

食事と云ふのは極めて簡單ではありまするけれども、併しながら溫かい汁とパンとであつて、誠に美味さうであつたのであります。斯の如きものが其學校から供給されるのでありまして、之れに依つて矢張り體育と營養分を取らせると云ふことの調和が取れて行くのではなからうかと思ひます。マア林間學校は斯う云ふ風であるやうに存じます。

其次に申しまする療養學校は矢張り林間學校に似たものでありますけれども、是れは大體寄宿して居るのであります。それが一の違ひであります。林間學校でも寄宿して惡いと云ふことはないけれども、シャロッテンベルヒのは皆親の家から通うて居るやうであつた。此の療養學校は矢張り伯林の近所の森にある。山の少し高い所の松林の中にあるのです。私が行つて見ましたところは、一方に山の高みがある、それから一方に低い所がある。此の高みの所は女で營養不足の人であるとか、肺病の虞でもあると云ふやうな風の人が、夏向き其處に於て養生するのである。八十人乃至多いときには百人以上の人が其處で寢起をするやうになつて居る。それは何う云ふやうにしてするのかと言ひますると、平生から懸金をしてあるのです。一週間毎に極く僅かの療養懸金と云ふものさへして置けば、病氣に罹つたと云ふと

きに然るべき手順を履むと、其處へ行つて療養をすることが出來る。それから又其者の連子であるとか、或は又全く子供だけを收容して居るのが此の療養學校でありまして、是れとても同じことです。此の處へ持つて行きまして小さい家がある。又此家に小さい居室があります。これを三室として見ると、一室は小使室、餘の二室は教場でありますが、教場の中には僅か十人ぐらゐしか這入れない。それは汚ないも〳〵、あんな汚ない家は日本にもない。丁度車夫の溜りと同じ家である。それから又其の一方に廣い家がある。是れは雨天に入れる。其他は全く露天でやる。そこで段々話を聽きましたら、何うするかと云へば、是れも夏向き大凡毎日二時間づつ學校の稽古を復習させる。其他は凡て其處で勝手放題にやらせる。或は夜分は雨天の集まり所の中で寢させることもある。松と松との間にハンモックを懸けて寢させることもある。寢臺を砂の上に置いて寢させることもある。或は直接に毛布を砂の上に敷いて寢させることもある。幸ひ夏は餘り雨も降らないから、却つて其の方が養生になると云ふことを申して居りました。さうして其奥の所に又日光浴場がある。斯う云ふ譯で極く〳〵手輕に出來るのであります。併し子供を連れて行くのは多くは中產以下であつて、それ以上の者は自分で行くと云ふ習慣が多いと云ふことを申すのであります。併し日本では、立派な家庭でもそれほど行屆いて居りませぬから、西洋流にはやれますまい。何うか日本では良い家庭の者も規律を正して林間學校或は植民學校に連れて行く必要があらうと思ひます。それが所謂露天學校であります。大體のことは是れてお分りにならうと思ひますが、今の療養學校で私の見ましたのは、子供が八十人ほど收容されて居りまして、餘り大仕掛のものではござりませぬ。

其次の第三番目に申しまするのは禁酒問題でござります。是れは又歐羅巴では非常に盛んなことである。是れも何時かお話をしたと思ひまするが、右申しました伯林の外のシャロッテンベルヒには殊に職工のために設けた所の大きな博物館があるのであります。即ち職工の種々なる便利を圖り、職工の衣食住を改良するために、或は職工自身の仕事を更に便利にするために、種々の材料を蒐集しました職工博物館があるのでありまして、其の職工博物館の二階に一の禁酒博物館があります。禁酒博物館と云ふのは酒の害に關係した總ての調査したる表とか、書物とか、乃至は實際酒の毒に中つた人の體内を解剖したところの標本とか、圖畫とか云ふやうなものを悉く陳列して居るのでありますが、西洋各國に於きましては、只今は頻りに此の

禁酒運動と云ふものを盛んにやるやうてござります。其の禁酒運動て最も盛んにやつて居りまするのは佛蘭西てござります。佛蘭西ては既に『新教育講義』の中にも書いて置きましたが、千八百九十七年以來文部大臣が禁酒科を小學校の内に設けられたことてござりまして、其の以來は餘程其事が進んて居る。併し事實未だ功能は十分ないのてござります。是れはたゞ單に教場て教へるばかりてなくして、一箇の社會的設備をしなければならぬのであると思ふ。社會的設備が極端まて參りますれば、亞米利加の某州のやうに、或は那威のやうに、或は都會に於て、或は一州に於て、毫も酒精類を賣らせることを仕ないと云ふことまて斷行しなければならぬと思ふ。先日來お話をしました彼のガーテン、シテー、卽ち田園都市などに於きましては、大概今日は酒屋と云ふものを置かないやうになつて居るのてござります。それまて行けば固より結構かも知りませぬが、それは國情が許さぬのと、又さう云ふことを仕やうとしても、舊い國では急に行はれぬと思ふ。故に學校竝に學校卒業者に對した青年會のやうなものゝ一種の禁酒會或は節酒會と云ふやうなものゝ出來ることを希望する。其例として擧げまするのは佛蘭西にリールと云ふ所がある。其處にローラン學校と云ふのがある。ローランは有名な教育者の名前てある。此のローラン學校に於ては近頃熱心に禁酒運動をやつて居る。それは何う云ふやうにして居るかと云ふことを御參考のために申して見ると、年少會員と青年會員と云ふ二部に分つて居るのてあります。年少部にいたして禁酒會員とならうと思ふ者は滿十歳以上の者てあります。是れは父母の承諾を得てなることてありますが、さて其會へ加りましたときには何うするかと云へば、毎日一回づつ會合をする。其の會合ては酒のことに關係した講話がある。酒のことに關係した演說がある。酒のことに關係した幻燈があると云ふやうなことてあります。其他此の會には特別の體操場を持つて居る……運動場を持つて居る、竝びに一緒に旅行をすると云ふやうなことて、たゞ言つて聽かせるのてなくして、一種の社交倶樂部のやうな風になつて居つて、子供が悅んてそれをやるやうてござります。青年會と云ふ方は卒業者……卒業した後に長くそれを維持するためにやるので、大體の組織は同じとてあります。要するに今日は歐米各國、殊に佛蘭西にはさう云ふやうな實際の組織があると云ふことを御參考に申して置きます。

其次は第四番、これは兒童の死亡率てあります。兒童の死亡率を減少する計畫てあります。これも教育上大切なることてある。家庭ては尙更大切なることてあり

ます。諸君！案外子供と云ふものは能く死ぬるものであつて、一年未滿の子供の死ぬる數は統計に據れば非常に多いのであります。恐らく大阪市などでも、一年未滿の幼兒の死ぬることは驚くべき數であらうと思ふのでありますが、先達て佛蘭西の巴里大學病院の小兒科の方の科長をして居りまするお醫者さんで、ラッサブレルと云ふ教授が調査したところに據りますと、凡そ千人の死亡者があつたとしたならば、其中の百七十人から二百人までは一年未滿の幼兒であると云ふことを申して居ります。是れは大抵然う申すので、一年未滿の幼兒が死亡者の五分の一を占めて居ると云ふことは、これまでも學者の申すことであります。ラッサブレルが言ふのも同じことでありませう。千人の死亡者があつたとしたならば、其の中の百七十人から二百人は一年未滿の幼兒である。さて一年未滿の幼兒は何故死ぬるのが多いかと云ふと、日本では驚風が多いやうでありまするけれども、ラッサブレルの說に據りますると腸胃の患者が多いのである。さうして其の腸胃の疾病は皆乳の惡いことから來るのであります。若しお母さんの乳でありましたならば、小兒千人中の二百人から三百人ぐらゐ死ぬるものがある。牛乳であつたならば四百人から五百人ぐらゐは腸胃病を患うて死ぬるものがあると云ふやうな例を擧げて居るのであります。

非常にマア澤山の例が擧つて居る。然う云ふ譯でありますから、兒童の死亡率を減少せしめやうと思ふならば三つの事が必要であると言ふのです。第一番は先日も申しまするやうに、良い母の乳を與へるやうにすること、第二番は母の乳が無い、或は有つても非常に惡いと云ふことならば、良い牛乳を與へるやうにすること、第三番は母乳なり又牛乳なり、乳と云ふことに關した知識を母たるものに與へることが急務であるのです。ナンボ牛乳を哺ませるのであつても、乳に關する知識がなく、分量を誤り、時間を誤つたときには、腐つた乳まで哺ませるやうなことになる。夫れではうまく行かう道理がないから、乳に關した知識を與へると云ふことが、小兒の死亡率を減少するに就て最も大切なることであります。大阪では此點に就て未だ何等の設備も出來て居らぬやうでありますが、人口が多いほど其國は榮えるのでありますから、何うか折角生れて來た幼兒を死なせる樣なことの無いやうにしたいと思ひます。

併しながら諸君！子供の死ぬるのは乳ばかりに關係しない。其次に大切なるものは子供の襁褓（しつぽう）であらうと思ふのです。濕（しめ）つぽい、汚（よご）れた、垢の附いた穢（きたな）い襁褓を着せて置いたりしては無論子供がうまく育たないのである。其邊は西洋では行屆いて居るのです。伯林などに行きますと、牛乳などを施行する所もありますれば、大人

の爲に着物を施行する所もあります。着物を施行するばかりてありませぬ。多分が來ますると、石炭を施行する所もあります。さう云ふ風てありますると、子供の爲にも良い襁褓を施行する。良い襁褓を施行すると云ふことを申します。計畫として一般に行はれて居ると云ふことを申します。

それから同じく兒童死亡率減少に就て申しますことは、兒童診斷所と云ふものが所々に出來ることてあります。これは殆んど無料で診て遣るのてあります。今回の濟生會などは完全に組織が出來まして、不日實地の事業を始められることと信じまするが、聖天子の叡慮を推し考へ奉りますれば、卽ち兒童の病氣などの相談所と云ふものも最も必要てある。其の佛蘭西に在るものを英語で言へばコンサルテーションと云ひます。是れは所謂育兒相談所てある。少し工合が惡いと云へば其處へ連れて行く。さうすると診察もして呉れます藥の世話もして呉れる。所謂手當の心得、養生の心得も言つて呉れます。夫れが追々廣がつて、佛蘭西では毎週一回之れを開いて、必ず子供を診て遣ると云ふやうなことになつて居る。今日では此の兒童の診斷所、或は育兒相談所と云ふものが各地に設けられて居ります。尙夫れに就て申しまするが、歐羅巴の各地到る所に多いのはクレッツェと云ふものてあります。

英吉利の言葉て云へばクレッツェと申します。何をする所てあらうか、譯して言へば幼兒預り所と云ふのてあります。母親に乳が十分にない者、或は又母親が自ら工場にても行つて汗水垂らして働かねば家計を維持することの出來ぬと云ふやうな者がある、或は母親の死んだと云ふ者がある、さう云ふやうな場合に於ての子供の預り所てあつて、丁寧な手當を仕ます。或は中には月不足て生れた幼兒がある。さう云ふ幼兒は、クレッツェに行つて見ますると丁度鳥などの卵を孵すか何かするやうな器械があつて其の中に入れて置く。尤も其の器械の中には一定の溫度を保たして置くから、幼兒が育つて行く。何のことはない、此の臺の上に硝子の器がある、其中に赤ン坊が寢さしてある、それに入れて十日と二十日と置いておくと、月足らずて出來た子供が恰も母の胎內に居つたと同じ工合てありまするからして、月が滿ちて生れたと同じやうになる。然う云ふやうにしてクレッツェては幼兒を非常に養うて居ります。これはもう澤山にござります。

尙もう一つこゝに言はなければならぬのは、歐羅巴に近頃興つたことてありまして、夫れは兒童虐待禁止會と云ふものてあります。斯う云ふ會が到る所に澤山興つた。日本ても動物虐待禁止會と云ふものが先年來有志者の間に唱へなれて居つて、

近頃も大分活動して居るやうである。けれども日本の動物虐待禁止會は少々見當の違つたことがあるやうに思ふ。新聞に據つて見ると、東京では警視廳が往來に居る犬の口に各〻口輪を入れやうとした。ところが動物虐待禁止會の方から警視廳に抗言して云ふのに、人間は口に口輪を入れると物を喰ふことが出來ない、物を飲むことが出來ない、非常に不便である。犬と雖も同じことだから口輪を入れることは動物虐待であると言つて反對したさうです。これは早く入れて貰ひたい。文明國にして犬が大きな口を開けて往來を彷徨(うろつ)いて居る所は無い。然う云ふ所は殆んど日本ばかりである。犬が嚙み附くなどゝ云ふ國は日本より外に無い。口輪を入れて居れば嚙み附き樣がない。尤も時を計つて其の口輪を外し、飲食物を與へて遣るのですから少しも差支はない。尤も西洋にも動物虐待禁止會と云ふものがある。殊に英吉利には、猫虐待禁止會と云ふものがある。是れは御婦人に面白い話である。日本でも能く猫を飼うて居る。西洋では英吉利人ぐらゐ猫を好く者はない。けれども猫は兎角我々が飯を喰ふた後で皿などを嘗める、穢なうて堪らぬ。英吉利でも然うである。それでも猫を能く飼うて居る。兒を生むです。兒を餘計に生んだときに何うするかと云ふと、立派な婦人……平生は夫れこそ蟲をも殺さぬやうな顏をして居る婦人が猫を殺す。猫を殺すと云ふのは絞殺すか何うするか、そんなことをして殺すのではない。大きな盥の中に熱湯を入れ、猫の兒を其中に投(ほう)り込み、上から蓋をして十分か十五分の間置いておく。やさしい顏をして居る英國婦人も、自分が猫を飼つて居るに、子を生むと餘計に養ふことは出來ないから熱湯で殺す。そこで猫虐待禁止會と云ふものが起つて、猫の子が出來れば何時でも持つてお出でなさい。引取つてあげませうと云ふ會が出來た。既に動物虐待禁止會、殊に猫虐待禁止會と云ふものが出來て居るくらゐであるから、兒童虐待禁止會が無かるべからずである。繼母に子供が非常に虐待されて居るとか、其他虐待されて居る子供の爲に兒童虐待禁止會を拵へて貰ひたいと思ふ。之は今度何所で見たかと云ふと、私が蘇格蘭を旅行して居りましたときに圖らず出會(でくわ)したのである。エヂンバラの舊城を參觀し、それから穢ない大通りを過ぎて、有名なる經濟學者のアダム、スミスと云ふ人の住居を訪ねやうと思つて行くと、表に兒童虐待禁止會と云ふ札が掛つて居るから、私は其處へ這入り「此の會は何う云ふ御趣意のものですか、今表の札を見て觀せて貰ひに來たのです」「能く來て下されたと言うて案内して呉れて、能く說明をして呉れたのですが、大體のことを言へば斯うなのです。」此の兒童虐待の禁止會に十人か十二人

かの巡視係とでも謂ふべきものが置かれてあります。其の巡視係が貧民區をブラリ〳〵と歩いて居る。巡査でも何でもありませぬ。で、母親でも父親でも、子供を非常に虐めて居るのを見ると、直ぐに其の母親なり父親なりを喚び出して說諭をします。さうして家に還して遣つて、それでもなほ虐待を止めなければ其の子供を引取り、其の會に於て世話をするのであります。大體四十人ぐらゐは養ふことの出來る設備になつて居る。斯う云ふことは日本に於ても爲すべきものであると思ふ。斯くの如くにしてこそ兒童死亡率をして減少せしむることが出來る。是れは今の歐羅巴の大勢であります。

其次にお話を仕まするのは第五番で、是れは子供の貯金並びに保險のことである。學校貯金の事は『新教育講義』に於て頻に主張し、やかましく申して置きましたが、今回西洋に行つて見ますると、層一層盛んであります。併し兒童の保險と云ふものに就て議論の有るのが面白い。西洋でも子供の學資金と云ふやうなものに對して掛金をして居る所が段々有るのであります。例へば子供が十五歳になつたらば學資金として何程取れる、學資保險とでも名の附くやうなものを子供の小さいときから親の掛けて居るのが隨分有るのです。これは宜しいやうで、其實弊があると云ふことを段段承はつたのであります。これが爲に子供の死ぬることを祈るやうな不心得の親が往々あると云ふのであります。成程然うでせう。日本でも親が保險を掛けて居ると、其の子が早く親が死んでしまへば宜い、左すればあの保險金が手に入るからと言ふやうな不心得の者も往々有るやうであります。中には又親が子の爲を思つて自ら生命保險に這入つて居つて、さうして死んだ。其の保險金を取つて若夫婦連立つて遊山をして歩いたと云ふ不心得の者もあつたことを聞くのでありますが、西洋でも子供の爲に學資保險をして置くことは、却つて其の子供の早く死ぬることを祈るやうなものであると云ふ弊があると云ふことを聞きました。併し之れに反して、貯金よりも寧ろ子供の爲に所謂相互の補助と云ふことを教へる。即ち子供に自ら保險を掛けさせると云ふことは宜いことであると云ふことになつて居ります。子供の保險と言つて學校に行く頃より掛けさせ、而して一生涯掛けさせるのである。後年世の中に出たときに大變な病氣に罹るとか、或は全く職業を失ふたときには其の保險を取ることを許すのでありますが、其の掛金を子供のときから掛けさせると云ふことが非常に宜いことではないか。貯金をすると云ふことの利益が既に認められた

のであるならば、子供のときから保險の掛金を自らさせると云ふことは尙宜いことではないか。何故かならば相互ひに助けると云ふ相互補助の精神の發揚は申すに及ばず、元來保險とか貯金とか云ふことは決して吝嗇になれと云ふのでない。第一は自助の精神を養ふのである。第二は自ら賴つて以て境遇を良く仕やうと云ふ向上の精神を養ふのでありますから。子供の時から兒童保險と云ふものを開いたら何うであらうか。其の兒童保險も出來得べくんば親も共に加入するやうにしたら何うか。例へば十圓の保險をするのならば、子供が二圓か三圓か掛けて、親が七圓か八圓か掛けるやうにしたら何うか。子供と親とが常に利益を共にして居ると云ふことをするのが、今後の家庭なり教育上の大切なる議論であると云ふことを承はりました。御參考までに申して置きます。

更に話が進んで、是れから大分面白くなります、其次の第六番にお話をしまするのは不良少年の取締りであります。此の不良少年の取締りはもう各國非常に丁寧にして居る。此の程もお話しました通り、田園が漸く荒れて都會に人が集ると云ふことになつたときには、乞食のやうな子、無宿のやうな子供が非常に殖えるのであります。隨つて少年犯罪……兒童犯罪が非常に增加すると云ふことは昨日も例を擧げて吳々もお話をしたことであるが、夫れに就ては不良少年保護會と云ふやうなものが到る所に組織されるやうでございまする。今茲に殊にお話をしやうと云ふのは例の兒童裁判でございます。是れは昨日もお話を致しましたが、極く新らしいことであります。まして、まだ今から七八年前私が彼の『系統的新教育學綱要』を講じたときには、歐米諸國に於いては漸く少年裁判、兒童裁判と云ふことを行ふさうである、是れは結構なことであると云ふぐらゐに申したに過ぎぬのであつて、未だ汎くは行はれて居らなかつたのである。ところが近頃になつて見ると、文明諸國では競うて之れをやる樣になつた。日本でも遠からずやるだらうと思ふのは、丁度私が昨年伯林に居ります頃に、名古屋控訴院の檢事長手塚君とかが伯林に來られて、專ら此の方面のことを調査せられて居たやうに承はりました。法律學者にして、其の地位も控訴院の檢事長であり、まするから、遠からず此の事は物になるであらうと思ふ。若し私の豫言にして間違ひがないならば、十年後には日本にも此の兒童裁判所と云ふものが出來るであらうと思ふ。私も伯林に居るときに風邪を引いて居るに拘はらず、病を推して一日參觀をいたしたのであります。けれども獨逸の此の兒童裁判などはまだ新らしいので、本當を言ふと、兒童裁判と云ふのは亞米利加が初めてであります。先頃

申しましたマンゴールドの書物の中にも兒童裁判のことが書いてございますが、一體歴史を調べて見て、何時頃出來たものかと云ふと、凡そ三十年の昔に出來たことのやうであります。亞米利加のマサチューセッツと云ふところで初めて考へたのであります。一體子供なり何なりの犯罪が增加すると云ふのは、犯罪の取扱ひ方が惡いからである。殊に大人の罪人と子供の罪人とを一緒に裁判し、一緒に監獄に入れたならば、惡い事こそ習へ、惡い事こそ眞似すれ、決して善くはならないと云ふとに氣の注いたのが兒童裁判所の初めである。マサチューセッツでやつたのは約三十年前であります。其の後加奈陀、南濠太利の方でも行はれたさうでありますが、先づ歐羅巴で初めて出來たのは獨逸と佛蘭西の境であるフランクフルト云ふ所である。是れは千八百九十六年ですから、今から十五年ほど前であります。それから英國に傳はりましたのはズッと後であります。英國に出來ましたのは千九百五年であります。是れは同國の內務省に於て頻りに熱心にやられたことであります。佛蘭西はそれよりも遲れたのでありまして、佛蘭西で之れをやりましたのは千九百六年ですから、まだ今から五六年前のことであります。千九百六年の暮に佛蘭西のミューゼ、ソシアルと云ふ所の有志者が寄つて、種々協議をいたし、それから建議をして、遂に夫れが採用せられるやうになり、佛蘭西の檢事總長モニエールと云ふ人が此の事の發頭人になつたさうであります。一寸言つて置きますが、ミューゼ、ソシアルと云ふのは社會博物館と言ふのであります。併し此の博物館には何も陳列して居らない。たゞ社會のことに關係した材料が悉くあるのでありまして、我々が何か調べて貰はうと思ふたらば、其の會へ言うて行つたら種々のことを調査して呉れる。然う云ふやうに社會政策の根本的調査をする機關は世界各國に於て此のミューゼ、ソシアルが首であると云ふことを申して置きます。其處で調査をして建議をいたし、今言ふ檢事總長のモニエールと云ふ人の採用するところとなり、千九百七年から此の裁判が出來だしたのでございます。

夫れに就て私が今茲にお話をするのは伯林の事である。伯林の或は稍貧民區と云つて宜いかも知れませぬが、王城から程遠からぬ所にフリードリッヒ、ストラッセ停車場と云ふのがあり、其の附近に大きな裁判所がある。其の大きな裁判所の確か三階の第百二十五號やらを少年裁判所に使うて居るやうに記憶致します。其の三階かに行きますると、小さい室がある、詰り一の教場ぐらゐの室であります。マア疊のことなら、左樣、三十疊敷か四十疊ぐらゐ敷ける所であります。さうして此處に大

體の入口がある。それから此處に斯う机が置いてある、又此處にも小さい入口がある、それから此處にも腰掛がズッと斯う掛るやうになつて居る、さうして最う一つ小さい机が置いてあつて、大體の組織は是れだけである、(此邊一々圖を描きて說明す)そこで是れは豫て許可を得て居つたから、時を計つて參つたら、這入つても宜いと云ふことで這入りました。さうすると此處に小使が一人腰掛けて居る。日本で云へば使丁である。それから戸を押し開けて這入つて行くと、此處に居るのが裁判官である。其の裁判官が私の姿を見ると、自ら立つて挨拶して呉れる「サア何うかお掛けなさい、外套は彼處へお掛けなさい」と云はれて此處に外套を掛ける。さうして私は其の腰掛に坐つたのであります。それから見て居ると、此處に裁判官が坐つて居る。それから此處に年寄、此處に稍〻若い人が斯う二人坐つて居る。それから此處にお婆さんの人が斯う坐つて居る。此の前の所に裁判を受ける子供が立つて居る。此處に貧民のやうな風にして男、女六人ほど腰掛けて居る、極く簡單です。夫れだけのことです。さてお話をすると、其の裁判をして居る人は矢張り日本の裁判官のやうな服を着けては居るけれども、年齢は日本で云へば五十そこ〳〵と見受けたが、やさしい顏をして居ることは、夫れはもう實に何とも云へぬやさしい人である。又然うせう。裁判をして居るのに參觀人たる我々が這入つて來たのに、態々立つて挨拶をいたし「其處へお掛けなさい、外套は彼處へお掛けなさい」と云ふぐらゐであつて、決して「コリヤ〳〵」とか「コラッ」とか云ふことは言はない。實にやさしい人である。それから其の横に立つて居る人は陪席判事、片一方に居りまするのは兒童の世話をする人であつて、時には其の兒童の横に學校長が居ると云ふやうなことも聽いて居る。此處に居りまするのは昨日言ひましたプロベーション、オフィサー、卽ち兒童を監視する掛りであつて、夫れはお婆さんでありました。大體四十五歳ぐらゐの人である。誠にデ、ミなお婆さんで、裁判をせられて居る人は十五歳ほどの女の子であります。私は低能兒と見受けました。是れは子守であつて、さうして或者が乳母車か何かに自分の預つて居る子供を乘せて公園に行つて居つた。其時に此の子守が其乳母車の中の財布を一寸ちよろまかした。金は割合に餘計に入つて居つて、マア二十馬克、卽ち日本の十圓ばかり入つてあつた。夫れを盗つたとか盗らぬとか云ふことの裁判であつたが、裁判官は言葉やさしく「お前が盗つたのだらう、盗つたのなら盗つたと言ひなさい、決してをぢさんが叱りはせぬ、盗つたのだらう」と云ふと女の子は「盗らぬ〳〵」と言つて居る。それから其の少女の母親や近所の人、それから又其時に横を通

つて居つたと云ふ人などをそれ〳〵呼出してある。夫等の人にも種々のことを聽いて、大體の裁判が濟んだ。其の後で裁判官が陪席判事と共に後ろの扉を開け、一寸立つて合議をいたし、再び此方へ出て來て「お前は矢張り盜つたのである、此次からもう惡い事をせぬやうにせよ、此度だけは牢屋に入れない、其のお婆さんに話をして置くから、萬事あのお婆さんの言ふことを聽け」と言つた上母親に向ひ「是れから家でも氣を注けねばならぬぞ」と言つて、もう夫れで濟んでしまつた。夫れから其次は又誰某と云ふので、他の子供が出て來たが、是れが實際裁判をやつて居る仕掛である。其處へ行つて見て居ると、丁度學校の校長先生が生徒を呼んで「お前が硝子を破つたのだらう、お前が障子を破つたのだらう」と言つて叱るぐらゐの加減の裁判所であると云ふことは、非常に面白いことではございますまいか。夫れに就て少しく纏めてお話をして見ると、今日のところ兒童裁判所では十二歳以上十八歳以下の兒童を裁判するといふことになつて居る。十二歳以下の者は其の裁判所にさへ喚ばないのであります。兒童裁判所では十二歳以上十八歳以下と云ふことになつて居る。第二に兒童裁判所の判事は通例一人であるのでありまするけれども、併しながら現在は多く陪席をさせることになつて居る。さうしてなほ曾に判事を陪席させるばかりてない、今言ふやうに小學校の校長と云ふ者までも屢〻陪席をするやうなことがあるさうであります。第三には裁判を公開すると公開せぬとに就ては種々の議論があります。併しながら大體は公開するやうであります。萬一公開と行かぬまでも、其の裁判廷に這入ることの出來るのは第一證人です。第二は親族であつて、夫れは三等親までの人は這入ることが出來る。それから法曹や新聞記者も皆這入ることが出來る。殊に注意すべきものは公並びに私の慈善事業に關して居る人は、縱し公開せぬ裁判であつても自由に參觀することが出來る。兎に角此の兒童裁判所は慈善團體、公共救濟團體と云ふやうなものと最も親しい關係を持つて居ると云ふことを茲にお話するのであります。

尙夫れに關係しまして、ただ今言ふたお婆さんは何う云ふ資格の人かと云ふと、決して役人ではありませぬ。或所から頼んで來るものであります。主として公共慈善團體から推薦する候補者であります。夫れもお婆さんばかりではありませぬ、男もあります。マア男と女とが半々でございます。性質を云へば警察官のやうな所もあり、また教育者のやうな所もある。其の仕事を申して見ますると、第一は裁判官の手に掛ける前に、一通り調査を致しまして、裁判の手數を省くと同時に、嚴めしい所

へ成るだけ子供を連れ行かぬと云ふことにするのでありませう。第二番は一旦法に觸れましたところで、裁判を受けました子供は、之れを監獄にやらずして、家庭に送り還して置き、夫れを成るべく適宜に廻つて觀て、過ちを悔い、善に遷るやうに教へると云ふことにするのであります。或は又其外には成るべく教育者、其他の者と直接に連絡いたして置きまして、教育の功能のあるやうに努めると云ふことであります。まだ詳しく申しますと種々ありますが、纏めて言へば右樣であります。要するところ兒童裁判と云ふものと、此の監視のお婆さんなりおぢさんなりとが相提携して行かなければ、到底事は成らぬと云ふのでありますが、是れは非常に思あり、威あり、人情に適つた處置であると云ふことを申すのであります。是れは手塚檢事長なども調べられて居られたと云ふことでありますから、大方十年内に日本でも出來ることであると信じます。然うなつて來ると、教育者の責任も愈〻大なるものとなり、家庭の責任も亦愈〻大なるものとなる譯であります。

最後は第七條でございます、是れは何を申しまするのかと云ふと、昨日も申しました運動場を增加すると云ふことであります。卽ち市區を改正して運動場を增加すると云ふことが、兒童に關する社會政策の最近の重なることの一つであると云ふことを申すのであります。運動場と云ふものは西洋に澤山に在ります。御承知の通り西洋では公園が澤山に在ります……西洋では公園が澤山に在つて、如何に多くの費用が掛るかと云ふことは、日外公會堂で詳しくお話をして、諸君を驚かせたのであります。然う云ふやうに大小の公園が澤山に在りますが、其の公園の中には必ず兒童の運動場があります。英國などの場末の公園に行きましたならば、譬へば其の公園の一隅を仕切つて必ず運動場がある。又仕切らない運動場もあるのであります。此の仕切らない運動場と云ふのは年の行つた者の爲にする運動場である。仕切つた運動場は大體十四歲ぐらゐから以下の子供の爲にする運動場である。是れは何うも子供の爲に運動場を別段に置かないと云ふと、其の運動の器械を年の行つた者などが占領して子供に使はせることが出來ない。故に子供の運動場は必ず別にして居る。而も仕切がしてある。さうして子供の運動場は大抵英國などでも男と女とが別々になつて居る。これは誰も大人は這入ることが出來ない。之れに就て私の經驗話がある。日外も話をしたか知れませぬが、前に英國に居つたときに、運動場のことを調査しやうと思つて、場末の運動場へ行き、子供の居る所を見やうと思つて、其門口まで行くと、巡査がやつて來た。けれども外國の巡査は威張らない。此方が

紳士に違ひないから、言葉やさしく「アナタは何をするのですか」「此の運動場を見せて貰ふと思ふのです」「アナタはまだ十四歳にお成りになりませぬか」「そんなことがあるものですか」(笑聲起る)高帽を冠つて居つて十四歳にならぬと云ふことはありますまい」「それならば此處に書いてある通り滿十四歳以上の人は此處へ這入ることが出來ぬのであるから、此處へお這入りにはなれませぬ」「夫れはマア成程然うでせう、だがアナタも見られる通り私は日本人で、六千里も七千里も距つた國の者である、此方へ來たのは教育上のことを調査するが爲で、生憎名刺は持たないけれども、學校の先生であつて、斯う云ふことをして居るのだから、一寸見せて下さい」「それは可けませぬ、一切大人は入れることがならぬと云ふことになつて居る、併し市役所へ行つて學務係に一寸話をして下されば何の造作はない、それだけの手續をしてお出でなさい」「それをするぐらゐなら別に斯うして頼みはせぬ、何うか一寸見せて貰ひたい」「何うしても可けませぬ、それでは私の職務が立ちませぬ」「イヤ成程職務が立たぬと言はるれば仕樣がない、マア歸りませう、斯う言ふと、でありまするが、夫れは表向きぢや、一寸横の方へ廻られると塀が壞れて、大きな穴が明いてある、彼處から御覽になればスッかり見えるから……」(笑聲起る)「それは有り難い」と云つて一寸横町の方へ廻つて見ると、成程大きな穴が明いてある、其處から見た(笑聲起る)總て西洋の巡査と云ふものは然う云ふやうな風のことがあるのです。さう云ふ風にして運動場を盛んにやつて居つたのぢやが、今回行つて見ると、これが英國ばかりでなくして、獨逸に於ても英國に負けぬほどの勢を以て運動場をやつて居る。申すまでもなく、ウェリントン公が言はれたやうに、英國がウォートルローの戰爭で勝つたのは、運動場で勝つたと云ふほどであつて、中々盛にやつて居る。然るにそれも負けないほどに今日は獨逸がやつて居る。米國がやつて居る。今何う云ふことをやつて居るかと云ふと、伯林などには所所に矢張り公園がある。公園では必ず砂盛りをするのであります。運動場と云ふのは砂盛り場である。何う云ふことかと云ひますると、大體小さい公園の隅に横幅十尺、縱幅二十尺ぐらゐの砂が、而も高さは二尺ぐらゐも盛つてある。固より子供と云ふものは土遊びの好きなものです。だから子供が其の砂を掬うて山を拵へたり、手桶に入れて彼方に持つて行つたりして遊ぶ。て幼兒の運動場としては此の砂盛りを各所に拵へると云ふことが行はれて居る。御當所には立派な幼稚園もあるから、無論然う云ふことは有るてあらうと信ずるが、亞米利加などの幼稚園に行くと、庭園の無い所では家の内に砂盛りがしてある。二間に一間、深さ一尺ぐらゐの函があ

る……餘り高いと子供の手が屆かぬから……其の中に砂を一杯盛つて入れて、さうして砂遊びを勝手にさせて居る。巴里の公園では未だ此の砂盛りがありませぬが、巴里へ行つて一番に氣の注くのは、子供の爲に土なぶりの玩具を賣つて居ることである。巴里の中央に在るルキサンブールと云ふ綺麗な公園で一番に見たことは、其の公園の入口に……向ふでは子供の輪を廻すことが流行る、日本のやうな竹輪ではない、鐵で拵へた輪もあるけれども、大抵は木を圓めて拵へたものである、其の輪を賣つて居る。まだもう一つ賣つて居るのは小さい手桶です。さうして小さい土を掬ふ鋤鍬見たやうなものもある。手桶の中に鋤鍬を入れたものを賣つて居る。マア五十錢か四十錢で呉れる。それを買うて、公園の内で砂を掬うて、此方へ持つて來たり彼方へ持つて行つたりして遊んで居る。今はそれが一段進んで、必ず諸公園の隅には今言ふたゞけの砂盛りを拵へると云ふことが、獨逸などでは一般に行はれて來た。それが又米國にも行はれて來たのであります。今日米國では全國通じての運動場運動と云ふのが出來て、成るだけ各都會では子供の爲にするところの此の砂盛り、稍〻大きな者の爲にするところの運動場、更に大人一般の爲にする運動場を設けねばならぬと云ふことを言つて、先刻も申しました費府が中心となり、東西南北各地に運動場が行き及んで居るのであります。而して其の理想とするところを聞けば斯うださうであります。少兒の爲にする運動場は各家庭より四分の一哩の所に必ず一箇所あるべき筈である。青年の爲にする運動場は、各家庭より半哩距つた以内に必ず一箇所あるべき筈であると云ふのであります。四分の一哩と云へば三四町です。子供の爲に三四町行けば砂盛りがあるやうに、又青年の爲にはものゝ十町も行くか行くかぬ所に必ず運動場があると云ふことを、理想としてやつて居るさうであります、私は此の大阪を朝夕往來する度毎に見ると、子供が往來に遊んで居る、其の往來には自轉車、人力車、やがては自動車も馳らうと云ふのである。然るに子供は平氣で遊んで居る。車夫なら避けて通るから宜いけれども、若し馬車や自動車になつたら然う云ふ譯には行かぬから、さう云ふ交通機關の爲に負傷する子供の數は、日本は非常に多いことになるだらうと心配するのであります。尤も倫敦などでも澤山に負傷する者があるけれども、殊に日本は負傷者が多くなるだらうと思ふ。それは子供が道路で遊ぶからであります。之れに就ては何うか諸君にお取締を願ひたい。併しながら遊ぶ場所が無いから子供は戸外に出て遊ぶのである。隨つて教育者に望む注意が種々あります、子供は往來の中央を歩かぬやうにせよ。四つ角を横ぎるとき

には後先を見て横ぎれと云ふことを注意しなければならぬ。併し夫れに就ても何うしても所々に公園を拵へて遣ることが先づ必要であると思ふ。私は大阪に於て此事を望むが爲めに申して置くのであります。

右樣の次第でありまして、最後にお話をするのは亞米利加の市俄古であります。市俄古に於て、殊に此の運動場の運動が盛んであると云ふことであります。市俄古は年々歲々擴張する。大阪に匹敵するのでせうが、今は大阪よりも寧ろ盛んであります。若し年數の割に速かに長足の進歩を來した都會は何處であるかと云ふと、私は市俄古であらうかと思ふ。十年前に市俄古を見て、それから又十年後に市俄古を見た私は、實に其の繁盛に驚いたのです。市俄古には千九百三年、即ち只今から僅か八年前、市内に十箇所のシギック、センタール……シギックと云ふのは市民、センタールは中心だから、市民集りの中心と云ふものを十箇所拵へた。市民集りの中心と言ふのは公會堂ではない。大きな運動場であります。詰り往來の混雜の最も劇しいのは恐らく倫敦、市俄古でせう。それであるから同時に市街の中の人民が運動し休憩し得る爲に、人民集りの中心と云ふものを拵へたのである。而して其の一箇所の建設費が二十二萬弗、日本の金に直しますれば大體四十四萬か四十五萬圓ほど掛つて居る。それを十箇所拵へたと云ふのだから、四百五十萬圓を投じて運動場を拵へたのであります。隨つて其の維持費が澤山に掛りまして、一箇所の維持費が一年三萬弗即ち六萬圓、十箇所で年々六十萬圓の維持費を投じて居る。此のシギック、センタールの中には、先刻申した少兒の爲にする砂盛りもあります。青年の爲にする器械體操もあります。大人の爲の大きな運動場、集り所もあります。其の代りに市俄古人は此の何十萬圓、何百圓懸けた運動場を非常に利用するのであつて、其の坪數の廣いことは大抵一つが皆四町歩づつである。さうして其の一箇年に這入つた人數を調べて見ると、千九百七年の統計に據れば約五百萬以上這入つたと云ふことであります。是れは大阪の如き所に於ては是非とも出來なければならぬことである。一箇所に四十五萬圓も掛ける設備は遠いことでせうが、切めて四萬圓か五萬圓も掛けた市民中心と云ふものが十箇所か五箇所ほど出來ることを希望致します。

以上が本章の講義の大要であります。即ち兒童に關する救濟政策、社會問題の設備と云ふことに就ては、歐羅巴、亞米利加のは今申しました七箇條で多分盡きて居る積りであります。今回の講義は新教育の基礎としての家庭の事をお話致しましたのであります。家庭の事を言へば是非とも小兒の事を言はねばならぬ。當り前の小

兒のこと、又異つた小兒のこと、殊に子供の犯罪を減ずること、其の犯罪を減ずる原因はと言へば、是非とも斯う云ふやうな社會政策にまで及ばなければならぬと云ふことを述べた譯であります。茲に長い間諸君の清聽せられたことを謝します。

第五篇

農業と商業

第五篇　農事改良と商業教育

序論

諸君。這度は豫ねて新聞にも廣告してあり、また日程にも書いてありました樣に、農事改良と商業教育といふ題でお話をすることに成つて居ります。で、是れは私の專攻して居る教育學にはえらい緣の遠いやうなことだと云ふ非難がありはしないかと思ふのです。會主大原君は一面は大地主であり、又一面は紡績會社の社長さんで商業をもせらるゝから、是は農商を兼ねられて居らるゝ大原君に對して選んだ題であらうと、斯う云ふ風に思はれる人があるかも知れませぬ。けれども、大原君に對して講演をするのならば、何も五百も六百ものお人に此處に寄つて貰はぬでも宜い。決してそんな譯ではない。そんならば此節は何か政府で頻りに農事の改良や何か御心配になつて居るから、其提灯を持たうとするのであらうと、斯う思はれるかも知れませぬが、由來私は人の提灯と云ふものは持たぬので、大原君の講演會に就ても屢〻御厄介になりますけれども、決して大原君の御提灯を持たうと云ふ考は毛頭無く、又大原君も私に提灯を持つて呉れと頼まれたともない。提灯を持たすならば其處等

あたりの車牽きにても持たせた方が遙かに優つて居る。今後或は政府から提灯を持つて呉れと頼まれることがあるか知らぬが、今日までの所未だ提灯を持つて呉れと頼まれたことはありませぬ。縦しんば私に提灯を持てと云つても、何も私が特別に提灯を持つて走ることが上手と云ふ譯てない。だから決してさう云ふ譯て題目を選んだのてはありませぬ。此題を選びましたのは矢張り教育上に關係するのであつて、私の考へる所ては教育と云ふものはどうしても社會經濟と離して考いることは出來ぬのである。教育の新らしい傾と云ふものは教育を經濟の方面から論ずることてあると私は信ずるのてあります。さう云ふ具合てございまするから、現に唯今京都の大學に於きまして講釋をして居りまする題目はどんな題目てあるかと云ひますると、經濟學史上より見たる教育目的論の變遷と、斯う云ふ題て今は講義をして居るのてございます。教育の目的が昔から今まて色々變つて來たと云ふことに就ては、東西の學者が兎や斯う言つて居るが、どうも本統の教育の目的論が明になつて居ない。教育の目的を明かにするには社會の經濟と云ふ事から見なければならぬと考へから、經濟學の歴史の上より見たる教育の目的の變遷、斯う云ふ題目て現に大學ても講義をして居るのてあります。是は屹度申上げて置きますが、必ず是からはさう云ふ風になつて來る筈て、若しさうなつて來たならば、始めて教育が現實になり實際に近いことになるてあらうと思ふのてす。それは國を守る爲めには忠義の教も大切てある。又家を維持して行くには孝行の教も大切てあるが、併し私共が毎毎此席より縷々述べましたやうに、世の中は順々に進歩し變化して行くものてあつて、如何に引止めやうとした所て到底それは引止められるものてはない。矢張り日新の時勢に應じた教育てなければ教育の目的を達して行くことは出來ぬ。其時勢に應じた教育と云ふのは經濟から割出した教育てある。さう云ふ譯てあるから會主の提灯を持つて說くのてもなければ、無論政府の御提灯を持つてお話をするのてもなく、教育は正に斯の如く社會經濟と結附かなければならぬと云ふ點からお話をするのてございます。

さうして又今度お話をしまする材料はどう云ふ風のものから取るかと申しますと、是は至極に新らしい御話てある。平たう申しますれば、今回初めて此處て御披露を申すのてございます。御聞及のやうに昨年色々都合がございまして、西洋に再び參りまして、往復八箇月程の間に歐米諸國を巡歴を致しました。斯く歐米諸國を巡歴を致して居りまする際に彼の地の經濟の有樣又社會上の關係に就ても色々調査

を致しましたが、殊に妙なことで、昨年彼地に參りまするのは文部省から丁度其時に墺斯利の都の維納で第九回の萬國商業教育大會が開かるゝ筈でありますので、それに私とそれから文部の實業學務局長をして居られまする眞野文二君と兩人が委員として參列を仰付られましたのでありまして、それから又白耳義に參りました、所が、白耳義では其時萬國大博覽會が開けて居りますので、其博覽會を好機會と致しまして色々の學會が催されたのでございますが、其中で重もな會が二つあつたのでございます。一つの會は萬國家庭教育會議と云ふのであつて、それからもう一つは第一回萬國農業團體及地方民政學會と斯う云ふのであつたのでございます。此二つの會議にも自分は參加致しまして殊に此萬國農業團體及民政學會議では副會長と云ふやうなものにも推薦を受けたやうなことでございます。斯樣に色々の會に出席したのでございましたが、其中で家庭教育會議の有樣は本年の夏熊本、鹿兒島の兩縣とそれから又飛んで大阪府と三箇所で『家庭教育論』と云ふ問題で既に報告を致したのです。是は速記が出來て居り、近々出版をする積りでございます(本書第四篇)。て、今回此處で御話をしまするのは、卽ち其他の二つの會議の模樣や、其時に論ぜられたこと、承はつたことどもを材料として御話をしやうと思ふのである。從つて丁度農事改良と、商業教育と、斯う云ふ題になつて來たのであります。であるから、其話は別に書物にあると云ふのではなく、自分が親しく見聞したことでもあり、殊に最近の學會であるから、此度の私の講演は最近のものを報告する譯になるのであります。殊に私は此講演會に對して一言謝辭を呈したいのは、元來吾々が此等の會議に會員として參加した時に、どうか此の會議に於て聞いた事や決した事は、各々の自分の國に歸り、政府の力を借るなり民間の力を借るなりして、どの方面からでも擴まるやうにして貰ひたいと、斯う云ふのが滿場一致の希望であつた。で、幸に今回の大講演會を拜借しまして、其任務を盡くすとの好機會を得たことを謝したいのであります。西洋を廻はりましたことに就ては、それ、ばかりでなく、色々見たこともあり、殊に此度は教育の外に社會改良を調査するのを目的としたことであるから、視察致した報告を世に公にすべき筈であるが、其報告は既に書いて居りますけれども、色々忙がしくて、今の處丁度九分通り迄出來て居つて未だ出版にならぬ。其の中機會を利用して、『洋行土產』と云ふ題を以て出版をする積りであります。其『洋行土產』の中に今回の講演をも載せやうと思ふので、茲に速記者を煩はして書いて貰つて居ると云ふやうな譯で、今回茲で御話を致しまするのは、私が頭から割出したと云ふよりも、歐羅巴

の最近の事情でもあり、殊に學會で見聞したことであると云ふことを御承知を願つて置きまする。

さてそれに就きまして第一番に申さなければならぬことは、一國の國。是。即ち其國の立つて行く方針、此國是を如何に定めるかと云ふことは確かに問題であらうと思ふのです。國是を如何に定めるかと云ふことは、言換へて見れば、或は農を本にするか、或は商を本にするか、それとも工業を本にするか、農本、商本、或は工本、何れにするかと云ふやうなことを申すのでございます。此問題は西洋諸國に於きましても自ら定まつて居るとは言ひながら、無論それ〳〵常に新しく研究されて居ることであらうと思はれます。殊に日本に於きましては、回想して見ますると明治二十年前後の頃は、頻に日本將來の國是は如何に定むべきものであるか、農本か商本か將た工本かと云ふことは、新聞や雜誌に盛んに議論をされたやうに思はれます。併しながら私が只今改めて諸君に申しますことは、今日歐羅巴の有樣では、一國の國是はどれ一つと云ふやうなことに限るのではないと云ふことでございまする。矢張り農工商の三つが、それは長短はあらうけれども取揃へて行かなければならぬと云ふことを申すので、隨つて日本でも曾て議論されたやうに、農を本にするか、商を本にするか、商を本にするかと云ふやうな一つ一つの事ではなくて、矢張り農商工の三つが揃はなければ往かないのであると云ふことを申すのでございます。で、それよりももつと心配なことと言はふか、嘆息すべきことと言はふか、否寧ろ私共の煩悶すべきことは、即ち日本の國民として如何にも嫌やなことであるが、日本國は是までは自慢をして居つたのである、……日本は誠に美國であると、斯う言ふて自慢をして居つたけれども、日本國が美國であるなど言つて自慢する人は、それは井の底の蛙、餘所の國の有樣を見ぬ人の言ふことであるといふ事です。勿論私とても日本人です、忠君愛國の心に於て諸君に負けぬ積りである。だから日本は美國であると言ひたいが、眞實美國でないものを美國だと言つて居つた所で始まらぬ。日本を美國だと云ふのは餘所を見ぬ人が言ふことである。丁度鐵道がまだ開けぬ間は、備前の岡山と言へば大層立派な所で、米のなる木はまだ知らぬ」とまで言はれた。尤も今とても立派な所ではあらうけれども、併し實際極々立派な所とも申されぬ。なんぼ岡山が立派な所であると思つて居つても、東京と比べて見てどうであらうか、……尤も其東京がですね都會……と言へば都會には違ひなからうが、實は大きな村の集まり、強いて言へば村を繼いだやうな所で、とても西洋流で言ふ都會と云ふやうな風には夢にも思はれぬ

のです。勿論東京は帝國の都であるから大都會には達ないが實際の有樣は大村邑卽ち大きな村の寄つたものである。斯う言つて見ると實に情けない話である。さう云ふやうな譯で、日本は決して美國でない。否美國でない上に、是位貧國と云ふものがない。尤も貧と云ふやうなとも比べやう次第で、それは十萬圓の身代の人は一町一村に於きましては無論大金持に違ないけれども、百萬圓の人の前に行つたならば餘り威張ることが出來ぬし、千萬圓の人の前に行けば尙更威張れぬ。だから是も、比べやうに依るのであつて、日本は五穀豐饒で實に美國だと、さう云ふやうに言つて居れば言つて居らるゝか知らぬが、併し世界の他の國々に比べれば甚だ美國でない、又富國でないと云ふことを感じました。第一番は氣候が良いと言いたいけれども矢張り餘り氣候も宜しくない。と云ふのは、夏は滅法界暑いのである、さうして冬は隨分寒い。尤も暑かつたり寒かつたり變化があるから宜いのだと言へば、美國か知らぬが、併し斯の如き寒暑の差の烈しいのを以て美國の一要素とは申せませぬ。其上に土地が非常に狹い。さうして平地が少なくて山が多く、さうして其上へ持つて行つて人口が無暗と多いのである。吾々の家にしても、家が狹くてさうして子供が多ければ、大混雜を起すと同じことで、どうも日本と云ふ家は大變に狹まいばかりで、

さうして、其の中に多くの家族が詰込んで居ると云ふ有樣であつて、まあ食ふものは米である、結構な御米であるが、其御米が澤山出來なくて、どうも今日では食ふに足らぬ、外國米の御厄介を受けなければならぬと云ふ憫れな狀態である。衣食足り五穀給すと普通言ふが、本當は何十萬石かの米が足らない。それから佐渡の方から山吹色のものが掘出されると言つて自慢をして居るが、此金も、是も足利氏時代から德川氏の初に掛けて外國貿易の禁ぜられない間には隨分世界に向つて出たさうであります。けれども今日は日本の金は甚だ少なくて、迚も金を以て世界に日本は金國であると言つて威張ることは出來ぬ。銀もさうである。それから銅は別子の銅山などと言ふてどうか斯うか出るけれども、鐵に至つては殆ど出ぬのであつて、色々鐵工所などもあるが、其鐵材は支那の大冶などから持つて來るのであつて、どうも斯う云ふことではテッ、取り早く言へば貧乏に困つて仕舞ふのである。海の方には珊瑚珠がある。此日本の珊瑚珠が大變良いので、伊太利などにも行くさうであるが、併し珊瑚珠を以て國を起すと云ふ譯には行くものでない。又鯨が取れるにしても、之を以て國を富ます程には澤山取れる譯ではない。獵虎がどうの斯うの言つても、是亦然りである。段々承はつて見ると、どうも陸產物にしても水產物にしても、かう云ふと

ては日本は富んだ國とは言へない。又此儘で富みさうには思はれない。尤も政府ては一昨年來生産調査會が組織されて居ることであるから、其結果餘程名案が出ることであらうと望を屬するのであるけれども、諺にもある通り無い袖は振れないのであるから、幾ら調査しても無から有の出る筈はない。さう云ふ譯であるから、どうしても日本人は大に奮發して國を富ますなければならぬ。所が、併し右は大ザッパに言つたので、其實は必ずしもさう悲觀し切るにも及ばぬのであります。殊に支那との貿易では日本は優先權を持つて居りまして、一週間前の大阪の新聞に出て居つた表類に徴しましても望が無いではないから、私の考てはさう悲觀せず、農業なども矢張り是まで通り層一層と十分改良して行き、別して米の增收と云ふやうなものに對しては十分力を盡すやうにして行き、さうして又商業上に致しましても、餘り亞米利加なんかをたんと相手にせず、寧ろ支那との關係を層一層密に致して、さうして國を富ますと云ふことを計つて行くべきであらうと考へるのでございまする。

所で、今度旅行中歐羅巴で色々見聞を致しましたが、農業と云ふても、日本で云ふこととはスッカリ違つて居りまする。歐羅巴の農業と云ふのは何う云ふ事かと申しまするとと、之は前から可笑しう思つて居るのであるが、佛蘭西邊りては農業と申しますれば主もは葡萄を作つて葡萄酒を拵へる事である。瑞西に行きますと何を拵へて居るかと云ふと、牛乳を固めたチーズを拵へるのが主もな農業である。丁抹は何を遣つて居るかと云ふと、彼のバタを拵へるのである。獨逸では主に麥を作る、卽ちビールも夫れから拵へると云ふやうな事であり、和蘭の方へ行つて見ると、和蘭の百姓が一般盛んに遣つて居るのは野菜を作る事であり、其次には花を作る事である。花と言つてはハナハダ輕蔑したりするけれども、仲々さうでなく、花の根――彼のチューリップなどの根を和蘭から世界各國に輸出する金額が一千萬圓に達して居る。夫から野菜にしても「奴は菜つ葉斗り喰つて居る」などと言つて輕蔑するけれども、和蘭の菜つ葉を外へ輸出する其の年額は四千萬圓である。此四千萬圓と言つては小さい金のやうてもあるけれども、併し御承知の通り和蘭と云ふ國は小さい國である、其小さい國て夫れだけの額を輸出すると言へば、比較的廣大なるものてあると言ひ得るのである。さう云ふ風に、西洋諸國に於ては農業として遣つて居る事は葡萄酒、チーズ、バタ、或は野菜花とか、乃至は鳥を飼ひ卵を取ると云ふやうな事てある。能く言ふことてあるが、丁抹は小さい國て日本の四國位のものてある、夫れてバタを年に一億圓も產する。其處て私は斯う云ふ歌を作りました、「バタじやバタじやと馬鹿に

はするなバタでも一年一億圓〔笑〕次ぎに鷄卵は何の位出すかと云ふと、鷄卵で千五百萬圓位出す。國が今申す通り小さく且つ其五分の一は砂地であつて何物も出來ない。其やうな處であつて、バタで一億圓、鷄卵で一千五百萬圓と云ふと、歐羅巴の農業に餘程具合が違う事が分る。言葉を換へて言ふと、歐羅巴で言ふ農業は日本で通例言ふ農業の副業と云ふやうなものに過ぎない。日本では米穀を作る事が本業で、其傍ら牛や鳥を飼ふのであるが、夫れは歐羅巴では本業になつて居る。日本で副業と言つて居る事が歐羅巴で本業であると云ふことを見ますれば、日本でも此方面の事をもう少し盛んにして遣つたならば、餘程農家が富むことが出來ることであると思ふのであります。例へば此日本では但馬は牛の能く出來る處であるから、但馬へ行つて牛の改良法を施し、大きな牧場を拵へて、但馬で所謂酪農――牛の乳に關係した百姓をしたならば何うかと云ふ論もある。又北海道でもさうであつて、北海道では亞米利加風の農業を遣つて居るから、夫れを一層改良したら何うか、北海道に迄て行かぬでも、東北地方でも前から畜産を遣つて相應成功して居るのであるから、もう少し大仕掛に遣つたら何うかと云ふやうに、今後の問題は、是迄は副業と言つて居つた事をもう少し重んずると云ふことにならなければ農家が富みはせぬ、と斯思うふのであります。併し日本では先づ第一の農産物はと申しますれば、夫れは矢張り米作に在ると云ふことは疑ひないので、曾て或るハイカラの人が考へたやうに、米作を廢めて仕舞ふて、西洋風の農業にしやうと言つても、夫れは空想であつて、國狀が許さぬ事である。のみならず米も西洋では評判が良くなつて來て、御承知の通り亞米利加でも南の方卽ちテキサス邊に於ては非常に米作が繁昌して居る。日本からも例へば西原君と云ふやうな人が參つてテキサスで農業を遣つて居るのでございます。尤も日本人が遣つて居るテキサスの農業は果して望みある事であるか、無い事であるかと云ふことは、明日實例を擧げて詳しくお話しを致します筈ですが、兎に角日本人がテキサスで遣つて居る農業は、一言で言へば前途の見込餘り面白くないのであるさうな。新聞や雜誌などに色々成功談などとして書いてあるのは、あれは都合の好い側を書いてあるので、本當を言ふと餘り面白くない。と言ふ其證據には、從來一番の成功者と言はれて居る西原君自身が、「面白くないから廢めます」と言つて居る。是れ程確かな事はない。併し西原君が廢め、日本人のテキサスに於ける農業が十分に成功しなかつたからと言つて、夫れで米作が惡るいと言ふのでは決してない。日本人の米國に於ける農業は面白くないとても、米作はドン〳〵盛んに成つて行く。

一體人は勝手なもので、先刻も言ふ通り、教育の目的も經濟から來ると言ふのは其處であるが、亞米利加の汽車でも大陸を東から西に横斷した處の紐育から桑港迄て横切る線路などはさうでなかつたが、今度は御苦勞樣にも南方を遠く迂回して來たのである。北の方の横斷線には色々大きな都市もあつて開けて居るが、今度通つた南方は田舍計りを通つて行くのである。尤も此處に迂回して來ましたのはテキサスを觀ると云ふ計りでなく、御承知の通り此邊りには例の喧ましいパナマの運河が開けると經濟が一變すると云ふので、段々と線路も擴つて行く次第で、實に詰らぬ黑ん坊の家計りか見えないやうな汚ない處を通つてテキサスに行つたのである。先年北の方の横斷線の汽車で、通つた時には一向米の事は聞かなかつたが、此處の南方の汽車を通ると頻に米の事を聞かされる。汽車の食堂に行くと丁度此日程位な紙に Rice……米と書いてある。さうして中を開けて見ると米の功能を書いたものが食卓の上に列べられてある。南方では米を作らうとして居るのであるから、可成米を喰ふて貰はなければならぬ、米の大切な事を知つて貰はなければならぬ。所で我々日本人のやうに生れてから米で育つた人間でも、夫れ程に功能があるのかと疑はれる位米の功能を數へ立てて書いてある。夫れであるから、西洋人は肉食であると言ふけれども、米食の都合の好い國は矢張り米食になるのである。さう云ふ譯であるから、世の中の議論は經濟から割出されると云ふのであります。此米の功能は何ふても十一箇條か十二箇條程あつたと思ふ。夫れを諸君に御紹介をする積りであつたが、今日其書いた紙を持つて來るのを忘れましたから、就中肝腎な事だけを申して見ると、主要な事が二點ある……第一は米は消化が好いのである。どんな食物が好いなど言つても、米程消化の好いものはないのであるから米を奬勵すると、斯う云ふ議論である。去れから色々な議論があつて、又其一つは食物は清潔なのが宜いのであるが、米程清潔な食物は他には先づ少ないのである。消化が好くて清潔であると云ふことは、非常に結構な事であるから、米を食へ、米を食へと言つて、今の通り配附して居るのである。從つて日本も多少は米の產額が足らぬと云ふとが事實であるとしても、先祖以來食つて居る米を捨てやうとは思はないで、米を作る事を本業にし、さうして是迄行つて居つた副業と云ふものを、もう少し高めると云ふことにして方針を立てて行かなければならぬと思ふのであります。先刻申しました支那との商業などの事も色々でございまして、現に只今は革命亂が起つて居るのでありますが、此革命亂の結果日本の支那貿易が如何になるかと云ふことは、我々は非常に心配をして居

ることであつて、我々からは申しますれば支那はヨツの國の事であるから、滿人が盛へやうとも漢人が盛へやうとも夫れは一向關係せぬ事である。アンナに長い間君臨した居つた愛親覺羅氏の朝廷が亡んで仕舞ふと云ふことになつては一掬の涙なきを得ぬのであるが、げれども自分の病氣でもなし、別に他人の疝氣を頭痛に病むことはないのである。唯だ心配なのは日本の經濟に就てである。現に今から一箇月程前に大原君にお出逢ひをしました時分は、日本の紡績は非常に打擊を受けるだらうと云ふやうなお話であつた。所が其の後貿易は何う云ふ模樣ですかと伺つて見ますると、思つた程ではないと云ふことでありましたが、之も確かな話してある。新聞ドコではない、現に紡績會社の社長さんが言はれるのであるから最も確かである。さうして見れば、我々は支那に向つて大いに活動をすることをお勸めしたいのであります。米國の出稼も御勸めせぬではなし、また一國の體面として米國人が桑港で金門を閉めて日本人を入れぬと云ふことに對しては、何處迄も我々は爭はなければならぬ。實は此問題に向つてもウンと働きまする。我々の努める處は萬國の平和である、此萬國交通して居る時に當つて、門を鎖して他國人を排斥すると云ふやうなことに對しては、我々はウント働いて之を破つて見る考へてあります。私のやうな者が遣つた處が何うも一向棟に釘て功能がないかも知らぬが、兎に角屹度遣ります。遣るには遣るけれども、其實お話しすると、彼の國在留の同胞の多數は隨分氣の毒な狀態なのです。亞米利加人が厭やがるのも無理はないと思ふこともある。と云ふのは、我々同胞而かも日本に居れば若い有爲の人で立派な人である筈であるが、其人等が向ふに居る時の有樣はと言へば往々情けないものがある。丁度吾々が亞米利加から歸る時に、私と同船で日本に歸る同胞男女が隨分澤山あつた。殊に二等客、三等客には澤山日本人が居つた。一等客が皆で七十人程あつたが、其中で日本人は僅か十餘人しか居ない。二等には日本人が最も多數で、三等には支那人が多數で、又日本人も居つた。兎に角さう云ふ風に多數の人が日本へ歸るものと見えて、其日本へ歸る人を棧橋迄で見送くりに來た日本人が實に多數であつた。而してそれ等の人の風采の拙づい事、靜つと見て居るとあれが同胞かと疑はれる位で、ホロリと涙が出さうなのがある。所が或る人が言ふのには、あれだけの風をして居るのは日本に歸つたらば結構なのじやと云ふことであつた。尤も夫等の人は皆な詰らぬのかと云ふと、夫等の人の中には仲々大氣焰があるさうである。私どもは船の一等客で、食卓に於ても首席か或は二席に坐れる光榮を有して、日本紳士と威張つて居つたのであ

るが、三等客などの中に於ても夫れ相應の氣焰を吐いて居ると云ふ話してあつた。何う云ふ氣焰かと云ふと、學者や何にかは貧乏で氣の毒なものである、日本で役人をして居る人は勅任官だの何んだのと言つても、年に僅か斗りの金を貰つて苦んで居る。自分等は亞米利加で働いて何千圓か何萬圓かの金を持つて歸るのであると言つて、大氣焰を吐いて居ると云ふ話しを聞きました。私は此話しを聞いた時には實に喜んだ。我々は風采も小ざつぱりとして居つたが、實は嚢中淋しいものである。彼等は各三千圓や四千圓を得ることは餘程樂な樣子に言つて居るが、實に向ふへ行つたらば一萬や二萬の金を得ることは別に不思議でも何んでもない。夫れだけ取れるのは當り前な樣である。我々も勉めたら取れると思ふのである。兎に角何うも亞米利加に於ける同胞多數の有樣と云ふものは、乍失敬餘り結構な狀態ではない。日本に居る人に比べればあれでも遙に善いのであるが、亞米利加の人間に比べると誠になさけない有樣である。尤も伊太利亞邊からや或は愛蘭土邊からも澤山移民があるから、貧乏は日本人ばかりで無く、他の國からも多く行つて居るので、何も日本ばかりが惡いのでは無いが、外國のは貧民ならば貧民然として居るが、日本人はさうでなく、又實際貧民ではない。日本に歸らば有爲の人で、隨つて大に威ばつて居る樣に見られる。是は實際其狀態を見ぬと分らぬのであるけれども、兎に角米國が移民を排斥するのは尤もな所もあるので、吾々は此方面に對してウント働かなければならぬと思つて居る。併し實際遣つて見るべき所は矢張り支那である。それから又段々專門家の書いたものを調べて見ますと、彼の朝鮮などに於ても農業上改良を要するものが澤山ある。日本人が地面を買ふて遣らうとも、或は向ふの人と結合して遣らうとも、或は又助手を使ふて遣らうとも、兎に角朝鮮に於ては農事に改良すべき餘地が餘程多くあると申して居る。されば一面に商業教育、一面に農業教育と云ふことは、啻に內地の現狀改良のみならず、廣き意味に於て日本國と云ふものの擴張の爲めに遣らなければならぬことであると云ふことを申して置きます。

以上申したことで、日本に於て農業教育、商業教育が盛にならなければならぬと云ふことは御分りになつたと思ひますが、併し聊か話を轉じて申しますと、私が農事改良、農業教育を說きますのは決して食物を豐にすると云ふことばかりで、說くのではないのであります。道德の上に於きましても、衛生の上に於きましても、矢張り農業を奬勵したいと思ふのです。農業は單に物質上の利益の爲めに主張するのではなくて、道德上竝に衛生上と云ふやうな理由の爲めからも御話をするのであります。

今日西洋で驚かるゝことはどう云ふことであるかと云ふと、農民が田舍を捨てゝ都會に集まつて來ると云ふことが非常に多くなつたことである。それを西洋の語でRural exodus（ルーラル　エキソダス）と云ふ。Exodus（エキソダス）は逃出すると云ふ意、Rural（ルーラル）は田舍と云ふ意である。田舍の人々が田舍を逃出すからルーラル、エキソダスと云ふのである。先づ田舍、逃げとでも謂はふか。或は「都落」など云ふこともあるから、之に對して田舍落とでも言ふべきである。西洋では追々と此のルーラル、エキソダスが非常に盛てあるから、どうか此ルーラル、エキソダスを是非に引留めるやうに爲たいと云ふのが、今日の運動である。そこで斯樣に百姓の若い者がルーラル、エキソダスを盛に遣るのに對して識者の考はどうかと云ふと、卽ち Return to nature（リターン、ツ、ネーチュア）と云ふことを盛に叫んで居る。若し今歐羅巴に行つて、今日實地教育の上で一番重もな叫び聲は何であるかと言へば、忠孝と云ふやうなことは言つて居ない。Return to nature（リターン、ツ、ネーチュア）と云ふ叫聲である。リターン、ツ、ネーチュアと云ふことは自然に歸れ、自然に立戻れと云ふことで、今や日に月に文明の進歩すると同時に、一方で叫んで居るのは唯自然に戻れと云ふ事である。卽ち先刻申した農業團體會議は申すに及ばず、家庭教育會議に於ても議論されたことは皆自然に歸れと云ふことであつた。此のことに就きましては先きに行つて精しく御話しますが、今は唯歐米に於ては自然に歸れと云ふことが最も大なる叫び聲であると云ふことを申して置きます。其自然に歸れと云ふことに就てどう云ふ計畫が出來て居るかと云ふと、一方では非常に田園生活と云ふことが奬勵せられて居るのであります。田園生活と云ふことは私が前に歐羅巴に居た時にも既に聞いたことであるけれども、まだ十分に實行することを見なかつたのでありますが、今回行きまして親しく經驗しました所では、所謂田園都市……Garden（ガーデン）city（シティー）と云ふ者が到る所で盛になつて居ると云ふことを見たのであります。私は此の事は必要であると思ひますから隨分遠方の所までも親しく行つて見たのであります。尙幸なことには獨逸のマンハイム市で田園都市に關係しました展覽會がありまして、其展覽會なども見まして一層大に感じたことでありますが、歐羅巴今日の社會改良運動の一は田園都市であります。田園都市とはどう云ふことかと言へば、リターン、ツ、ネーチューア卽ち自然に歸れと云ふことであると思ふのであります。田園都市のことに就ては先年內務省に於きましても多少調査せられて既に東京の博文館からでありますか『田園都市』と云ふ書物が出來て居ります。で、田園都市と云ふことはどう云ふことをするのであるかと云ふことを私が見ただけを親しく御話をして行くことが順序であると

思ひます。手近く申すと今日は例へば岡山と云ふやうな所を田園都市に直ほすことは容易に出來ませぬ。併し倉敷、玉島、牛窓と云ふやうな所であつて斯う云ふ都市を田園都市にすることは、無論容易いとは言へないが、遺ればれぬことはない。殊に當町の女學校近所の所或は紡績の舍宅の所、今度大原君の遺られる果樹園の所、農學校の邊り、是等は直ちに田園都市になるべきやう出來て居る。であるから田園都市の有樣を申してリターン、ツ、チーチューアの實施方を御話するのでありますが、それはどう云ふことであるかと云ふと、田園都市と云ふのは全く新らしい考であつて、千八百九十八年卽ち今から十四年程前にホワードと云ふ英吉利の人があつて、其人が此田園都市に關する二百頁程の小さい本を書いたのが動機となつて出來たのであります。初めて出來たのは倫敦から東北の方に五十哩程隔つて居りまするレッチフェルドと云ふ所で出來たのであります。でありますから今日ではレッチフェルドを田園都市の元祖と云ふことに申して居るのでありますが、私共もレッチフェルドへは參つて親しく見たのでございます。詳しいことは今此處で申しましても數字に亘つて多人數の退屈を來たすことと思ひますから、さう云ふ細かい數字のことを申さない。只私の話で以て諸君の頭がリターン、ツ、ネーチューアになれば宜い。

諸君の頭が吾々の考へるやうな考へ方になつて呉れゝば宜いので、レッチフェルドの地面の代が幾らであるとかどうであるとか言つた所で、諸君がレッチフェルドに行つて地面を買ふ譯でもないから、少し位は申しませうが大體は餘り數字に立入つて申さない積りである。それで今言つた通りレッチフェルドは倫敦から五十哩隔つた所である。大體の地面は今あるのが千二百町歩である。千二百町歩と言へば大きな地面である。是を幾らで買ふたのかと云ふと日本の金に直ほして百五十五萬圓で買ふたのである。所が百五十五萬圓は一寸集まらぬから、其中で三分の一卽ち五十萬圓を卽金で拂ふて、後とは借錢にして居る。さうして會社を拵へて株を募つた。株の利子は利五歩であります。さうして此地面を今は借錢をして居りまするけれども、其借錢を拂ふて仕舞ふたならば、誰の持ちにもするのでなくて、此レッチフェルド村に住んで居る者の共有地にして仕舞ふと云ふのが理想である。誰某家の持ちだとか何とか言ふと、年貢を上げたり小作料を上げたりするから蒼蠅い。今は借錢で遺つて居るが、其借錢を拂つて仕舞つた曉は其村の持ちにして仕舞ふて、外には讓渡すことにはしないと云ふのが理想である。扨倫敦と云ふ所は御承知の通り非常に人が多いので、今日の人口は無慮七百萬と註せられて居り、其上に煙の多い

ことはそれは又非常なものである、實に衛生上宜しくない。併し此村は倫敦の町から五十哩も隔つて居るから、晴天白日、實に立派な所である。さうしてどんなことがあつても倫敦の町と是とは續かぬやうにしてある。と云ふのは此周圍に必ず百姓の地面を殘すと云ふことになつて居る。さう云ふ風であるから大都會の惡い空氣や惡い影響は決して受けない。それで大體申すと此眞中に公會堂を建てる。總てが共同的であるから、公會堂が村の中央に建つことが必要である。其近所に商賣人が住まふ。それから縁の方では唯當り前の人が住まふ。勿論製造業等の煙を焚く家があつても宜しい。其代り其人等は東の邊鄙な所に寄る。だから大體は公會堂の近所が住宅區、それから製造區と云ふやうに別れ而も其村の三分の二だけは農業地にする。從つて基本は農業にあるので、強いて言へば大部分は農作地にして置くのである。地面が非常に肥えて居るから農作地に適當である。それてどれ位て一村が出來るかと云ふと、將來總ての人を入れることが出來たならば、三萬人程の人を含むことが出來ると云ふことてある。今日では既に六千人程這入つて居るが、皆入れると三萬人程入れることが出來るさうてある。是が先づ田園都市の一の模範であるのです。なほもう一つ第二に出來て居りまするのは、是は倫敦に直ぐ續いて居るハムプステッドと云ふ所てあるが、此ハムプステッドのはまだ大きくありません。今日の所ては百五十町歩位な地面を田園都市にするのてあります。隨つて大きな田地などを附けやうと云ふやうなことはありませぬけれども、矢張り眞中に公會堂を置くことと、それから住宅區を置いて遣ると云ふことは是は同じとてあります。而も其住宅區には成るだけ廉くて奇麗て丈夫な家を建てて貸して遣る。否貸すばかりてなく年賦償還の方法を設けて置いて、大體二十五年程借りてさへ置けば、それは借主のものになると云ふ計畫なのてあります。是は田舍の人は餘り感じられぬか知らぬが、都會に住みます人は直に感ずるとて、都會になる程皆借家住まゐてある。吾々と雖もお愧かしながら家を借りて居るのてある。尤も借りて居ると言つても矢張りそれは五十圓とか乃至は百圓とかの家もあるから、必ず粗末とは云へぬが、それても借りて居ると言へば矢張借りて居るに違ひないのてある。尤も私なども初めの間は五圓か六圓の家を借りて居つたのが、此方の地位が上つた爲めか物價が高くなつた爲めか知らぬが借家賃が今ては非常に高くなつて居る。兎に角今は借りて居るが、死ぬまても借りるだらう。又私の子も孫も借りるだらうと思ふ。歐羅巴ても同じことてある。否歐羅巴に行くと尙更酷どい、大抵の人は皆家を借りて居る。

隨分高いのは年一萬圓と云ふ樣な家賃もある。それでも矢張借りて居るのである。さう云ふ大きなのは暫く別として、家は成るべく自分で持つた方が宜いと云ふのが歐羅巴や亞米利加でも新しい議論である。所がそれが仲々持てさうにない。例へば家が假りに一萬圓する家としたならば、役人などをして居つたならば、誰も一萬圓の金が餘分に出來やう筈が無い。所が今のハムプステッドの遣り方にすると二十四五箇年家賃を納めて置けば、それが自分の家になると云ふのである。是が歐羅巴では最も良い仕方であると思つて居つた所が、今度亞米利加へ寄つて聞いて見ると亞米利加でもさうである。大きな家は借りるも宜いが、小役人などでは自分に家を持たす事が道德上餘程人柄を鞏固にすると云ふことである。日本では家族制を維持すると云ふことを政府でも喧ましく言つて居る。家族制を維持すると云ふことは結構なことであるが、それよりも自分の家を持たせた方がなほ安固である。家族も家であるが、此言語の家よりもそれよりも見えた形のある家を持たすやうにしたならば、なほ良いではなからうか。只だ口先きで家族制度を維持せよと言ふ代りにハムプステッドのやうに中學校教員や小學校教員にしても二十箇年家賃を納めたならば皆其家は自分の家にして遣ると云ふやうな案を立てたならば、諸君も安んじて其の職に就くことが出來るであらう(笑)。

それから今一つ英吉利で聞いたのは田園都市の外に斯う云ふことを聞いたのであります。即ち Small holding と云ふことを聞いたのである。此言葉は飜譯するのは非常に困るが、まあ小地主制と云ふことにしませう、小さい地面持のことである。英吉利と云ふ所は大抵地面は封建制度の結果貴族が今に持つて居る。大名即ち何侯爵何々伯爵と云ふやうな人が大なる地面を持つて居る。だから一人の持つて居る地面は非常に大きなもので倫敦中を大きく言へば十五人位で持つて居ると言つても宜い。大きく言ふと何千町歩何萬町歩と云ふものを一人で持つて居る。それで斯樣に地面は皆大地主に持たれて居るから、田舍に居つても仕方がないので、田舍落をすると云ふことになる。從つてルーラル、エキソダスを防ぐ爲めには地面を皆に持たせて、皆を地主にしたならば宜からうと云ふ考で、近頃はスモール、ホールディングと云ふのを遣り出し、追々改良して二三年來非常に成績が良い。それはどう云ふことであるかと云ふと、非常に廣い地面を縣が買ふのである。金が無かつたならば大藏省から融通して貰つて縣が買上げるのである。それを處分して日本で言へば五町歩位までに小さく別ける。五町歩と云ふと大きなやうであるが、是は後に

御話を致しますが、西洋で五町歩と云ふのは日本で一町歩位に思つて居れば大體合ひませう。卽ち五町歩の地面位にそれを別けて望の人に拂下げて遣るか貸付けて遣る。さうして自分が地主となつて遣るやうにしたならば、田舍を逃出すと云ふことがなからうと云ふことが、スモール、ホールディングの趣意である。是は今英吉利で盛に遣つて居る。それから此英吉利で遣つた田園都市は獨逸にも佛蘭西にも米國にも及んで居りますが、なほスモール、ホールディングと同じものも亞米利加にも及んで來まして、Homestead（ホームステッド）と云ふ名で以つて現はれて來て居る。ホームステッドと云ふことを若し是から聞くことがあつたならば、それは只今申しましたやうに大きな地面を小さくしてさうして賣渡すなり或は貸付なりすると云ふことであると解釋して宜しい。斯の如くにしてどうしても自分が田舍で地面を持つて營むやうにしなければ、自然に立戻ると云ふことは出來ぬと云ふことを今盛に言つて居ります。それから獨逸には斯う云ふことがあります。それは內國殖民或は國內殖民と云ふことが今盛に行はれて居る。それはどう云ふことであるかと云ふと、殖民と云ふは何れ海外に殖民するのが極まりであるけれども、獨逸の普魯西の東の方は日本の東北地方の如くで土地廣く人少ない。それを政府が買ひ、小さい地面に仕切つて移住の便を計つて遣つて居る。卽ち獨逸の內國殖民は英國のスモール、ホールデング、米國のホームステッドと云ふものと趣意に於ては同じものであると云ふことが分る。だから歐羅巴の傾は土地を順々に兼併すると云ふことでなくて、成るべく細かい地主を拵え、細かい地主を保護して遣ると云ふことで、自然に歸れと云ふこと、卽ち農業改良の實を擧げる端緒になつて居るのである。

それで右樣の譯で自然に歸れと申しますが、若し自然に歸らなかつならば如何なる不利益があるか、一國の農業が衰へたならばどう云ふ不利益があると云ふことを調査して見ますと、それは佛蘭西で殊に喧しく言ふのであるが、佛蘭西に文部省の視學官をして居りました所のデギラージと云ふ人があつて、其デギラージが言つたことに、凡そ一國の農業が衰へると云ふと、先づ指詰め二つの損があるといふのである。其一つは農業が衰へて若い者が田舍落ちをして都會に集まると犯罪人が增加する。田舍が盛てあつたら罪人は增さないのである。罪人が增し監獄が繁昌するのは何時でも人が都に寄るからである。殊に子供の犯罪する者を調査して見たならば、五分の四までは皆都會で犯罪を覺えるのです。斯樣にデギーラージ氏は先づ國民の體

質が弱はるといふこと、犯罪人が增加すると云ふことを農業衰頽の結果とし、國民の體質が弱はりさうして罪人が增せば結局國家は衰へるのであると云ふことを申して居る。農業の衰頽は纏めて言へば卽ち國民國家の衰頽であると云ふことを喧ましく申して居ります。

之に依りまして農業と云ふことが如何に重んぜられて居るかが御分りになりませう。斯の如く申しますと、諸君は然らば商業は反對でありませぬかと斯う言ふが、併し商業も亦之れと同じ事であると申すことが出來る。と云ふのはなんぼ國の基を强くしても國民が外に發展しなかつたならば國が進む道理がない。西洋で今日商業と云ふのは國を發展さすと云ふことである。卽ち外國商業を主として申すのである。殊に歐羅巴では國と國とが接近して居り又交通も最も便利であるから、今歐羅巴で商業教育と云いことを重もに申して居るのは、手廣く外國と商賣をすると云ふことを申して居るのであります。無論それは小商人として內國商人も澤山居ることは申すまでもないが、歐羅巴で今殊に商業教育を喧ましく言つて居るのは外國商業である。外に伸びるならば外國商業を遣れ、內を固めるならば田園生活を遣つて百姓を大切にせよと云ふことが是が歐羅巴諸國の生存の二つの基であると思ひます。そこで商業と云ふことも生馬の眼を拔くと云ふ風の狡猾極はまつた不道德なことを遣るのが商業ではなくて、先刻申しました萬國商業教育の大會で決議したことに依りますと、商業教育なるものは一面には專門教育であるけれども、一面には現代的文明に對する普通の修養である、商業教育をすると云ふことは唯金を儲ける云ふことを教へるのでなくて、如何にして金を儲けるかと云ふことを教へるのである。卽ち不都合なことをして金を儲けるならば、如何程儲けても不義の富であるからと、不義の富を誡めて正當なる金を儲けることが商業道德の教育である。商業道德は How much を教へるのでなく How を教へるのであるとして見れば、農業教育も商業教育も道德に結附いて居る。農業も商業も道德教育の上に立つて居ると云ふことが御分りになります。

以上のことを少し實例に立入つて御話しますると先刻も言ふ通り歐米の農商業の狀態を調査しなければならぬ所から、彼地に參いりましても多く農商務省とか內務省とかを訪問して大臣とか其外須要な地位に居る人々に御目に掛かつて色々お話を承はつたのでありますが英吉利に於きましては農商務省——を訪ふたと言ひたいが實は英吉利では農商務省とは言はない、英吉利では商は別であつて、農事と水

産が一所になつて居るので強いて言へば農漁務省である。此農漁務省を訪ふたのである。其處で大臣なり次官なりに遭ふて御話をしたのでありますが、御承知の通り世間で考へて居る所では英吉利は商業を國是にして居るやうに見える。乃至は工業を國是にして居るやうに見える。成程英吉利は日本と同じやうに島國で土地が狹い。英吉利では鐵工が盛である。殊に蘇格蘭のグラスゴー邊の鐵工の盛なと或はバーミングハムア邊の炭業の盛なと實に驚くに餘りある。併しながら英吉利では石炭は實際豐富なのであるが鐵は實は少ないのです。鐵は多分は南亞米利加から持つて來るのであると云ふことを言ふて居る位である。さう云ふ風に英吉利では外の物を持つて來てそれに加工して世界に出すと云ふのが目下の狀態である。世界に日の沒する土地が無いと言ふて威張つて居るが、實は其農業は大變に衰へつつあつたのである。若し假りに其國を圍んで外と交通をさせぬやうにしたならば、佛蘭西は二十八日の間は飢へない、外から何も這入つて來ないのでも四週間位は饑饉は起らぬが、英吉利は三日したら食ふものが無くなると、昔から言はれて居る。英吉利で食つて居る鷄卵は皆餘所から來た鷄卵である。卽ち先刻言つた所の丁抹から出す鷄卵一千五百萬圓と云ふ大部分は英吉利へ行くのである。和蘭は四千萬圓の野菜を年々輸出すると言つたが、是亦皆英吉利へ持つて行くのである。だから丁抹からは鷄卵を、和蘭からは野菜を、又亞米利加から小麥を送つて貰つて居る。さう云ふのを今試みに交通遮斷をして見たならばまるで食べるものが無くなる譯である。さう云ふやうな次第であるから近頃では英吉利でも農業を非常に盛に遣つて居るのである。英吉利が農業を度外視して居ると云ふならば、それは三十年ばかり前のことである。此處十年ばかりは此農業と云ふことに非常に注意を拂ふて居ると云ふことを農務大臣が言ふて居つた。尤も私の國はあなたの國と違ふて自由の國、自治の國であるので、政府が世話を燒くと云ふことは一寸出來ないのです。政府があなたのお國のやうに敢て色々の世話を燒くことを致すことは出來ませぬけれども、成るべく奬勵を致して居るのであつて、政府は斯う云ふことを致して居ると云ふことを申しました……卽ち家畜、殊に豚を飼ふことを奬勵して、豚の展覽會を毎年遣つて成績佳きものには賞を與へると云ふことにして居る。其次には色々の調査會を起して苟くも良い種と云ふものは皆それを教へて遣る。又色々害蟲のことなり何なり總てのことは皆調査報告書のやうなものを作つて廉價で配つて居る。と云ふので宿へ歸つて來たら兩手で抱く程の大部の報告書を贈つて呉れた。さうし

てそれから先きは自治の國であるから人民自分で遣る。政府は農業の調査と豚の奬勵とを遣つて居ります。否英吉利で重に遣つて居るのは三の農會であつて、詳しいとはそれ等の會に遣つて御調べなさいと云ふことであつた。一は Royal Agricultural Society 云ふので、是れは日本で云ふ大日本農會のやうなものである。それから Agricultural Organizing Society、それから今一つは Central Chamber of Agriculture と云ふので、是等はどう云ふことを遣つて居りますかと云ふと、ローヤル、アグリカルチュラル、ソサイティーは農業の學問上の調査、展覽會の世話をするのである。それからセントラル、チェムバー、オヴ、アグリカルチュアーは農民の政治、法律上の權利を主張するやうに出來て居る會であります。さうしてアグリカルチュラル、オルガナイジング、ソサイティーは農業の組合を保護する會でありまして、即ち澤山の組合を團結させて組合を盛にすると云ふことであります。斯の如くして政府にも色々調査に骨を折つて居りますし、外に色々の會があつてそれと協力致して居り、竝に各地方でも有力者が農業教育を非常に奬勵し各種の講演會や幻燈會を遣つて居るので、農事の改良が非常に立派になつた。地方も近頃は競つて農事改良を遣つて盛になつて居るから、今日の英吉利の農業は御蔭で餘程挽回したと云ふことを政府の當局者が話されたことである。右申しましたとて一國の方針は決して英吉利でさへも一つではなく三つ兼ねなければならぬ。富と貧と非常な違はあるが、日本でも右樣に行かなければならぬのであつて、さうしてそれが結局道德教育と關係を持たなければならぬと云ふことが、御分りになつたらうと信じます。

大層御話が長くなりましたが、そこで御話を最後に致しますのは、其の萬國會議と云ふやうな所ではどう云ふことが議論されたかと申しますると、農業團體會に於きまして斯う云ふことを申されたやうてあります。農業が衰へると云ふと一には一國の道德的精神が衰へて家庭の精神を失ふやうになり、二つには國民が薄弱になつて死亡をするやうになる、佛蘭西の昔からの格言に斯う云ふ格言がある、ファミーユ、ノムブレス、ファミーユ、プロスペールと云ふ言葉がある。此言葉を忘れぬやうにせよ。御承知の通り佛蘭西殊に巴里の人たちは子供を餘計拵へない。餘計拵へないと云ふのはどれ位拵へるかと云ふと、大抵夫婦一組に子供が半人位てある。半人の子と云ふのは一寸おかしい、產婆にでも聞いて御覽、半人と言つて片一方の方では腹から上の手ばかりの子、片一方の方では腹から下の足ばかりの子と云ふのがあるかと云ふと、そんな子があり樣がない。併しながら佛蘭西では夫婦一組に對して子供

半人と云ふ。是は何も不思議てはない、半分に切るのても何てもない、二組の夫婦に一人の子供と云ふ割といふとである。何故此様に子供を餘計拵へぬやうにするかと云ふと、子供が多いと母親がダンスに出ることが出來ない、芝居や寄席に行くことが出來ないと云ふのが理由の一つである。今一つの理由は巴里ては娘を嫁入さすには非常な持參金を多く持たさなければならぬ。持參金を持たなければ嫁入が出來ぬから、さう云ふ金の掛かるものは拵へぬやうにせねばならぬ。日本ても近頃は同じ樣な事を申しますが、吾輩の家には軍艦が多くて困ると言ふ……軍艦とは女のことてある……さうして女を嫁入さすことを進水式を擧げると云ふが、此進水式が又非常に金が掛かる。そこてさう云ふ金の掛かるものを多く拵へぬやうにしやうと云ふ所から、佛蘭西ては夫婦一組て子供半人と云ふ割合になつて來た。それは大變に間違つた考てある。國が繁昌するのは子供が多いからてある。獨逸の今日盛なのは獨逸には子供が多いからてある。十年前獨逸には一組の夫婦に對して子供が八人と言つて居つたのが、一箇月程前に調べた結果ては一組の夫婦に付て子供十三人てある。日本は何人てあるかと云ふと一組に對して六人と云ふのが通相場てある。獨逸の半分てある。是は一國てもさうてあるけれども一家もさうてある。

矢張り子供が多くないと一寸は樂なやうてあり、成程子供が多いと費用の掛かるものあるが、併しながらそれが皆大きくなつて御覽、是位結構なものはない。此意味に於て子供は必ず子寶として大切にしなければならぬと思ふ。私の知つて居る人に、結婚してからもう三十年にもなるが子が無い。子が無くて樂だと云ふから、私は常に其愚を笑ふのてある。今言つたフヲミーユ、ノムブレス、ファミーユ、プロスペールと云ふのはどう云ふことてあるかと云ふと、家族の多い家は繁昌した家てあると云ふ意てある。殊に若し農業を遣るのてあるならば、是非とも家族の數を增すと云ふことを考へなければならぬ。農家が盛に繁昌すると云ふことは子の數が多いと云ふことを言ふのてある。即ち農業改良や、商業の教育など云ふことを頻りに言つて居ると同時に、夫婦一組に子供半人と云ふ樣なことては往かぬ。家族を多くせよと云ふことを言つて居る。だから農業を盛にして行くには、家族を多くし、身體を健康にし、それよりして要求する事は五つ程ある。第一番はもう少し農民の衣食住を改良して衛生に注意するやうにしたならば宜からう。第二番は農村をもう少し綺麗にするやうにしたならば宜い。即ち小ザッパリしたら宜からう。第三番には交通を便にして、さうして經濟を裕かにするやうにしたら宜からう。第四番は農事に從事

する者の手を増すやうにしたら宜からう。第五番は小農を奬勵するやうにしたら宜からう。此五箇條を一つ今後の農事改良の方針に立てやうてはないかと云ふことが、右申した第一回萬國農業團體及地方民政學會議の傾てございました。て今から御話を致しますことは、詰り其細目に亘つて説明をするのであります。さうして其農業團體大會と云ふのは十の部會に別れて居つたのてありますが、其十の部會ては如何なることが議決されたと云ふことを、一々以下二章に亘つて御話をばしやうと思ひます。それから又商業教育大會と申します方ては、是は問題が十五程あつたのてあります。此の十五程の問題を二章に別けて御話をするやうにしやうと思ひます。それて兼ねて諸君の御手許に配付してある日程に依りますと、次章は農事改良の技術的方面と云ふことになつて居る。是は諸君が大變にビックリされることと思ふ。なんぼ口八丁手八丁の谷本ても百姓の技は出來まい。あなたは一體鋤鍬を取つたことがあるか、田植をしたことがあるかと問はれるかも知れぬ。所が實際私は鋤鍬取つた覺えはなく、又田植をした覺えもない。是こそ畑水練てある。併し此農事改良の技術的方面と云ふのは何も斯う遣つて田を耕やすのだとか、斯うして田植をするのだとか云ふやうな話をするのてはなくて、是は農業經濟の御話をするのてあります。それから農事改良の社會的方面。それから次が商業教育になるのてあるが、卽ち商業教育の實際的方面、さうして最後が商業教育の道德的方面と云ふことになります。以上はそれ等の總論を御話したのてあります。どうか五回引續き辛抱して聽いて下されば、幾らか西洋土產が分かり、御爲めになるてあらうと信じます。

第一章　農事改良の技術的方面

前章御話をしました通り、我が日本は富國と言ひたいけれども、其實甚だ貧國てあつて、吾々は誠に困ることてあります。或はさう云ふことを劈頭第一に申しては御機嫌を損ずる人があるかも知れないけれども、良藥は口に苦して、其方が爲になるだらうと思つて、遠慮なく申したのてあります。偖て日本が右の如く、今日てはマダ貧國てあると云ふことに對して、如何にして此場合に處するかと云ふことに就ては、考へやうが二通りあると思ふのてあります。其一つの考へ方は、何うも外國と色々交際をしたり何にかするからものが要るのてある。夫故に外國との交際などは一切廢めて仕舞ふて――詰り鎖國をして仕舞ふて、さうして例の分度論て金がなければ

無いやうに食ひ、米が足らなければ五合食べて居つた人は四合に減じ、四合食べて居つた人は三合に減じ、夫でも往かなければ粥でも啜つて居らうと云ふ風に、消極的に遣る。卽ち鎖國をして分度をして遣つて居れば良いのである。何うも外國何かと交際をするから金が掛る。用でもないに米を澤山食ふから足らぬので、足らなければ夫れだけ減じて食ひさへすれば良いのであると云ふやうなことを言ふ人は、マサカあるまいと思ふけれども、然し乍ら夫れに似た樣を言ふ人が隨分あるやうです。否夫れが誤つて動もすれば日本の敎へと云ふことになつて居る樣である。けれどもさう云ふやうな消極論は、到底之から盛になつて行かふと云ふ我が國には行ふべきものではないです。貧乏なれば稼げば良い話してあつて、貧乏だから食ふものを減さうなどと言つて居つては、愈〻貧乏するばかりである。斯く申しますれば、そんなことは譬論話に言ふのであつて、そんな愚なことを言ふ人はない、と諸君は言はれるか知らぬが、能く考へて御覽なさい、さう云ふことを實際敎へて御座る方が世間に澤山ある。所で吾々は決してそんなことは申しませぬ。貧乏であるから外國との交際をしないと言つた所が、せずには居られぬ。拙者は鎖國であると言つても、向ふから押掛けて來れば、交際せずに居られぬ。左樣なケチな消極論を唱えずして、どんど

ん儲けて行つたら宜いのである。卽ち私共は積極論を唱へるのでございます。前章御話したことに依りまして、私の趣意が或は誤解をせられたことはなからうかと心配するのですが、それはどう云ふことを申すかと云ふと、昨日私は Return to nature（リターン、ツー、ネーチュアー）と云ふことを此壇の上で叫んだのである。此の自然に歸れと云ふ樣な事を私の口から言ふのは、或は異に聞えはしまいか。私は何時も消極論は嫌ひて積極論を唱へる人間であるのに、自然に歸れと云ふやうなことを言ふのは、少し老込んだのではないだらうかと云ふ誤解がありはしないかと思ふ。併し私が自然に歸れと言つたのは、古の野蠻未開の域に戻つて、さうして驕の沙汰は一切無用である。色々な飾は無用である。極く質素な質朴な自然の儘に戻つて仕舞へと云ふことを言ふのではない。吾々は自然に歸れと云ふことを申しますと同時に、一面には何處までも自然を征服して行けと主張致します。自然に隨ふのは隨ふのであるが、併しながら又一面には愈〻自然を征服して行くべきであると云ふ自然征服論と云ふことを主張するのであつて、此事が今後の農事改良と云ふことには大變大切な問題になつて來やうと思ふのであります。農事改良とは何ぞや。一言で申しますれば、吾々は自然に立歸へると同時に自然を征服して、さうして吾々の知識を加へて農事を文明的にすると云ふ

ことであります。農業は文明の敵のやうに思ふ人があつて、文明國になれば農業は無用になるやうに思ふ人があるかも知らぬが、それは昨日も申した通り決してさう云ふ譯ではなからうと思ひます。

さて農事を改良するは何故に自然を征服するにあるかと申しますと、農事改良に就ては色々議論があるのであります。併しながら根本の問題は前章にも吳れ〴〵申しましたやうに、都落ちではなくて田舍落をする人を田舍へ引留めなければならぬのである。卽ちルーラル、エキソダスをする連中を田舍に置かうと云ふことを言ふのである。卽ち吾々が自然に歸れと云ふことは文明を捨てろと言つたのではない、田舍に於て田舍の文明を起せと云ふことを言つたのであると云ふことを申します。で何故に人が田舍落をするかと云ふことを考へて見なければ、農事改良は立たぬのでありますが、それには色々說がございまする。先づ第一昨日も一寸揭げました佛蘭西のデギラージと云ふ人の言つたことに依りますと、追々人が田舍を去つて都の方に移るのには、大體五つの原因があると云ふことを申して居ります。第一番は父母の虛榮心である。父母の虛榮心と云ふのはどう云ふことかと云ふと、どうも肥料擔桶を擔いで、さうして泥だらけになつて野らで働くのは、何だか意氣地無いやうに思つて、つい袴も着けさせたい、黑紋附の羽織も着させたい、月給取りにして見たい、旦那さんと言はせたい、と云ふ風な、詰り父母が百姓を賤しいものと思つて、さう云ふ虛榮心から來るのが多くあると云ふことを申して居ります。是は日本にも多いことであると思ふ。少し學校へでも行つて學問をするやうになると、どうも野らの働は嫌ふやうになると思ひます。第二番目はそれと同じやうな事であるが、少し違つて居る。詰り免狀を非常に重んずるから起つて來るのである。百姓をするには免狀は入りませぬ。けれども學校の卒業證書でも貰ふと云ふとどうも田舍には落着いて居られぬ。甚だしきに至つては農學校を卒業して居りながら農事に從事しないで、中學校の先生にでも……あたり障はりがあらば御免下さい……なつて居ると云ふやうな例がある。だから免狀を尊重すると云ふことがルーラル、エキソダスの第二の原因であります。第三番目は百姓は嫌やなものと思ふ、是は裏を言つたのであつて、今言ふた通り肥料擔桶を擔いでどろだらけになつて居るのは餘り良い氣持はしない。卽ち農事の嫌厭と云ふことが第三の原因であります。其次は兵隊除けをするのであつて、どうも百姓に居ると兵役に取られるから、學校に這入つて居つて、成らうことならば避けやうとする、卽ち兵役の忌避と云ふことが第四番の原因である。

而して最後に第五番目の重もな原因は田舍が詰らなくて都會が面白いからである。卽ち都會の生活に耽溺すると云ふのは、都會に居ると芝居があり、寄席があり、又始終祭と云ふやうな騷があるが、田舍の方は殺風景である。尤も昔は田舍は田舍相應に面白いことがあつて、鎭守の宮の祭、或は盆踊りとか、面白いこともあつたのです。是は西洋では今も盛に遺るのです。然るにどうした譯で間違つたか、盆踊りや鎭守の祭は風俗を紊す恐れがあるからとて、成るべく取締る樣にする方針を執つて居ると聞きます。是では成るべく田舍を面白くないやうにする傾があるやうに見受けます。是は私は聲を大きくして當局者の反省を促すのである。西洋では決してそんなことはせぬ。無論盆踊や鎭守の祭で淫亂な風が起ると云ふやうなことは誡めなければならぬけれども、人間は朝から晩まで唯しかつめらしくして居つては暮せるものでない。御祭だと言つて神樣を尊敬するのも宜いが、又斯う云ふ時に家族親戚、朋友が皆寄つて一年中の苦痛を忘れると云ふことが、祭の功能であるとすれば、どうしても今日歐米の一般の議論は農事を改良しやうと云ふことに就ては農村の生活を樂しいらしなければならぬと云ふことを言ふて居る。て隨分芝居も催すが宜からうし、寄席も起すが宜からう。無論奢侈に流れてはならぬけれども、成るべく田舍を樂しいものにしなければならぬと云ふことを一般に言つて居るのに、日本は人情に遠い理窟ばかりて遺らうと云ふ傾が往々あるので、農村を追々詰らぬやうな風にするのは非常に殘念なことてある。人が田舍を捨てゝ都會に行きたがる色々の原因の中の最も重もな一つは、農村の生活が詰らないものであるからてある。さう云ふ譯て皆の者が都會に集まらうとするのてあるとデギラージが言つて居ります。

然らばそれをどう云ふ風に改正したならば宜いかと云ふと、色々改正の意見も出て居りますが、私は曾て同じ佛蘭西の人てマリヤン、ゴローと云ふ人の意見を矢張り學會て聞いたのてあります。此人が言ふには、若い者が田舍落ちをして都に出るのを引留めるには、農業と云ふものが外の業務に比べて値打のあるものてあると云ふことを能く合點さすのにあると云ふことを申しました。農業の貴重なる所以を能く若い時から合點させるにあると云ふことを申して居る。其農業の貴重なる所以はどう云ふ風に說くかと云ふと、それは凡そ五箇條に分けて說くことが出來る。第一番は農業と云ふものは外の業務に比べて最も健康な卽ち身體を丈夫にする衛生の目的に適つた業務てあると云ふことを合點さすが宜い。百姓は長生をしまする。百姓には肺病などは都會に居る人程多くありませぬ。農

業は最も衛生的な、最も健康な職業であると云ふことを合點さすが宜い。第二番目には農業と云ふものは大變學問が要る仕事であると云ふことを合點さすが宜い。オヤ〳〵百姓に學問が入りますかと、斯う云ふて疑はれる人もあるか知らぬが、是は後の話で分かるが、今後立派に農業を遣つて行かうと云ふには、種々な學問を知らなければならぬ。それは別に六づかしい哲學や何かを知らなくてもよからうけれども、或は地質學であるとか或は動物學であるとか植物學であるとか物理學であるとか、別しては無機化學、有機化學と云ふやうな色々な學問を知らなければならぬ。學問を知つて居れば農業が立派に出來るからである。卽ち農業は最も科學的な仕事であると云ふことを合點さすが宜しからう。それから第三番目には農業と云ふものは一家が團欒して出來るものである。親子兄弟が打連れて野らに行つて働くことが出來るが、外の仕事で、例へば紡績などはどうであるか知りませぬけれども、大きな鐵工所に通ふと云ふやうな時に、マサカ女房が鎚を持つて打つて、さうして亭主が鍛へると云ふやうな、田舍の鍬鍛冶や鍋鍛冶のやうなことは出來るものでない。だから大きな工場に於て親子兄弟一家團欒して仕事をすると云ふやうなことは、今の世には恐くは出來なくなつて來て居るとするが、百姓は之に反して、一家團欒樂しく野らに出て共に働くことが出來るのであるから、是程樂しいことはないと云ふことを敎へたら宜からうと云ふのである。それから第四番目には、農業は最も變化の多い職業である。人間と云ふものはどんな人であつても、朝から晩まで、正月から暮まで、同じ事ばかりして居つたら必ず飽きるものです。私共も始終さう思つて氣の毒に思ふこともあります。例へば巡査と云ふやうな色々社會の爲めに大切な役をして居る人が、雨が降つても風が吹いても始終同じやうに立番されて居ると云ふことは隨分苦しいことであらうと、同情に堪へない譯であるのでありますが、總て變化の無い仕事は詰らぬ。所が此工場の生活と云ふものは總て變化が無いのであります。でまあ工場を惡るう言ふては、それは大原君の紡績工場に行く者がなくなつては御氣の毒であるが、さう云ふ譯ではないが、元來が工場の生活は變化の少ないものである。是に反して百姓は正月から暮までの間、所謂年中行事で種々變つたことをする、それが樂みなのである。尤も今年、來年、再來年と變りはないけれども、一年中に於て色々變ると云ふのは、恐らく百姓程變るものはあるまい。學校の先生、下は小學校の先生より上は中學の先生に至るまで大抵同じことをして居る。殊に小學校の先生などは毎日々々大抵同じ事をされて居るに相違ない。誠に御同情に堪へぬ場合がおほい。

朝から晩まで鼻垂小僧を相手にして、さうして白墨を以て毎日々々同じことばかり繰返へして居るのは餘り結構な話でない。尤も其中に卒業式や始業式、或は運動會や展覽會と云ふ風に、變化がないではないが、まあ極めて變化の少ないものである。然るに百姓は變化の多いものであるから、學校の先生などのやうに袴を着けたり洋服を着たりはせぬが、しかしそれよりも變化のおほい面白い職業であるぞと云ふことは、チットは教えて置く方が宜からう。第五番目には百姓位、男らしい仕事はないと云ふのである。是はどう云ふことであるかと云ふと、男らしい仕事と云ふのは、危險を冒してさうして一六勝負――と云ふと博打のやうだが――乘るかそるかと云ふ仕事を遣り遂げるのが男らしいのである。實際百姓位に、一六勝負で男らしい仕事はない。女が縫物をし料理をするのに、此の縫物はうまく出來るか一六勝負……此の料理は加減好く出來るか一六勝負……(笑)そんなことはない。所が百姓は實際一六勝負である。何となれば人間のわざで出來ない雨風と云ふものを相手として居るのである。天候が都合好く行つて呉れれば良いけれども、非常に旱魃なことがあるかと思ふと、非常に降續くことがある。實に吾々人間の力で以て仲々左右することの出來ない強い天然を敵に持つて居る場合にそれをうまい具合に乘越して、さて一年の暮になつて、豐年で收穫が多くてうまいことを遣つたと云ふことは、恰も荒海を乘越して行く船頭の男らしいのと同じことなのであると云ふことを合點させたら、百姓などと云ふことは詰らぬと云ふことを言ふ人が無くなるであらう。商賣も一六勝負であらうが、百姓も同樣である。だから右言つた五の點、卽ち農業は最も健康に適すると云ふこととか、農業は最も學問を要するとか、或は一家が團欒して仕事が出來るとか、或は變化が多いとか、或は男らしいと云ふ、右の五箇條を能く呑込まして遣つたならば田舍落は無くなるだらう。其上に希望する所は色々設備をせよと云ふのです。第一番は學校である。學校を地方的にすると云ふことを希望する。どうも日本は此點に於て甚だ誤つて居る。と云ふては語弊があるか知らぬが、實は誤つて居るのである。どうにかしなければならぬと吾々も思つて居るが、實は後れて居る。後れて居ると云ふのは日本の小學校は津々浦々、都でも田舍でも遣り口が總て同じである。だから大富豪の息子の教育も、水飲百姓の息子の躾けをする教育も殆ど區別はない。華族さんの御嬢さんを教育する小學校の教育も、其處の浦屋住居の娘を教育する小學校の教育も少しも變つた所がないと云ふ風になつて居つて、東京で教へる教科書も、備前備中の邊鄙な所で教へる教科書も皆一樣、文部省國定教

科書と云ふことになつて居る。斯う云ふことでは到底農事の改良は六づかしいのです。吾々が多年希望して居ることは小學校でも中學校でも實は幾種類にも分けなければならぬと云ふ議論である。詰り手取り早い話が、教科書なども幾種類にもしたいと云ふ考へである。それには仲々六づかしいことがあつて出來ない。往年自分が文部省の視學官の末席を汚して居つた時にも、私は風に教科書一樣の論には異見を懷いたのである。尤も此一樣論を主張する方にも相應な理由があるのであつて、是れは仲々六づかしい問題である。兎に角學校が地方々々に適する樣な風に手加減するだけの自由を多く與へ、自由の餘地を十分に存して置かない時は、どうしても農業などは嫌ふやうになると思ふ。だから學校を地方的にすべしと云ふのである。即ち田舍の學校では子供に農業を教へる。農業を教へると言つても仲々六づかしいことは子供の時から教へることは出來ぬが、詰り鋤鍬を取ることを子供の時から習慣を附ける。成らうことには學校に學校園を置き……是まで置いたやうな學校園でなく、寧ろ田舍では農圃的な學校園を置いて作らすやうな風にして行つたならばどうであるか。それの結果互に競爭して立派なものを拵へるやうにしたならどうか。又讀本の中に農業の分子を一層多く加へると云ふことは勿論、其外に田園讀本などで

も言ひませうか、農家の讀物にしたならば宜いやうな田舍向の讀本を拵へて學校以外に讀ますやうにすると云ふことも宜からうと思ふ。又博覽會を開き展覽會を開いて、農業にも色々工風をし改良をする餘地のあると云ふことを示すが宜からうと思ふ。それから學校は、今では或は滿十二歳を以て義務年限として居るけれども、十二歳では一寸農業などは習ひ兼ねる。で、義務年限を延長して少くとも十四歳にして置いて、學校を出るまでに少しでも農業の概念を得るやうにしたならば宜からうと思ふ。尙良いことは田舍の者は町方へ奉公に出て行くと云つても足留をして、まあ戸籍役場か何處か、或は警察署か何處かで、田舍のものが外に出て奉公すると云ふことを許さぬやうにしたならば宜いてないかと云ふやうなことを、一々丁寧にマリヤン、ゴローと云ふ人が述べて居つたのであります。マリヤン、ゴローは今申す通り佛蘭西人である。佛蘭西では田舍の者が田舍を捨てゝ都會にばかり集まると云ふことに就て、如何に識者が心配して居るかと云ふことは御分りになると思ひます。白耳義に大博覽會のあつた時に參列して深く感心したのであるが、大博覽會に佛蘭西が出品して居るものは、美術館に於ては非常に立派な飾り物が陳列されて居ると同時に、農業館に於ては佛蘭西より陳列されて居る農事改良の結果が極めて著しいも

のがあつたと云ふことに、深く感心したのであります。最も感心したのは其農業館の中に一の表が掛つて居つて、それは田園移住奬勵會と云ふやうな會であります。其田園奬勵會は今から十年げ田舍の方に移つて行くことを勸める會であります。かり前に建てたのであるが、初めの年は僅か百人位しか田舍に行くものがなかつたが、段々と田舍の方へ行くものが多くなつて、今では千人二千人と云ふ風に田舍に行く者があると云ふやうな表が掲げてありました。右に依つて見ても、如何に佛蘭西に於ては田舍に歸る卽ちリターン、ツ、ネーチューアと云ふ聲が盛てあるかと云ふことが分り、又それはどう云ふ風にするかと云ふこともほぼ御分りになつたらうと思ひます。併し私をして言はしむれば、右述べたマリヤン、ゴローの說は至極立派な說であるけれども、言ふて未だ行はれぬ議論でありはすまいか。農業は健康に適するとか、大變學問が要る仕事であるとか、或は男らしい仕事であるとか何とか並べて居ると、大層立派であるが、併し是だけのことを聞いたからと言つて、左樣でございますかと云ふて、百姓を止めやうと思つたのを思ひ止まり、田園生活に安んずるやうになるかどうか。現に諸君も私の今御紹介申した話を聞いて、大に感じ、もう明日から袴を脫いで草鞋をはいて大に百姓を遣らうと言はれるかどうか。それは講釋の時間が長く一時間も二時間も說いて居つたならば、或は一人や二人は成る程と言ふ人があるかも知らぬが、昨日も言ふ通りで、どんなに立派な說でも經濟に合はぬ說は人が贊成しないのである。御尤もな言分ではあるが、今言つたマリヤン、ゴローの五箇條の方法の說明位では承知しない。それよりもルーラル、エキソダスを止める最良策は、百姓がもう少し儲けるやうにしたら宜いのである。畢竟は農民の儲が少ないからまあ町にでも行つて見やうか、田舍では大體一日に能く働いて三十錢位であるけれども、工場に行けば六七十錢も取ることが出來ると云ふと、多少衞生的でなく、多少學問が要らぬかどうか知らぬが、可愛い妻子に泣きの涙で別れて、女房は紡績會社、亭主は鐵工所に這入ると云ふやうなことが出て來るのでなからうか。詰り今の問題は農民の生活をもう少し利益のあるやうにし、さうして又田舍の生活をば面白いやうにすれば、それはルーラル、エキソダスが減ずるであらうと云ふことを、私は考へるのであります。それであるからマリヤン、ゴローの說を惡いとは言ひませぬけれども、今後は農業改良とは農民の利得を增すと云ふことであると思ふ。

然らば是から御話をしまするのは如何にして農民の利得を增すかと云ふことを御話することが、卽ち農事改良の技術的方面と云ふことになるのでございます。尤

も前章にも申しましたやうに、私は百姓の事は承知しませぬから、種子の蒔きやうや、肥の遣り方などは御話するのではありませぬ。只だ大體の原則を御話して見やうと思ふのであります。

さて此農事改良と言はず、總て社會を改良することに付きまして、今日學問上に於て二種類の說のあると云ふことを申し置きます。其一つの說は主觀派、今一つはそれに對して客觀派と、斯う云ふのであります。主觀派と云ふのはどう云ふのを言ふのかと申しますと、總てものを改良すると云ふのは人の心から直ほさなければならぬ。主觀と云ふのは御承知の通り心のことであります。精神を直ほすことが先きである。精神さへ直ほれば自然社會の改良は出來る。又之を細かにして行きますれば農事改良も出來のであると云ふことを言ふので、農事改良に於て此の主觀派を採る人は露西亞に多いのであります。成程露西亞と云ふ國は未だ文明が後れて居る國であるから、無理も無いことであつて、例へば露西亞に於て有名な農事改良論者、ミカイロスキー……此名は頗る農事改良論者として相應わしい名であつて、ミカイは未開である、ロスキーは例の通りロスキーである、露西亞は未だ文明が進んで居らぬ未開な國である、それで此農事改良論者がミカイロスキーと言ふ名であるのは誠に面白い。尤も本人はそんな積りで附けたのではなからうが圖らず日本語で斯う云ふ風に合つたのである(笑)一體西洋人の名などを記憶するには斯う云ふ風にやると容易に覺えられる。併し此名を間違へてヒブンメイ(非文明)ロスキーなどと言つては困る。もう一人はクロエンコ……是も食らへん子とでも覺えて居れば宜い。此二人が露西亞に於て最も農業改良に熱心な人であつて、書物も出來てある。此人等は主觀說を唱へるのである。今茲に揭げましたマリヤン、ゴローもどつちかと言へば主觀說であると私は思ふのです。詰り人間が農業の貴重なと云ふことを能く承知さへすれば、ルーラル、エキソダスと云ふことは止むと斯う言ふのであるから、まあ主觀說です。日本などもどうかすると主觀說が流行つて居るのです。一體若い者の心得方が違つて居るのだと頭から言ふ。如何にも恐入りました、不心得ならば仕樣がございませぬとなる。併し一概に百姓は大切である、國の寶である、それを嫌ふのは不心得であると言つたとて、まあ、あゝ言ふけれども、……と言ふに違ひない。それで不心得をば精神から治すと云ふことは、無論良いことには相違ないのじやが、農事改良はそれ丈では功能が少ない。さう云ふ事を言ふのは寧ろ古い說である。さう云ふことを言ふたのは學者が跋扈つた時代の說であつて、それは實は出來ない

相談てある。と云ふのは昨日も言つた通り、一寸我々が考へると西洋人は肉食をするから彼等は肉萬能論者のやうに思はれる、所がテキサス州では米が取れるから米萬能論者を說くやうに、どうも人と云ふものは境遇によつて變るのです。それで貧乏な時には凡そ貧を樂しむなどと言つて居つた人が、何かのことで少し儲かつたりすると、折角世の中に生れて來たのだから樂をして死ななければ損だなどと勝手なことを言ふ。或は反對に、平常大變立派な着物を着て居ると云ふやうな役人先生も、一朝休職になつたとか或は免職になつたやうな場合には、どうも木綿の方が結構てナ、と云ふやうなことを言つて居る。さう云ふ風に人は兎角自分の境遇で其の言ふ說が變る者てある。今言ふ通りテキサス州て米が出來ると云ふ境遇になると、其の邊の論者が言ふことが變ると云ふことになると、精神も大切であるけれども、精神や議論よりも先づ第一には境遇を改良すると云ふことが必要てあると思ふ。て今日の問題は農事改良とは一面には農民の精神も改良はしなければならぬだらうけれども、それよりも農的境遇卽ち百姓の境遇を改良して行くと云ふことが一番てある。改良と云ふことに就きましては、今日學問上の說は追々境遇に移つて來たのてありますから、一寸此處に横文て書いて置きます、Milieu これは佛蘭西の語てすけれども

何處の國の學者も使ひます。凡そ人を教育するには境遇を良くしなければならぬ、境遇を變へれば自ら教育が出來る。彼の孟子の母が三度其居を移したと云ふのも詰り子供の境遇を變へたのてある。同じ子供てあつても境遇によつて色々と變るのてある。だから百の說法を聞かせるよりも、だまつて境遇を變へさせた方が良い。よく言ふことてあるが、褓袍を着て居ると直きに胡坐でもかくやうな氣になるが、何か禮服ても着るとどうも胡坐はかけぬ。所謂貌を以て心を直ほすと云ふ方が有力なのてあると云ふ論も一個の境遇論てある。尤もこの客觀派には二樣あります。境遇論と又一つは遺傳論と云ふのです。斯う云ふことを申すと、私の肝腎の話てある農事改良はそろ〳〵何處かへ行つてしまつて、遺傳論等と云ふ話になつた樣て、一體農事に遺傳論と云ふのはどう云ふ事てあるかと、諸君の中に疑はれる人があるかしらぬ。教育學ならば宜いが、農事改良に遺傳論とはそれは一體何事てあるかと考へられるかも知らぬ。そこで申します、遺傳論と云ふのは百姓の語て云ふと種子てある、だから種子が大切てあるか肥料が大切てあるかと云ふことが、境遇論遺傳論と云ふことになるのてある。地が良くても種子が良くなければならず、又なんぼ種子が良くても肥料が良くなければならぬ。それが非常に議論されて居る。これを教育

論に當嵌めて見て、なんぼ良い風に敎へても生れが惡くしてはどうしても直ほらぬと云ふのは境遇に重きを置きますので、その又反對に、敎育が不十分であつても種子さへ良ければ立派なものになると云ふのは遺傳論に重きを置くのであります。敎育論では境遇論と遺傳論と云ふものとの優劣が盛んに論ぜられて居るのであるが、農事に於きましては孰れが重いと云ふことは出來ないのであります。農業に於きましては卽ち右の二つを合せまして客觀論と云ふことに致したいと思ふのであります。語を換へて申しますれば今後の農事改良は主觀に重きを置くのも結構ではありますけれども、どうか客觀と云ふことの方に重きを置いて、境遇論と種子論とを全うするやうにやつて貰いたい次第であると云ふことを、此處に述べるので御座いまする。卽ち只今これから御話をしまする技術的方面と云ふのは詰り其の境遇を改良し種子を改良することであるので御座いますが、併しながら種子改良のことは茲には詳しく述べる暇を有せぬのであります。只だ一言申しまするが、種子をよく吟味すると云ふことを農事改良の第一義とするのではなからうか。西洋ではどういふ風にして居るかと言ふと、農事改良の第一着には種子を研究し、それから種子と種子とを合せて違つた種を拵へると云ふことに非常に力を盡して居る。今西洋ではユーゼニックスと云ふ學問が流行して居る。ユーゼニックスと云ふ學問は詰り種子を良くする學問である。そのことを廣い意味で申しますれば百姓の農事改良の根本問題はユーゼニックスだらうと思ふ。これは英吉利などでも昨今は非常に遣つて居るのであつて、第一番に試みましたのが小麥に就いてしたのである。同じ小麥でも外國種子を移して見るとか、或は又新種を拵らへるとか云ふことに就いて頻りに盡力して居る。その次には又果物に試みたのである。果物と云つても主に林檎や梨などに試みて、英國に於ては種子の改良が非常に成功したのである。その次に試みて居るのは昨日申した通り豚の改良を企てて居るので、色々豚の種類を寄せて見、違つたものを合せて見て、變種な豚を拵へると云ふことを遣つて居る。英國の農事改良は第一は種子の改良であります。それから又昨日も申しました通り、和蘭の方に渡りましては、ハレムと云ふ所で花作りの家にも行つて見たが、何をして居るかと云ふと、大きな試驗田があつて、この試驗田では違つた花の種子を合せて違つた花の變り種を拵へると云ふことに非常に力を盡して居り、實に細かなことを遣つて居ります。

昨日も此の會が濟んでから後承はつたのでありますが、此の學校の御向にある果

樹園にも種々の果物や何かの種々な種類のものを寄せて植ゑてあると云ふことでありましたが、其の果樹園が完全になつて、さうして今言ふやうに種子學の研究が立派に出來て、さうしてちやんと繼ぎ合せることが出來たならば、定めて農事改良上には餘程進んだものが出來るだらうと私は思ふのです。今までの種子ばかりては餘り面白くない、外國種子と交換し、又是を輸入すると云ふことが入用であります。今後の農事改良の第一着手は學問上から言へば種子學である。シュシ學と言つても例の漢學で云ふ朱子學ではない、私の言ふシュシ學は種子の方の種子學であると御合點になりたい。種子學の話は是れで措きます。どういふ種子が好いかと云ふ樣なことは、私に御聞きになつても一寸お答が出來にくい。どうか種子と云ふことに重きを置いて貰いたいと云ふこと丈を此處に申して置きます。

其の次に御話をするのは境遇學であります。歐羅巴の農事改良は一面は種子學であると同時に、一面は境遇學であつて、是等を列べ總稱して合理的農學と云ふ名をば付けて居ります。或は他の人の語を借りて言へば科學的農學と云ふ名を付けて居ります。合理的農學と云つても、今迄遺つて居るのが理窟に合はぬと云ふのではない、もう少し理窟に合ふと云ふのでせう。兎に角科學的農學或は合理的農學と云ふものに依つて追々遺つて居ると云ふことであつて、合理的農學と云ふのは、語を換へれば境遇を改良すると云ふことが主である。境遇を改良すると云ふことは取もなほさず農事改良と云ふことになるのである。それは何時頃からかと云ふと大體五十年以來の發達であると思ひますが、重な人を申して見ますと、英吉利のデービーと云ふやうな人が大層有難い人であると思ひます。それからリービッシュ、それから佛蘭西の方で言ふて見ると有名なベルトロー、もう少し佛蘭西の方で言ふと、有名なパストロー、それから伊太利の方で言ふて見ますとマレグチ……一體伊太利人の名には日本人の名と能く似たのがあります、私の名のタニモトなどと云ふのは無いが、タニと云ふのは能くあります。このマレグチなどと云ふのは日本の名氏に能く似て居る、これは別の話であるが……大體さう云ふやうな學者の力に依つて今日出來たので、それ等の學者は如何なる人であるかと申しますと、それは多くは化學者であるか或は生物學者であるのです。さう云ふ化學者或は生物學者の力に依つて境遇が改良されるやうになつて來たと云ふことであるとして見れば、これから後の農事改良は又どうしても學問の力を借らなければならぬと思ひます。それに就ては日本の農民の保守的な考を捨てなければならぬ。尤も急に激變することも宜しくない

が、保守的なことを早く止めるやうにして貰ひたい。例へば暦が此度新暦になつた、新暦に依ると取引は總て十二月の暮にやる、さうすると此大講演會も十二月には開かれまいと心配して居ると、矢張り本年も例の通り開くと云ふことである、來て見れば相當の集まりである、どう云ふ譯かと聞いて見ると、仲々新暦などがさう急に行なはれないと云ふ話である。新聞などでは新暦奬勵會などが出來て居ると云ふことを書いて居る。斯んなことでは如何にも情けない話であると思ひます。さう云ふ風であるから、合理的農學が一般に行はれるとは遠いことであらうが、合理的農學に依つて改良をするに非れば農事改良は出來ぬのである。

然らば合理的農學とは如何なるものかと云ふことを御話しなければならぬ。これに就いて私が西洋へ行つて見聞した所で格別驚いた事柄を御話しいたしませう。

合理的農學におきましては、改良を要しますことは第一番は言ふ迄もなく營養論である。物の養ひである。卽ち草木或は畜類の營養である。此處で營養と言ふのは主に作物に就いて申すのであるから作物の營養である。それから營養の次は壓迫である。それから濕度。次に溫度。それから光。斯う云ふ風に營養、壓迫、濕度、溫度、光の五點に就いて改良をし、さうして其の上若し出來得べくんば手加減と云ふものをする。この六つのことに於て改良をすることが所謂合理的農學に於ての境遇の改良と云ふことであると云ふことを申して居ります。其の中で壓迫と云ふのはどう云ふことかと申しますと、土壤が一定の重みを以て押すのでなければ物が出來ぬ。さればと云つて餘りに重過ぎても作物が伸びぬ。そこで重きにも失せず輕きにも失せざるやうに壓迫を加へる。そこで壓迫と云ふのは土壤學で土の性質を研究し、それを耕すことを研究するのが第一である。日本でも先年來農商務省や農科大學に於て非常に土壤の研究を遣られて居るさうであるけれども、まだ一般にそれが行はれて居らぬのは甚だ殘念であります。西洋で農事の改良をされたのは全く土壤學の御蔭であつて、土壤が分つてから後にそれを色々とすき耕す方法が工夫されて來たのであるから、先づ日本に於ての最急務は土壤學の研究と土壤に應じたすき耕し方法の研究であると思ひます。それに就いては格段聞いたことはありませぬからこれで措きます。次に濕度と云ふのはこれは卽ち灌漑することであります。或は排水をすることであります。水を注ぐとか或は濕度を退けるとか云ふことは、いづれも濕度論でありますが、これに就きましては彼國は一面には非常に灌漑が良く行き屆いて居ると同時に、一面には非常に排水が良く出來て居つて、極くじ

く〳〵した土地も非常な乾田となつて、さうして立派に作物が出來るやうになつて居る。乾田と同時に漑水も好く出來て居る。尤も灌水には色々方法があつて、川を堰いて水を田の方に取るとか、池に水を溜める仕方とか、色々あつて國に依つて違ひます。例へば伊太利では南の方では川で遣るのが多くあり、北の方では池で遣るのが多くある。シシリーでは河渠が多くあつて、ロムバルデーでは日本で見まするやうな大きな池に水を澤山蓄へてあるが、孰れが宜いかと云ふことは無論國の地勢、河川の有無に關係しますが、若し理想的に言つたならば、河の水の絶えないやうにするのが宜いと云ふことは疑無いので、此事に就ても幾らか見聞致したことがあります。けれども是も格段諸君を驚かす程のことはない。唯灌水と排水が大問題であると云ふことを申します。それから引續き營養、光、溫度、手加減と云ふことに就て少々見聞を御話しやうと思ひますが、營養と云ふのは申すまでもなく肥料のことでございます。今日歐羅巴に行つて非常に感心しまするのは肥料の研究が大層進んで居ると云ふことでございまして、肥料は申すまでもなく燐酸肥料とか或は窒素肥料とか云ふやうなことでありまして、其數字を聞いて參りましたが、窒素肥料などは西洋で用ゐ出したのは千八百五十六年と云ふことであるのでございますから、未だ甚だ古いことではありませぬ、唯今から大體五六十年程前であります。窒素肥料が初めて用ゐられたのも今から五十五六年前のことであるが、昨今は其分量が非常に增しました。それも極く新しい統計はありませぬけれども、一八九四年と云ふ統計があります。此一八九四年に歐羅巴で、歐羅巴と言つても重もに統計の分る國ですが、歐羅巴の國で窒素肥料を用ゐた總額が九、七四二、一九〇噸になつて居る。大體千萬噸用ゐるやうになつて來た。一八九四年は既に十五六年前のことであるから、新らしい統計を見ませぬから精確な數は分らぬが、其後非常に增加して來て居るやうである。それよりも殊に著しいのは燐酸肥料の增加であつて、燐酸肥料が一八九三年には二百八十八萬三千噸歐羅巴中で用ゐて居つたのが、其翌々年の一八九五年には四百萬噸に增加して居る。是も其後の新らしい統計は歐羅巴洲に通じてはないさうであります。すが、兎に角さういふ非常な勢を以て增加して居ると云ふことであつて、此方の研究が歐羅巴では着々進んで居るのであります。唯それが增加して居ると云ふだけの話をしただけでは分り憎くいから、實際實例を御話して見やうと思ふのです。實は今度歐羅巴に行きましたのは播州の伊藤長次郎君と同行した結果、隨分私一人ならば行かなかつたらうと思ふ所まで能く行つたのであるが、丁度昨年十一月の初め頃

に佛蘭西の巴里に參りました所が、彼のセーヌ河の縁で菊花展覽會があると云ふことでありましたから、さぞ美事なことであらうと思つて見に參りました。御斷りをして置きますが、菊は畏くも皇室の御紋章であつて、今日此話をするのは誠に目出度い譯であるが、外國に行つて迄も此菊の花の美しいのに驚きました。菊は既に大分以前から西洋に移されて居つて、以來非常に美しく發達して居る。吾々が十年前に佛蘭西に居つた時に既に其美しさに驚かされたのであるが、去年行つて見て其品數の多いのと立派なのには非常に驚いたのであります。唯どう云ふものか匂が日本の菊程はないやうであつて、向ふでは見る花になつて居つて、嗅ぐ花になつて居らぬやうに思はれる。だから若し眼に見るだけならばそれこそ實に立派なものである。所が菊花展覽會と云ふから菊ばかりかと云ふと、そうではなく、這入つて行く道には林檎とか梨とかの木を列べてある。それが又葡萄、梨、林檎と云ふやうな果物の展覽會がある。實に御話にならぬやうな大きな梨であつて、梨などの大きなのになると何百目と云ふのも少しも珍らしくないと云ふ有樣である。これだけかと思つて居ると、又一寸行くと今度は八百屋の店のやうに大根、茄子、南瓜と云ふやうなものが澤山列べてある。菊の花の展覽會と思つて來たのが、まるで八百屋の展覽會のやうである。尤もこれは菊と云ふ名前で人を寄せて八百屋の展覽會をも見せたのでせう。菊の花の展覽會を見に行つた吾輩が先づ葡萄や林檎で驚かされ、次に又其の八百屋の店の展覽會に感心したのであつて、詰りそれを見ると大根、牛蒡、茄子、唐茄子等あつたのであるが、これ等は總て日本のとはまるで量が違つて居る。總ての物が斯う手で抱へる程ある。大きく長く、芳香よく、又甘いと云ふことに於ては實にたまらんやうであるさうな。とてもこの野菜の展覽會を見ては我々は顏色なからうと思はれた。而してそれが何處の邊で出來るかと言ふと、主に巴里の近所で出來ると云ふことで、統計表やさう云ふものを書いたものを貰つたのでありますが、世界中で名高いさう云ふ立派な野菜を作る人は斯う云ふ名の人である。ブースと云ふ人である。これは巴里の近所の人である。この人は野菜屋さんであつて、色々立派な蔬菜を作つて居るのであります。野菜を作るに一町歩毎に年々平均千圓の肥料を使ふと云ふ話であつて、その代りに野菜の出來る目方の多いこと驚くばかりで、一萬六千貫以上と云ふ話である。これが先づは世界で一番大出來のものであると云ふことを承はつたのでありますが、卽ち右樣のものがそれに陳列されて居つたのである。この人の特色は一町歩に向つて約一千圓の肥料を施すと云ふことで、秘訣はなんて御座り

ますかと聞いたならば只だ肥料であると答へたばかりである。その時に葡萄に就ても取調べたのでありますが、先年佛蘭西に私が留學して居りました時にはモンペリエーと云ふ所に居りましたが、この邊は非常に葡萄のよく出來る處であつて、葡萄は平均一町歩に對して先づ通例は五十五石と云ふのが通例であります。然る所が近頃は肥料の改正をすることが出來て、所謂合理的農學に依つて三倍の收穫があつて、百五十石のものを取ると云ふことは敢て珍らしくないと云ふことを承はつたのであります。もう一つは馬鈴薯、これは伊太利と佛蘭西で餘程出來ますが、伊太利では大體申しますと、一町に四百貫程出來るやうである。然る所伊太利の農民は怠惰であるからそれだけに止るが、同じ氣候の佛蘭西では頻に合理的農業を行つた結果、千貫目に增したのである。卽ち伊太利と佛蘭西と比べると四百貫と千貫の比であるが、これは少し換算が違つて居るか知らぬが、兎に角大體の數はそれで分る。肥料を施すに依つて平均三倍の增收を得るのであつて、現に今申す通り、勤めた佛蘭西は怠つた伊太利の倍以上の收穫があると云ふことが分ると云ふことが非常に必要な問題でありはすまいか。これに就いても色々六づかしいことを承はつたのでありますがそれは省きまして、兎に角巴里の菊花展覽會で見聞したことはそんなことであります。

その次に驚きましたのは溫度の問題である。日本は日當りが良しうございますから自然とこれが出來るのでありますが、歐羅巴は寒い處が多いのであります。佛し寒いのであるが之れが合理的農學に依つて境遇が改正されたのであつて、それは驚きましたのは室である。實に室の多いとには一驚を喫したのであつて、まさか米を室で作ると云ふことはないけれども、先刻言つた和蘭のハレム邊に行くと汽車の窓から外を覗くと田畑の樣にづつと室續きです。室は日本の如く高くしない、土地を深く掘つてガラス板で掩つてある。停車場から降りて見渡す限り室である。殊に室の多いのは白耳義國である。白耳義には御承知の通り奈翁が戰爭したウォータールーと云ふ所がある。このウォータールーの古戰場を見やうと思つて、その側の停車場に降りて見ると、川、谷間と云ふやうな處づつと室である。御承知の通り白耳義は大きな板硝子の出來る處である。日本で大きな建築をするに就いては、板硝子は今日迄の所遺憾ながら白耳義から輸入するのであると云ふことを聞きました。その板硝子がよく出來るやうになつた刺戟は何であるかと言ふと、百姓の室の屋根を葺く硝子が抑もの始めであつたと聞いて居ります。それは何を作つてあるかと

言ふと矢張り主に葡萄である。西洋の人は葡萄を葡萄酒の原料とするのであつて、西洋ではこの葡萄が大變に珍重がられる。斯う云ふ風に室では皆その葡萄を作つて居るのでございまして、大きなのは三町歩四町歩と云ふ間づつと室で被うて居る。室と云ふても何町かの間連つて居るのであるが、此處に書き寫して來ましたのは今言つた停車場近所で或る葡萄作りの近所で調査したのであります。それは溫室を四町程持つて居る。即ち室がもう直ぐに耕すことになつて居る。人夫は三十人使うさうである。さうして其の取り高を申しますと、無論主は葡萄であつて、葡萄が一箇年に三千二百貫、其他に色々なものを作ることが出來る。其の次に作るのが茄子である。赤トマットーである。これが一萬貫。薯が四千貫。豌豆が八百貫、總體で一萬八千となる貫、斯う云ふものを其處に於て作ることが出來ると云ふことを申して、室の功能を頻りに說いて居りました。今回彼の地に行つて驚きましたのは和蘭竝に白耳義に於て室の盛であつたことです。所がそれが白耳義や和蘭ばかりかと思ふと、これは又驚いたのは英國の北殊に蘇格蘭に於て室が非常に盛に行はれて居ることであります。無論室は只だ溫かくして日光をよく受けるとか云ふばかりでは御座いませんで、其中にストーブを焚くのである。ストーブを焚くから勢ひ石炭が安くなければ引合はぬさうであるが、前章の話の通り英吉利の北殊に蘇格蘭には石炭が多いから、それで斯う云ふことが出來たのであります。さうして室で石炭を焚くと葡萄が大變によく出來るのであつて、今から三十年程前に葡萄一磅の價が十圓から二十圓位したのが、今では一圓で出來るやうになつたと云ふことであります。斯う云ふ風に澤山出來て大變安くなつて、誰の口にでも這入るやうになつたのであつて、總ての作物を室で製らへると云ふことになつたならば、若し農學が進んだならば日本でも餘程廣い範圍に應用が出來ることであると思ひます。兎に角溫度論が今日は室論になつて居ると云ふことを西洋に於て見聞したのであります。

さて其の次は光であります。農產物總ての產物に光の入用であると云ふ理由は二十年程前に聞いたことであつて、例へば日光の大切なことは無論であるが、月光でさへも植物の繁茂に必要なものであると云ふことを聞きましたが、今回彼の地に於て聞いたことで第一のことは、大きな球で光を集めて、さうしてそれを作物の上に影響せしむると云ふことを聞たのであります。併しそれよりも只今盛んに試みられつつございますのは電氣でございます。電氣應用の作物が今度彼方に行つて見聞しますと非常に盛に行はれて居る。尤も私は前日來每々申す通り、農學には門外漢で

ありますから、さう云ふことが果たして出來ることであるか、出來ないことであるか存じませぬが、兎に角今回彼方へ參つて知つたことは、この電氣栽培の方法であります。成程さうでせう、今の世の中は何でも電氣で遣つて居るのに、農業ばかりが電氣の外に立つと云ふことは思はれぬのであつて、百姓も電氣を利用しやうと思へば出來ると思はれます。現に利用して居る。尤も日本に出來て居る普通の飜譯書を二三見たが、それには電氣作物のことは出て居りませぬ。それは役に立たぬから書いてないのか知らぬが、兎に角彼方では實際に電氣を農業に利用して居ります。而してこれを段々調べて見ると、何處が一番初にこれを試みたのかと申しますと、英國であります。千八百四十六年卽ち今から六十年餘り前に英國でシエフェルドと云ふ人とフォルスターと云ふ人と、斯の二人が電氣と云ふものは農作に入用であるからと言つて、使出したのが抑もの初めであります。それから殆んど同じ頃、少し後れて居るが、獨逸でも使つた人がある。それはフベックとか又フィヒトナーとか云ふ人である。それはどうするのかと云ふと、作物のある地面の上に鐵條網式の網を張るのである。さうして此方に發電機を置いて電氣を通はすのである。さうすると其の電氣の影響に依つて作物が非常に增加するのであつて、是は重もに穀物の栽培に使ふたのでありますが、一割三分方から二割七分方程收穫が增加した。卽ち百分の十三から百分の二十七位收穫が增したと云ふことであります。それを千八百八十四年又獨逸にスペヒェルと云ふ人があつて、其人が電氣に少しく改良を加へて遣つて見た處が、非常に收穫が多くて、三割から五割卽ち百分の三十から百分の五十程の收穫が多くなつた。併しながらスペヒェルの電氣の仕方は非常に費用がかかるのであつて、收穫は增したけれども、或は引合はぬと云ふ譏があるからと云ふので、佛蘭西では現にスペヒェルの電氣仕掛をなるべく簡單な方法で遣ることが出來なからうかと云ふことで、頻りにそれを改良することに腐心して居ると云ふことをば承はつたのであります。尙ほ現にこの電氣農作が盛に行はれて居りますのは、歐羅巴の北の方諸威であつて、諸威で今電氣仕掛を以て遣つた農作の結果と電氣仕掛を用ひないで遣つた農作の結果とを比べて見ると、先づ一割程の差が認められると云ふことが、此の國の最近の報告に見へて居ります。前申す通りこの電氣農作のことに就ては日本では普通の書物には餘り書いてないやうであつて、それはつまらぬから書いてないのか知らぬが、併し學問が進めば何處迄行くかわからぬと思ふのである。御承知の通り我々は最初電信に感服して居つたのが次て電話が出來た。蒸汽鐵道に

感服して居つたのが、今では飛行機の實現に驚ろかされるやうになつたとして見れば、電氣を作物に應用して、さうして二割三割の增收を見ると云ふことは强ち不可能のことてはありますまい。この電氣と作物との關係は現に電の事を稻妻と云ふ。稻妻と云ふ語はどう云ふ所から起つたか、その起原は承知しませぬけれども、電氣と作物との關係の淺からぬとはこの語が既に示して居るので、經驗上我々の祖先も早くよりこれを認めて居つたのではあるまいか。さう云ふ風に電氣學が農事栽培にまて研究されるやうになつて來たのであるから、今後此の方面に益々研究の歩を進めて行つたならば、農事改良上大いに得る處があるであらう。

それから手加減とはどう云ふことてあるかと云ふと、これは農藝化學が進歩した結果、例へばこの葡萄は少し酸つぱいと云ふと、一寸肥料の加減を變へる。この牛は乳が少し薄いと云ふと、一寸食はす芻草の加減を變へる。この油は少し薄いと云ふと一寸肥料の加減を變へる。斯う云ふ風に手加減に依つて酸つぱい葡萄を甘く、薄い乳を濃くする事てある。これは手品よりも容易てあると云ふことて、卽ち佛蘭西のバストルの重もな力に依つて、今日はそれを習へば殆んど自由自在に出來る方法があると云ふことを申されて居ります。若し右のやうな方法を用ひますれば、農產物の增收は疑ひないのてあつて、諸君に向つて非常なる福音を傳へる御話が出來るのてあります。それは同じく佛蘭西の人が研究したのてありますが、ブルドーと云ふ人が計算した說であるのてす。これも大ざつぱな說て、無論精密に言つたならば議論が色々に別れませうけれども、ブルドーが研究した處に依りますと、若し合理的農學が行はれて農事が改良されたならばこの土地は――土地と云ふのは佛蘭西の爲に言つたのかそこは判然分らぬが――土地は今迄よりは十倍の人口を養ふことが出來ると云ふことを斷言したのてあります。若し其の通りてありますならば、先刻述べましたやうなことは最早や心配にならぬのてあつて、米が足らぬと云ふやうな患はなく、十倍以上の人口を優に支へることが出來ると云ふことは、寔に目出度い福音ては御座いますまいか。この合理的農學が行はれたならば、一面には同じ土地が肥へて參りませう。また一面には今迄邊鄙てあつた處も廣く改良することが出來るてありませう。日本ては色々嶮はしい山の上や何かに重い苦しい目をして肥料桶を荷いて行つてまても耕作するを奬勵するやうだが、今回歐羅巴て承つた處ては、さう云ふことを奬勵したならば、さなきだに百姓と云ふものは苦しい職業てあると云ふことを考へて居るのてあるから、尙ほ其の農事の嫌厭の度を增すことになる

から、それよりも寧ろなるべく一つ只今迄ある土地に向つて力を増すやうにすれば良い。農業を盛にするのは、高い山の上までも切り開くと云ふのでなく、交通便利で困難でない處で收穫を増すやうにすると云ふことでなからうか、と云ふやうなことを述べられて居りました。さう云ふ事に就いてまだ〳〵御話すべき例が澤山ございますが、今日はこれだけにして置きます。

尙この境遇に就きまして更に補はなければならぬことは、學問上から申しますれば境遇論は三つの方から見て貰ひたい。第一番は只今申した通り百姓の智識を增加すると云ふことであります。合理的農學に依ると云ふことであります。これはどうか色々な講習會を開くなり種々の方便に依つて遣つて貰ひたいことでありますが、前章御話しましたやうに今度の白耳義の第一回農業團體會議に於て議決した第一の議決は斯う云ふのであります、……今後は凡ての女學校の教科に農科を入れると云ふことであります。女子師範學校に於ては農業教員を養成せよと云ふことであります。尙ほ出來得べくんば總ての小學校に迄も農科を入れてさうして農業の趣味を養ふことが必要でありはしまいか。これが第一回萬國農業團體會議の第一の決議でありましたが、承はりますれば御當縣などでも來年から小學校に於ても

農業を奬勵になるやうでありますさうはてですがそれは期せずして全く一致したのでありませう。併し科學的境遇の外に尙ほ二つのものがある。一つは政治的の境遇であり、今一つは社會的の境遇である。政治的境遇と云ふのはもう少し農事の改良と云ふ方に、農家の改良と云ふ方に、平たく言へば稅を安くすると云ふ方に力を盡さなければ、如何に勵んでも出來れば出來る程絞ぼり取らるゝと云ふ有樣では、農事の改良が出來る道理はない。是に就ては伊太利の代議士で農事改良には有名である妙な名の人、ガッテーと云ふ人が喧しく叫んで言ふには、伊太利では軍事費は約二億圓使つて居る、而して農業改良に費す總ての政治の費用は僅かに千六百萬圓である。軍事費は二億圓、農事改良に費す費用が僅かに一千六百萬圓である。是れでは如何に科學的に改良しても追付かないと云ふことを論じて居りますが、日本は果してどれ程の割合になつて居りませうか、一寸急いで精密に調べることが出來なかつたから確かには申上げられぬが、恐らくはガッテー氏が言ふたことと相距る遠からずであらう。で第一は農民の負擔を輕くすると云ふことが目下の急務であると思ひます。第二は社會的境遇であるが、是れは一言すれば小農を保護すると云ふことであります。農業仲間が唯兼併で、大地主が順々に土地を併せて仕舞ふて、總ての百姓が

小作人になつて仕舞ふと云ふやうなことては、到底農業の發展と云ふことは出來ないから、小農を保護すると云ふことてあります。小農保護と云ふことは次章に詳しく御話をしたいと思つて居ります。

右樣御話したことて農業改良と云ふことがどう云ふ方面に向つて居るかと云ふことは略ぼ御分りてあらうと思ひますが、尙ほ此講義をなすに方りて日本て農事改良はどう云ふことになつて居るかと調べて見ると、大體十箇條の注意を要するのてあります。第一番は種子を撰擇することてある。第二番は籾を貯藏する籾倉の改良てある。第三番目は種子を撰分ける所謂撰種淘汰の仕方てある。第四番目は苗代て、例の名高い短冊形にする事。第五番は苗代に種子を蒔く分量、或は種子を蒔く時期てある。第六番は本田の管理法卽ち灌水や排水て、第七番は農具の改良てある。第八は草取のことてある。どうか良い所では年に六回位取つて呉れとさう云ふ注意がしてある。第九肥料の改良てある。矢張り燐酸肥料、それから窒素肥料、殊に色々蓮花草てあるとか……西洋では蓮花草は多く見ないが苜蓿が澤山生へて居る。それは廣い地面に一面に苜蓿が生へて居る。あの苜蓿の四つの葉を見付けたならば幸福限りないと云ふのて春の暖い日などには苜蓿の四つの葉のものを搜し廻はる。吾々も留學中屢々散歩に行つて、四つ葉の苜蓿を搜廻はつたが、仲々見付からなかつた。それ位に澤山一面に生へて居る……斯う云ふものを肥料に使用すると非常に收穫がある。第十番は害虫の驅除てある。斯う云ふやうな事が今日本の農事改良と云ふやうなことの重もな注意てあると思ふのてすが、どうか今日講義を御聞きになつた人は如何に學者は一層根本的に要求して居るかと云ふことを御悟りになつて頂きたい。苗代を短冊にすると云ふことは善いことか惡いことか知らぬが、さう云ふやうなことが農商務省や府縣廳に於て非常に御盡力になつて悉く行はれても、まだ境遇改良には遠いだらうが、先づさう云ふ十箇條の事から競ふて行ふことを望むのてある。尙ほ進んては善いか惡いか知らぬが、室の研究或は電氣の研究と云ふやうな所まて行かなければ、話は到底纒まらんと思ひます。或は最後に斯の如く申しますと諸君には色々非難がございませう。成程電氣などは結構てあるけれども僅か五段や一町位の小百姓ては仲々電氣を用ふるなどと云ふことは出來ぬことてある、と言はれませう。是は御尤もてある。歐羅巴ては殊に亞米利加ては大きな仕事の農業が行はれて居るのてあつて、此處に一例を書いて參りましたが、大きな仕掛と申しますと、四五百町歩を一人て耕すのてあります。まあ日本ては思ひも寄ら

ぬとであるが、歐羅巴で墺斯土利のチムメルマンと云ふ人の一家で耕やして居る。面積が五千三百四十町歩程て有て、使つて居る人夫が五百人。普通は五千人要るのてあるが、向ふでは一切蒸氣で遣るのであるから、五百人で濟むのである。何を遣つて居るかと云ふと、甜菜を遣つて居る。又伊太利のヴェニスの近所では千町歩の田地を耕して居る一の伯爵があつて、是は總てのことが電氣仕掛を以て遣つて居るさうで、人夫四十人、牛を使つて居るのが二十四頭、斯う云ふやうな風になつて居ります。英國にも大きな地面が多いが、亞米利加ては近頃は大きな株式會社を拵へまして、さうして二千町歩三千町歩を耕すことは珍らしくない。一萬町歩位な地面を電氣並に蒸氣に依つて耕やして居るのであるから、大農と言つても迚も諸君の想像に及ばぬと云ふことを申すのです。

最後に前章御話した西原君の遣り方を西原君から聞いたまゝに御話しますと、テキサスはテキサス州と云ふ一の州てありますけれども、日本の内地の三倍程の大きさがある。亞米利加は大きな國で亞米利加の一州テキサス州だけで日本の三倍の大きさがあると云ふことは能く考へなければならぬ。人口は三十八萬人即ち土地廣き割合に人數が少ないので、一方里に十四人しか居らぬ勘定てある。一人前に田地を割ると十六町程になる。耕やすのには多くミューと云ふ小馬を以て遣りますが同君の實驗に依ると、四頭立のミューで一日に八段位鋤くさうてある。又それを以てずつと——色々な例を除けて申しますが——例へば稻刈りをします時に六頭のミューを以てすると、一日に三町二段位刈ることが出來ると云ふことてあります。或は稻をこぎますする時に發動機の機械を以てこぎますと、一日に四百俵から六百俵位な稻がこげると云ふやうなことを言つて居られた。西原君の如きは小仕掛て僅か百町歩位の土地てあるが、それでもさう云ふ遣り方て遣つて居る。そこて何故に日本人がテキサス州に於ける農業が望が無いかと云ふと、テキサス州て農業をすると、土地が肥えて居るから、初め三年の間は肥料は少しも遣らないのてす。結構な土地てす。さうして四年目から少しづつ肥料を遣る。其肥料は燐酸肥料ださうてす。所が施肥の結果土地に雜草が生へる。米が出來る代りに土地に燐酸肥料を遣つたから草が生へる、所て其草の刈りやうがない。情けないことには器械の發明の盛な國てありながら、之に對する草刈器械の發明がないのてある。そこてどうするかと云ふと七年目位て草が生へるやうになると止めて仕舞つて、又他の土地に移るのださうてある。丁度西原君のも初めてから八年目になるから、もう是は止めて今度

は蜜柑の栽培を遣らうと思つて居ると云ふ話でありました。初め三年の間は肥料は少しも入らぬ。四年目から少しづゝ肥料を遣る。七年目位になると草が生へるから止める。何のことやらまるで狐に抓まれたやうな話で、それは我が國のやうな猫の額のやうな土地を相手にして居る百姓では譯が分らぬ。だから亞米利加で仕事をしやうとならば草の生へぬ所へ行くのである。或は草刈器械を發明してそれで亞米利加のテキサスへ行つてテキサスの草を片端から刈ることである。けれどもどう云ふのか此の草刈器械の發明が出來ぬものと見える。出來るものならば亞米利加人のことであるから早くに既に出來し居る筈である。此の話を聞いても如何に亞米利加のは大農であるかと云ふことが分かる。亞米利加で農業に使つて居る機械と云ふのは實に大きなものであつて、露西亞の聖彼得堡に農具展覽會があり、匈牙利のブダペストに農具展覽會があるが、其の處に竝べてある亞米利加から持つて來た機械は實に大きなもので御話にならぬ。露西亞も國が大きいから十里二十里行つても一軒家も見ぬ位であつて、さう云ふ廣い土地も其大きな機械で以て今に大農を遣らうと思つて居るのであるが、併しそれならば日本では遣る目途が付かぬのであるかと云ふと、是も先程申した通り小農を保護すると云ふことであつて、小農がいきなり大農になる法があると云ふのです。それは何であるかと云ふと、即ち組合である。即ち今日の歐羅巴の傾は大資本を以て大農を遣るか、左なくば小農聯合組合の方法で遣ると云ふのであつて、小農の聯合組合乃ち社會改良になると思ふのであります。今日は是で止めます。明日は組合のことに就て御話を致します。今言ふ通り素人話で、ホンの旅行記をば拔萃して御話をするやうなものでありますし上に、且つ時間が忙がしくて十分盡しませぬので御氣の毒に存じます。

第二章　農事改良の經濟的方面

今日は既に三回目になりましてございまするが、昨日御話を致した所は、是から後に農業と云ふものはどうして見ても追々と學問の力を借りて所謂合理的と云ふことにして行かなければならぬ。さうすれば今までの出來の足りないと云ふやうなことは心配するには及ばぬので、ブルドーなどいふ學者の說に依れば、今から人口が十倍になつてもまだ十分に養ふことが出來ると云ふことを說いて居ると云ふことをお話しました。尙ほそれと一所に農業の上にも色々大仕掛の機械を使ふやうになれば、手を省いて、さうして收穫が多くなると云ふことも御話しました。併ながら

斯く申しますることは一寸考へて見ますると、日本のやうな小仕掛けの農業をして居る所では或は出來悟くはあるまいかと云ふ疑があるのです。それは御尤もな疑問でありまして、西洋では今日は農業は追々と所謂大農、卽ち大きな仕掛になつて居りますし、又それと同時に農業は所謂資本主義、卽ち大きな資本を掛けて色々工夫をすると云ふ風にならなければ出來ないのであると云ふ樣に傾いて參つて居るのでございます。併しながら一方にさう云ふ傾があると同時に矢張り歐羅巴に於きましても日本と同じことに小さい農民も大に保護されて居るのであります。小さい農民を悉く打倒して仕舞つて小作にでもして仕舞ふと云ふことは、彼國でもそれは言ふべくして行はれぬことであるのです。そこで一面には學問の力を借り又機械を利用することの爲めには、大きな資本を以て資本主義で遣らなければならぬと云ふことが現はれて來て居ると同時に、一面には小さい農を保護して行かなければならぬ、小農の保護論と云ふことが歐羅巴に於ても盛に唱へられて居るのでございます。で、今日は小農保護論の方の講義をすることに致して居ります。

偖此事を御話致しますには先づ歐羅巴各國に於ける農民の工合を少し御話をして見ることが御參考になると思ひますが、第一番に御話を致したいのは佛蘭西でございます。此の佛蘭西と云ふ國は是は早く開けた國であるだけに極く小農國でございます。それはどう云ふ風になつて居るかと申しますと、昨日も御話したやうに小農と言つても日本とは作り方が違ふから大きさも違ひますが、大體の所で小農と云ふのは一人前に五町歩以下を持つて居るものを小農と稱するのが今日の通例であります。日本で言へば無論相當に大きな地面でありませうが、向ふでは先づ五町歩を持つて居る人は小農と申します。そこで小農がどれ位あるかと云ふと、佛蘭西中で田地を筆數に分けて見ますると云ふと、五百六十七萬何某と云ふ筆數になるさうでございます。五百六十七萬幾らと云ふ中で四百萬は右申した小農であるのです。それから殘つた中で百二十萬は是が中農と云ふことになつて居ります。中農と云ふのは五町歩以上二十町歩位までを持つものを稱するのでありまして、是も矢張り大多數を占めて居る。そこで四百萬に百二十萬を合はせて五百二十萬でありますから、僅かに殘りの四十萬だけがまあ大農と云ふことになつて居ると云ふ次第と思ひます。又或る別な人が計算しました所に依りますと、佛蘭西は筆數が八百萬であると云ふことを言ふ人があります。是は計算の仕方が違つて居るのでせうが、八百萬の中で四百五十萬筆までは矢張り小農であると云ふことを申して居ります。

孰れにしても佛蘭西が如何に小さい百姓の國であるかと云ふことはそれで御分りであると思ひます。それから次に御話を致しますのは白耳義であります。白耳義と云ふ國も矢張り總てが佛蘭西と似て居ります。唯一部分、白耳義の北の方にスペーと云ふ所があつて、其處だけは非常に大仕掛になつて出來てあるけれども、其處を除いた外は大體皆小農でありまして、算用の覺え易い樣に申しますと、百分の九十卽ち九割は皆五町歩以下の小農であります。又其後に殘つた十の中で八割までは其れは二十町歩以下の中農であります。でありますから僅かに百分の二だけが二十町歩以上を持つて居る大農であると云ふことであるので、是は名高い小農國であります。世界中で小農國と申しましたならば、事に依れば白耳義が第一でありませう。特に驚きなすことは四十萬人だけは半町歩だけしか持つて居らぬ。愈〻以て白耳義の小農國たることを明かにして居ります。其次に御話を致しますことは獨逸であります。獨逸と云ふ國は先日も御話致しましたやうに、南の方の獨逸と北の方の獨逸は萬事が變つて居ります。農業にしても北の方には大農が多くございまするけれども、南の方は小農が多くございます。總高で申して見ますと矢張り佛蘭西と同じことです。五百二十七萬なにがしと云ふ筆數の中で、矢張り四百萬までは五町歩以下の小百姓であると云ふのですから、前の佛蘭西のに比べると略ぼ同じである。殊に其四百萬の中で二百五十萬人までは一町歩以下の最小農であると云ふことを申して居ります。さう云ふ風でありますから、獨逸特に南の方は矢張り佛蘭西同樣に小農國であると云ふことを言ふことが出來る。それから伊太利の方を取調べて見ましたが、伊太利も或る部分例へばシシリーと云ふ島の方などを除けましたならば非常な小農國でございます。丁抹に參つて取調べました。丁抹では勿論叮寧に調べましたので、大農、中農、小農はどんな暮しをして居るのであるかと云ふやうに、一々農家に這入つて住居の模樣までも取調べました。所が結局丁抹も小農が多いと云ふことを申すことが出來ます。右樣な次第であるから、昨日の話に依つて見ると、新らしい學問を利用し、新らしい機械を利用するには大農でなければならぬ、資本主義でなければ行かぬと申しましたが、歐羅巴の十中の八九までは依然として小農であるとしますれば、小農を打破すると云ふことは到底出來ないのであります。仍て今日は歐羅巴の農業界に於きましては小農の保護論が追々と盛になつて來て居ると云ふことを申します。

で、今日は小農の保護に就いてどう云ふ風な議論があるかと云ふことを、少し學問

上から詳しく御話して見やうと思ふのでありますが、それに就て一寸御斷りをしておかなければならぬことがある。今此處に掲げます學者共は皆多少社會主義に關係ある人の名であるので私が倉敷講演會に於て社會主義の人の名を掲げて學校教員其外の人に向つて危險思想を鼓吹したと云ふやうな風に思はれては甚だ迷惑をする。勿論私は決して社會主義を勸めるではない。一體日本の人はまだ社會主義の眞面目を誤解して居るのであつて、實は今日政府が奬勵して遣つて居る事も一面は國家社會主義から出て居るのである。例へば組合などと云ふものも或は一種廣義の社會主義からとも謂へぬでもない。社會主義と云ふと直ぐ大逆事件を起すことのやうに思ふけれども、それは社會主義の極端なるものか或は無政府主義かであつて、實は農事改良と云ふのも一種の社會主義否社會政策なのです。從つて農事改良を言ふにはどうしても所謂社會主義の人の說をも言はなければならぬ。否それ等の說をも聞いて政府も遣つて居るのである。だから私もずるく言へば社會主義は云々と言はぬで或る經濟學者の說に依ればと言つたらば好いが、何もそんなにしてまで學者が嘘を言ふ必要もあるまい。社會主義とても大體は決して社會を惡るくしやうと思ふて言ふのではない、社會を良くしやうと說くのである。即ち農民を如何にすべきか、工業を如何にすべきか、それが所謂溫和社會主義の論ずる社會經濟、社會政策である。社會主義と謂ふも畢竟社會經濟を論ずる一の論じ方であるのですから、決して大逆事件などと關係するとのみが社會主義でない。尤も斯く申せばとて私自身は社會主義ではない。私は何主義であるかと云ふことは講義をして行く中に自ら分る。私は敢て社會主義に贊成するのでない。此等の人は斯う言ふけれど、自分は斯う思ふのだと言はんとするのであるから、大丈夫御心配には及びませぬ。私が社會主義學者の話をしたからと言つて、警察へ驅け附けて、谷本が今社會主義の演說を遣つて居りますと言つて周章てるに及ばぬ。二三十分位聞いて居ればどう云ふことか分りますから暫く御辛抱を願ひます。偖其社會主義の一番親玉と云ふ人はそれはどう云ふ人かと云ふと獨逸のカールマックスと云ふ人であるのです。是は經濟學の研究者は知らなければならぬ人である。此人とても大逆事件などは企てまい、兎に角經濟學者として見んとするのです。古いアダムスミスやミルなどの云ふことばかりを今更言つた所が追附かぬ。此カールマックスが農業に對する意見は、是れからの農業はどうしても大農主義でなければならぬと云ふことを言ふのである。即ち其の有名なる著述の『資本論』と云ふもの

からして農業は全く大農主義にならなければならぬ、大農主義に遣つて行くことが農事の改良であると云ふ意見である。しかしながら是れには非難があるのであります。昨日も言ふ通り總て學者が議論を立てると云ふことも其の境遇に支配せらるゝものであつて、カールマックスと云ふ人は元來北獨逸の方の狀態を見たのである。北獨逸は先刻も言ふやうに大農主義の所である。大きな百姓の行はれて居る所である。是と同時に又何時かも申しましたやうに、北獨逸の方は農業よりも工業が盛な所である。工業は今は皆大きな資本を以つて大きな工場を興して大仕掛に遣ると云ふことが新傾向であるから、カールマックスの經濟論は農業論にまでも工業論が及んで居るのである。換言すれば工業經濟と同じ原理を以て農業の經濟を遣らうとして居るのであるから、其說は我國などに於ては採ることは出來ないことも、あるのです。所が同じ社會主義にもう一人豪傑が居るのであります。それは有名なるベルンスタインと云ふ人である。是は溫和社會主義と言つて恐ろしい人ではない。所謂近代經濟學の大家である。此ベルンスタインと云ふ人はカールマックスと反對で、どうして見ても農民は小仕掛けて遣らなければならぬ。工業と農業と云ふことは原則上違つて居るものである。だから小農で遣らなければならぬのである。即ち工業に行ふ所の法律と別に農民の爲めにした所の法律が出來て、小農を保護して行かなければならぬと云ふことを言ふのである。だから同じ社會主義經濟論の間にも大農論があり小農論がある。農業を工業と同一視する人と又別に視る人とあると云ふことが分る。此二つの議論は獨逸では頻に戰はされて居る。獨逸には屢〻社會主義の戰がある。戰と云つても騷亂がある譯ではない。會議で、昨年などは鐵道を國有にするかどうかと云ふ議論であつた。私も一寸這入つて聞かうかと思つたが、社會主義の會議に這入つて聽いたと云ふことで危險人物視されても困るから、危きに近寄らずて這入らなかつた。けれども新聞に書いてあるから讀む位のことは勝手である。兎に角昨年は鐵道國有の可否が社會主義の大會の問題であつた。即ち社會主義と云つても一寸も大逆事件と云ふことではないのである。さう云ふ風で社會主義の學會があつて、其學會毎に始終色々と議論をして居るのであるが、先づ强いて社會主義の怖わい學者を言ふとベベルと云ふ人である。是は激しい人の樣である。激しいと言つても何も必ずしも大逆事件などを計畫するにも當らぬ。それからリーブクネヒト、是等の人の議論は何處までも大農論を實行しやうと云ふのであります。それは何時も北獨逸を代表する人であります。南の方の

獨逸には其反對にホルマルと云ふ人などがあつて、其人が盛に小農論を主張して、學會毎に議論があると云ふことを、新聞や雜誌で讀んだことがあります。それは社會經濟學說上の議論であります。佛蘭西の方に立入つて申しましても矢張り獨逸と同じことであります。佛蘭西に於きましてはアンゼルと云ふ名前を聞々聞きます。此人は大體カールマックスと同じ議論でありまして、卽ち大農論を主張するのであります。佛蘭西の農民を改良しやうと云ふには大農にしなければならぬと云ふことを言ふのでございます。併し佛蘭西にも其反對論があるのであつて、佛蘭西の社會論者は皆大農主義であるなどと云ふのは、一部分の說しか知らぬ人が言ふことです。卽ちもう一人此處に竝べて書くべき人はジョーレーと云ふ人であつて、是は餘り日本には聞えて居りませぬが、此人は何處までも小農を主張すると云ふ人であるから、同じ佛蘭西の社會主義の經濟論を讀んで見ても、大農論と小農論が二つあると云ふことが分るのであります。勿論社會主義者を學べとは言ひませぬ。

それから又段々御話をせねばならぬやうになつて來ますが、其次に御話しますのは先日來毎日申して居ります此度白耳義で開かれました卽ち第一回萬國農業團體會に於ての說でございますが、此農業團體會議はどう云ふ人が開いたのであるかと云ふと、白耳義の農業熱心の衆議院議員のチボーと云ふ人が發起したのである。何だか掏摸のやうな人が開いたと思はれても困るが、決して掏摸でも何でも無い。此チボーと云ふ人が非常に熱心な農事改良論者であつて、此人が熱血を注いで農民の爲めに叫んだのであるが、曰く「由來白耳義國は小農國である。併し此小農が繁昌しなければ白耳義は矢張り繁昌せぬのである。吾々が白耳義の農業を盛にすると云ふのは小農が追々と亡びるのを保護して行くと云ふことである。吾々の會合の目的は何處までも小農の保護である」と云つて頻に叫んだことなどは、卽ち其氣風を見ることが出來る。尙ほ最後に御話をしまするのはガッチー……愈〻妙な名が出て來た。此ガッチーと云ふ人は伊太利の農事改良には非常に熱心な人であると云ふことは昨日もお話したが、ガッチー氏の言つて居ることは稍〻穩かである。吾々農事を改良するに一本筋で遣らうと云ふことが間違である。總てさう云ふ工合に一本筋で遣ると云ふことは實行家の忌むべきことである。今後の農事改良主義は一途に出てずして二途にあるのであると云ふことを言ふて居るのであります。其二筋道と云ふのはどうかなれば大農の人は宜しく資本主義で遣るが宜しい……大きな資本を用ゐて大きな機械を使ふてどん〳〵遣るが宜しい。それから總て小農の人